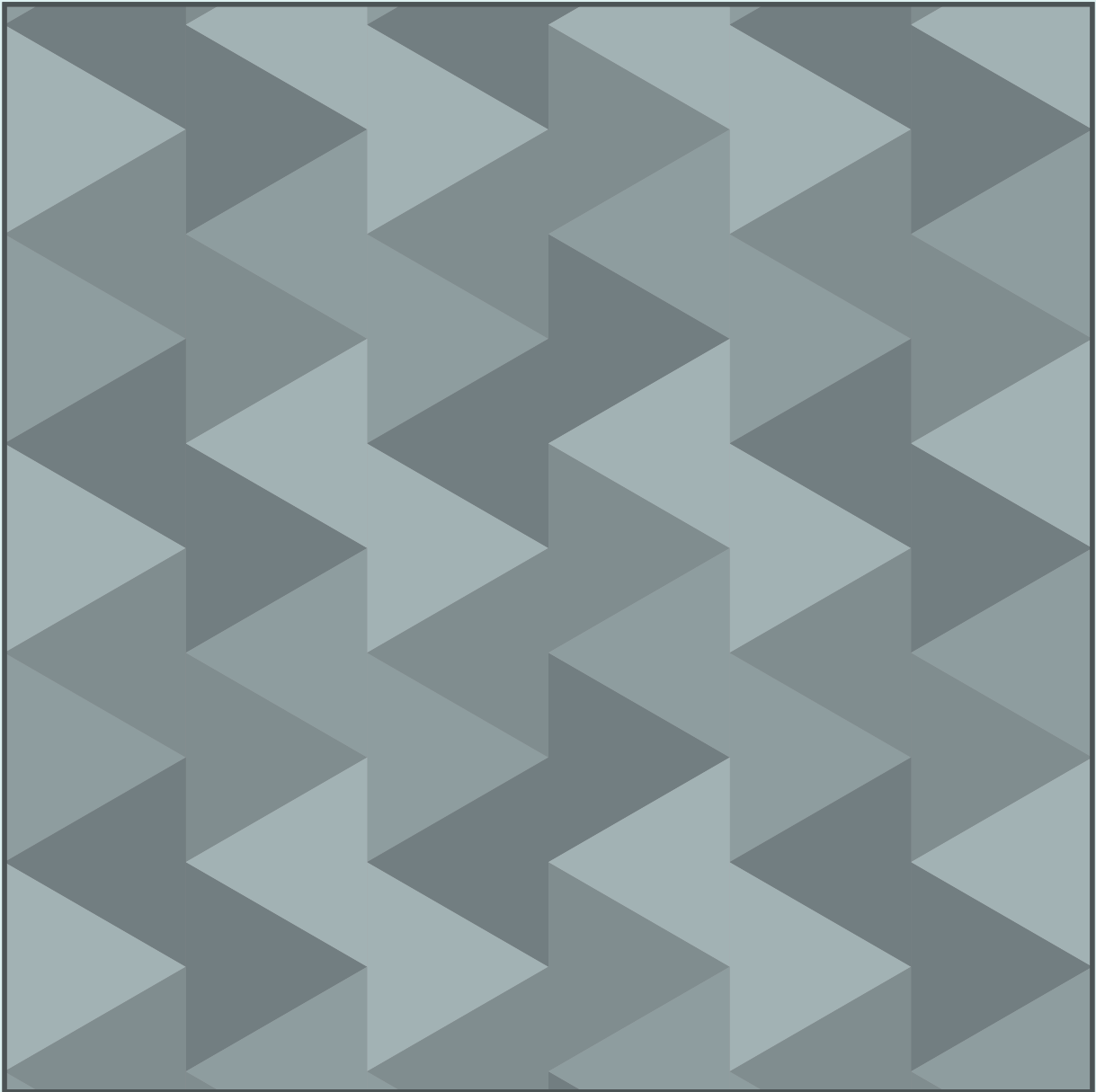

2019年度

シラバス

フランス語学科



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

獨協大学

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

【シラバスの見方】

1. 目次について

①シラバスページの検索方法

ページ端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。

目次の科目は、授業科目表(学則別表)と同じ順序で掲載しています。

※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合があります。ご注意ください。

②履修できない科目

「履修不可」の欄に入学年度・所属学部・学科名等が記されている場合は、該当者はその科目を履修することができません。

〈略称説明〉

外：外国語学部

養：国際教養学部

経：経済学部

独：ドイツ語学科

養(*1)：国際教養学部、スペイン語履修者

済：経済学科

英：英語学科

養(*2)：国際教養学部、中国語履修者

営：経営学科

仏：フランス語学科

養(*3)：国際教養学部、韓国語履修者

環：国際環境経済学科

交：交流文化学科

法：法学部

律：法律学科

国：国際関係法学科

総：総合政策学科

免：2013年度以降入学の教職課程登録者

2. シラバスページの見方(右図参照)

①入学年度

②入学年度に対応した科目名

③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。

授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

⑤到達目標

⑥事前・事後学修の内容

⑦授業で使用するテキスト

⑧授業で使用する参考文献

⑨評価方法

①	②	担当者
講義目的、講義概要		授業計画
③	④	
春学期		
到達目標	⑤	
事前・事後学修の内容	⑥	
テキスト	⑦	
参考文献	⑧	
評価方法	⑨	

①	②	担当者
講義目的、講義概要		授業計画
③	④	
秋学期		
到達目標	⑤	
事前・事後学修の内容	⑥	
テキスト	⑦	
参考文献	⑧	
評価方法	⑨	

※「全学総合講座」および一部の科目は、記載方法が異なる場合があります。

3. 注意事項

①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。

必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』を確認してください。

②定員

「全学共通授業科目」は定員を設けています。『授業時間割表』の「定員」の欄を参照してください。

③集中講義

集中講義を伴うスポーツ・レクリエーション科目は上・下両段に記載してあります。

開講学期に注意してください。

— 総 合 目 次 —

2009 年度以降入学者用目次

-----2

外国語学部共通科目（2006 年度以降入学者用）

-----6

担当者別授業内容

-----7

フランス語学科 授業科目(2009年度以降入学者用 目次)

学科基礎科目

09年度以降入学者用

開講科目名称	担当者	開講 学期	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス語Ⅰ(文法)	授業時間割表を参照してください。	春	1	1	全	7
フランス語Ⅱ(文法)		秋	1	1	全	7
フランス語Ⅰ(講読)既修者のみ	森井 良	春	1	1	全	8
フランス語Ⅱ(講読)既修者のみ	森井 良	秋	1	1	全	8
フランス語Ⅰ(総合)	授業時間割表を参照してください。	春	1	1	全	9
フランス語Ⅱ(総合)		秋	1	1	全	9
フランス語Ⅰ(TP) 既修者のみ	江花 輝昭	春	1	1	全	10
フランス語Ⅱ(TP) 既修者のみ	江花 輝昭	秋	1	1	全	10
フランス語Ⅰ(会話)未修者のみ	授業時間割表を参照してください。	春	1	1	全	11
フランス語Ⅱ(会話)未修者のみ		秋	1	1	全	11
フランス語Ⅰ(LL)		春	1	1	全	12
フランス語Ⅱ(LL)		秋	1	1	全	12
フランス語Ⅲ(文法)	授業時間割表を参照してください。	春	1	2	全	13
フランス語Ⅳ(文法)		秋	1	2	全	13
フランス語Ⅲ(講読)	G. ヴェスィエール	春	1	2	全	14
フランス語Ⅳ(講読)	G. ヴェスィエール	秋	1	2	全	14
フランス語Ⅲ(講読)	清水 雄大	春	1	2	全	15
フランス語Ⅳ(講読)	清水 雄大	秋	1	2	全	15
フランス語Ⅲ(講読)	竹内 久雄	春	1	2	全	16
フランス語Ⅳ(講読)	竹内 久雄	秋	1	2	全	16
フランス語Ⅲ(講読)	阿部 明日香	春	1	2	全	17
フランス語Ⅳ(講読)	阿部 明日香	秋	1	2	全	17
フランス語Ⅲ(講読)	野澤 丈二	春	1	2	全	18
フランス語Ⅳ(講読)	野澤 丈二	秋	1	2	全	18
フランス語Ⅲ(総合)	授業時間割表を参照してください。	春	1	2	全	19
フランス語Ⅳ(総合)		秋	1	2	全	19
フランス語Ⅲ(TP) 既修者のみ	堀 晋也	春	1	2	全	20
フランス語Ⅳ(TP) 既修者のみ	堀 晋也	秋	1	2	全	20
フランス語Ⅲ(会話)未修者のみ	授業時間割表を参照してください。	春	1	2	全	21
フランス語Ⅳ(会話)未修者のみ		秋	1	2	全	21
フランス語Ⅲ(構文)	井上 美穂	春	1	2	全	22
フランス語Ⅳ(構文)	井上 美穂	秋	1	2	全	22
フランス語Ⅲ(構文)	木田 剛	春	1	2	全	23
フランス語Ⅳ(構文)	木田 剛	秋	1	2	全	23
フランス語Ⅲ(構文)	田桐 正彦	春	1	2	全	24
フランス語Ⅳ(構文)	田桐 正彦	秋	1	2	全	24
フランス語Ⅲ(構文)	竹内 久雄	春	1	2	全	25
フランス語Ⅳ(構文)	竹内 久雄	秋	1	2	全	25
フランス語Ⅲ(構文)	富塚 真理子	春	1	2	全	26
フランス語Ⅳ(構文)	富塚 真理子	秋	1	2	全	26

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス芸術文化入門Ⅰ	根木 昭英	春	木1	2	1		27
フランス芸術文化入門Ⅱ	根木 昭英	秋	木1	2	1		27
フランス現代社会入門Ⅰ	横地 卓哉	春	水3	2	1		28
フランス現代社会入門Ⅱ	横地 卓哉	秋	水3	2	1		28

学科共通科目

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
総合フランス語Ⅰ	授業時間割表を参照してください。	春		2	3	全	29
総合フランス語Ⅱ		秋		2	3	全	29
フランス語文章表現法Ⅰ	Ph. ヴァネ	春	月1	2	3		30
フランス語文章表現法Ⅱ	Ph. ヴァネ	秋	月1	2	3		30
フランス語文章表現法Ⅰ	Ch. ペリセロ	春	火2	2	3		31
フランス語文章表現法Ⅱ	Ch. ペリセロ	秋	火2	2	3		31
フランス語文章表現法Ⅰ	M. ミズバヤシ	春	火3	2	3		32
フランス語文章表現法Ⅱ	M. ミズバヤシ	秋	火3	2	3		32
フランス語文章表現法Ⅰ	山崎 夏絵	春	水3	2	3		33
フランス語文章表現法Ⅱ	山崎 夏絵	秋	水3	2	3		33
フランス語文章表現法Ⅰ	C. ラビニヤス	春	木2	2	3		34
フランス語文章表現法Ⅱ	C. ラビニヤス	秋	木2	2	3		34
フランス語文章表現法Ⅰ	D. ベルテ	春	金3	2	3		35
フランス語文章表現法Ⅱ	D. ベルテ	秋	金3	2	3		35
フランス語文章表現法Ⅰ	C. パジェス	春	月4	2	3		36
フランス語文章表現法Ⅱ	C. パジェス	秋	月4	2	3		36
フランス語会話Ⅰ	F. -A. メール	春	月3	2	3		37
フランス語会話Ⅱ	F. -A. メール	秋	月3	2	3		37
フランス語会話Ⅰ	M. ミズバヤシ	春	火2	2	3		38
フランス語会話Ⅱ	M. ミズバヤシ	秋	火2	2	3		38
フランス語会話Ⅰ	A. ラモン	春	火3	2	3		39
フランス語会話Ⅱ	A. ラモン	秋	火3	2	3		39
フランス語会話Ⅰ	G. ヴェスイエール	春	木3	2	3		40
フランス語会話Ⅱ	G. ヴェスイエール	秋	木3	2	3		40
フランス語会話Ⅰ	Ph. ヴァネ	春	水1	2	3		41
フランス語会話Ⅱ	Ph. ヴァネ	秋	水1	2	3		41
ビジネスフランス語Ⅰ	C. パジェス	春	月2	2	3		42
ビジネスフランス語Ⅱ	C. パジェス	秋	月2	2	3		42
上級フランス語Ⅰ	井上 美穂	春	木1	2	3		43
上級フランス語Ⅱ	井上 美穂	秋	木1	2	3		43

学科専門科目

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス語学論Ⅰ	田中 善英	春	火1	2	2		44
フランス語学論Ⅱ	田中 善英	秋	火1	2	2		44
フランス語文章理論Ⅰ	木田 剛	春	水1	2	2		45
フランス語文章理論Ⅱ	木田 剛	秋	水1	2	2		45
フランス語言語教育論Ⅰ	中村 公子	春	木2	2	2		46
フランス語言語教育論Ⅱ	中村 公子	秋	木2	2	2		46
マスメディアのフランス語Ⅰ	野澤 文二	春	金4	2	3		47
マスメディアのフランス語Ⅱ	野澤 文二	秋	金4	2	3		47
フランス語コミュニケーション各論Ⅰ	堀 晋也	春	火3	2	3		48
フランス語コミュニケーション各論Ⅱ	堀 晋也	秋	火3	2	3		48
フランス語コミュニケーション各論Ⅰ	木田 剛	春	金3	2	3		49
フランス語コミュニケーション各論Ⅱ	木田 剛	秋	金3	2	3		49
フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	横地 卓哉	春	月2	2	3		50
フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	横地 卓哉	秋	月2	2	3		50
フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	堀 晋也	春	火2	2	3		51
フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	堀 晋也	秋	火2	2	3		51
フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	田中 善英	春	金1	2	3		52
フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	田中 善英	秋	金1	2	3		52
フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	木田 剛	春	木3	2	3		53
フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	木田 剛	秋	木3	2	3		53
フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	井上 美穂	春	木2	2	3		54
フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	井上 美穂	秋	木2	2	3		54

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランスの美術Ⅰ	阿部 明日香	春	月3	2	2	交	55
フランスの美術Ⅱ	阿部 明日香	秋	月3	2	2	交	55
フランスの音楽Ⅰ	松橋 麻利	春	木2	2	2	交	56
フランスの音楽Ⅱ	松橋 麻利	秋	木2	2	2	交	56
フランスの舞台芸術Ⅰ	江花 輝昭	春	木3	2	3		57
フランスの舞台芸術Ⅱ	江花 輝昭	秋	木3	2	3		57
フランス文学史Ⅰ	筒井 伸保	春	火3	2	2		58
フランス文学史Ⅱ	筒井 伸保	秋	火3	2	2		58
フランス語圏の文学Ⅰ【2013年度以降入学者】	森井 良	春	月4	2	3		59
フランスの文学Ⅰ【2012年度以前入学者】	森井 良	秋	月4	2	3		59
フランス語圏の文学Ⅱ【2013年度以降入学者】	森井 良	春	月4	2	3		59
フランスの文学Ⅱ【2012年度以前入学者】	森井 良	秋	月4	2	3		59
フランス芸術文化各論Ⅰ	福井 憲彦	春	水2	2	3		60
フランス芸術文化各論Ⅱ	福井 憲彦	秋	水2	2	3		60
フランス芸術文化講読Ⅰ	福井 憲彦	春	月2	2	3		61
フランス芸術文化講読Ⅱ	福井 憲彦	秋	月2	2	3		61
フランス芸術文化講読Ⅰ	江花 輝昭	春	火2	2	3		62
フランス芸術文化講読Ⅱ	江花 輝昭	秋	火2	2	3		62
フランス芸術文化講読Ⅰ	阿部 明日香	春	木2	2	3		63
フランス芸術文化講読Ⅱ	阿部 明日香	秋	木2	2	3		63
フランス芸術文化講読Ⅰ	森井 良	春	木3	2	3		64
フランス芸術文化講読Ⅱ	森井 良	秋	木3	2	3		64
フランス芸術文化講読Ⅰ	M. ミズバヤシ	春	火1	2	3		65
フランス芸術文化講読Ⅱ	M. ミズバヤシ	秋	火1	2	3		65
フランス芸術文化講読Ⅰ	G. ヴェスィエール	春	金4	2	3		66
フランス芸術文化講読Ⅱ	G. ヴェスィエール	秋	金4	2	3		66
フランス芸術文化講読Ⅰ	筒井 伸保	春	水1	2	3		67
フランス芸術文化講読Ⅱ	筒井 伸保	秋	水1	2	3		67

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス地域論Ⅰ	尾玉 剛士	春	火4	2	2		68
フランス地域論Ⅱ	尾玉 剛士	秋	火4	2	2		68
フランスの歴史Ⅰ	藤田 朋久	春	月4	2	2		69
フランスの歴史Ⅱ	藤田 朋久	秋	月4	2	2		69
フランスの政治経済Ⅰ	尾玉 剛士	春	木3	2	3	交	70
フランスの政治経済Ⅱ	尾玉 剛士	秋	木3	2	3	交	70
フランスの政治経済Ⅰ	廣田 愛理	春	月2	2	3	交	71
フランスの政治経済Ⅱ	廣田 愛理	秋	月2	2	3	交	71
フランス現代思想Ⅰ	根木 昭英	春	水2	2	3		72
フランス現代思想Ⅱ	根木 昭英	秋	水2	2	3		72
フランス語圏の現代社会Ⅰ【2013年度以降入学者】	根木 昭英	春	木3	2	2		73
現代フランス論Ⅰ【2012年度以前入学者】	根木 昭英	秋	木3	2	2		73
フランス語圏の現代社会Ⅱ【2013年度以降入学者】	根木 昭英	春	木3	2	2		73
現代フランス論Ⅱ【2012年度以前入学者】	根木 昭英	秋	木3	2	2		73
フランス現代社会各論Ⅰ	福井 憲彦	春	水4	2	3		74
フランス現代社会各論Ⅱ	福井 憲彦	秋	水4	2	3		74
フランス現代社会講読Ⅰ	廣田 愛理	春	木2	2	3		75
フランス現代社会講読Ⅱ	廣田 愛理	秋	木2	2	3		75
フランス現代社会講読Ⅰ	藤田 朋久	春	火3	2	3		76
フランス現代社会講読Ⅱ	藤田 朋久	秋	火3	2	3		76
フランス現代社会講読Ⅰ	尾玉 剛士	春	水1	2	3		77
フランス現代社会講読Ⅱ	尾玉 剛士	秋	水1	2	3		77
フランス現代社会講読Ⅰ	福井 憲彦	春	月3	2	3		78
フランス現代社会講読Ⅱ	福井 憲彦	秋	月3	2	3		78
フランス現代社会講読Ⅰ	Ph. ヴァネ	春	火2	2	3		79
フランス現代社会講読Ⅱ	Ph. ヴァネ	秋	火2	2	3		79
フランス現代社会講読Ⅰ	根木 昭英	春	金3	2	3		80
フランス現代社会講読Ⅱ	根木 昭英	秋	金3	2	3		80

交流文化論

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修不可	ページ
交流文化論(航空産業論)	井上 泰日子	春	月3	2	2	交・養・経・法	81
交流文化論(ツーリズム特殊講義 (紛争事例から学ぶ旅行契約法入門))	花本 広志	春	月3	2	2	交・養・経・法	82
交流文化論(ツーリズム・マネジメント論)	鈴木 涼太郎	春	火3	2	2	交・養・経・法	83
交流文化論(表象文化論)	高橋 雄一郎	春	火4	2	2	交・養・経・法	84
交流文化論(開発文化論)	北野 収	春	水1	2	2	交・養・経・法	85
交流文化論(食の文化論)	北野 収	春	水2	2	2	交・養・経・法	86
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (グローバル化と子ども))	堀 芳枝	春	水2	2	2	交・養・経・法	87
交流文化論(トランスナショナル・メディア論)	山口 誠	春	木1	2	2	交・養・経・法	88
交流文化論(ツーリズム人類学)	須永 和博	春	木4	2	2	交・養・経・法	89
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (東南アジアのナショナリズム、民主主義と平和))	堀 芳枝	春	金1	2	2	交・養・経・法	90
交流文化論(国際会議・イベント事業論)	井上 泰日子	秋	月1	2	2	交・養・経・法	91
交流文化論(ツーリズム政策論)	井上 泰日子	秋	月3	2	2	交・養・経・法	92
交流文化論(ツーリズム文化論)	鈴木 涼太郎	秋	火3	2	2	交・養・経・法	93
交流文化論(地域開発論)	北野 収	秋	水1	2	2	交・養・経・法	94
交流文化論(トランスナショナル社会学)	北野 収	秋	水2	2	2	交・養・経・法	95
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (グローバル経済とジェンダー))	堀 芳枝	秋	水2	2	2	交・養・経・法	96
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (「観る」ことの文化史))	山口 誠	秋	木1	2	2	交・養・経・法	97
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (シティズンシップ教育論))	花本 広志	秋	木3	2	2	交・養・経・法	98
交流文化論(旅行・宿泊産業論)	井上 泰日子	秋	木4	2	2	交・養・経・法	99
交流文化論(オルタナティブ・ツーリズム論)	須永 和博	秋	木4	2	2	交・養・経・法	100
交流文化論(ツーリズム特殊講義 (ツーリズム・メディア論))	山口 誠	秋	金1	2	2	交・養・経・法	101

外国語学部共通科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
総合講座	山口 誠	春	水3	2	1	養・経・法	103
総合講座	堀 芳枝	秋	水3	2	1	養・経・法	103
総合講座	永本 哲也	春	月3	2	1	養・経・法	104
総合講座	有信 真美菜	秋	木2	2	1	養・経・法	104
情報科学概論a	呉 浩東	春	月2	2	1	養・経・法	105
情報科学概論b	休講						
(入門)情報科学各論	各担当教員						
(情報処理演習)[総合]	金子 憲一	春	月3	2	1	養・経・法	106
(情報処理演習)[総合]	金子 憲一	春	月4	2	1	養・経・法	106
(情報処理演習)[総合]	金子 憲一	春	木3	2	1	養・経・法	106
(情報処理演習)[英語]	黄 海湘	春	水5	2	1	養・経・法	107
(情報処理演習)[英語]	黄 海湘	秋	水5	2	1	養・経・法	107
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	春	火2	2	1	養・経・法	108
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	金2	2	1	養・経・法	108
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	金3	2	1	養・経・法	108
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	秋	火2	2	1	養・経・法	108
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	金2	2	1	養・経・法	108
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	金3	2	1	養・経・法	108
(応用)情報科学各論	各担当教員						
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	秋	月2	2	1	養・経・法	109
(Excel・プレゼンテーション中級)	金子 憲一	秋	木3	2	1	養・経・法	109
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	秋	月4	2	1	養・経・法	110
(Word中級)	松山 恵美子	春	月1	2	1	養・経・法	111
(Word中級)	松山 恵美子	秋	月1	2	1	養・経・法	111
(Word中級)	金子 憲一	秋	月3	2	1	養・経・法	111
(Word中級)	金子 憲一	秋	月5	2	1	養・経・法	111
(Office中級)	松山 恵美子	春	月2	2	1	養・経・法	112
(Office中級)	休講						
(言語情報処理1)【2015年度以前入学者】/ (コーパス言語学a)【2016年度以降入学者】	休講						
(言語情報処理2)【2015年度以前入学者】/ (コーパス言語学b)【2016年度以降入学者】	休講						
(HTML)情報科学各論	各担当教員						
(HTML初級)	金子 憲一	春	月5	2	1	養・経・法	113
(HTML初級)	金子 憲一	春	木4	2	1	養・経・法	114
(HTML中級)	金子 憲一	秋	木4	2	1	養・経・法	114
経済原論a	休講						
経済原論b	休講						
社会心理学a	休講						
社会心理学b	休講						

※定員のある科目はオンライン登録による抽選となります。必ず抽選結果を確認してください。
 ※「情報科学各論(情報処理演習)」は言語が異なる場合でも重複履修はできません。

フランス語学科シラバス

09 年度以降	フランス語Ⅰ（文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
1年間でフランス語文法の概略を学ぶことを目的としています。未修クラスは週2回、既修クラスは週1回授業が行われます。使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に各クラスの担当教員より説明があります。		1. イントロダクション・音と綴り 2. 基本的な動詞の活用（avoir, être, 第一群規則動詞） 3. 名詞・冠詞・形容詞 4. 疑問文 5. 否定文 6. 指示形容詞・所有形容詞・数形容詞 7. 直説法現在の活用（第二群規則動詞） 8. 直説法現在の活用（不規則動詞） 9. 命令法 10. 疑問詞 11. 近接未来と近接過去 12. 複合過去 13. 半過去・大過去 14. まとめ ※クラスによって使用教材と進度が異なるため、各回の内容はここに挙げた項目と異なることがあります。	
到達目標	フランス語の文法と時制、代名詞といった基礎的な文法項目を理解し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。		
テキスト	文法の教科書は担当教員から指示があります。		
参考文献	必要に応じて各担当教員から指示。		
評価方法	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。		

09 年度以降	フランス語Ⅱ（文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
1年間でフランス語文法の概略を学ぶことを目的としています。未修クラスは週2回、既修クラスは週1回授業が行われます。使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に各クラスの担当教員より説明があります。		1. 単純未来・前未来 2. 人称代名詞・所有代名詞 3. 関係代名詞（qui, que） 4. 強調構文・感嘆文 5. 比較構文 6. 能動態と受動態 7. 代名動詞 8. 非人称構文・不定詞構文 9. ジェロンディフ 10. 指示代名詞・疑問代名詞・中性代名詞 11. 関係代名詞（où, dontなど） 12. 条件法 13. 接続法 14. まとめ ※クラスによって使用教材と進度が異なるため、各回の内容はここに挙げた項目と異なることがあります。	
到達目標	フランス語の文法と時制、代名詞といった基礎的な文法項目を理解し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。		
テキスト	文法の教科書は担当教員から指示があります。		
参考文献	必要に応じて各担当教員から指示。		
評価方法	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。		

09 年度以降	フランス語Ⅰ（講読）（既修クラスのみ履修）	担当者	森井 良
講義目的、講義概要		授業計画	
アルベール・カミュの『異邦人 <i>L'Étranger</i> 』（1942）を読みます。世界で最も読まれているフランス文学、トップのひとつがこれです（あともうひとつは……みんな知ってるアレ☆）。なぜこの作品を選んだかという、内容の素晴らしさもありますが、文法が簡単だからです。複合過去がわかれば、とりあえずは読み通せます。がんばって読み進めましょう。		1. オリエンテーション 2. 『異邦人』を読む（第一部） 3. 同上（第一章） 4. 同上（第一章のつづき） 5. 同上（第二章） 6. 同上（第二章のつづき） 7. 同上（第三章） 8. 同上（第三章のつづき） 9. 同上（第四章） 10. 同上（第四章のつづき） 11. 同上（第五章） 12. 同上（第五章のつづき） 13. 同上（第六章） 14. 理解度の確認	
到達目標	文法事項を踏まえて体系的な文章を講読し、フランス語の基礎的な語彙や表現を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中あてますので、事前の予習は必須です。		
テキスト	Albert Camus, <i>L'Étranger</i> , Gallimard, « folio »		
参考文献	授業中に紹介します。		
評価方法	教場テスト 60%、平常点（出席、訳読、授業への参加度） 40%		

09 年度以降	フランス語Ⅱ（講読）（既修クラスのみ履修）	担当者	森井 良
講義目的、講義概要		授業計画	
前期にひきつづきカミュの『異邦人』を読み進めます。一冊の本を原語で読み通す、という経験は自信につながります。小説の内容はちょい重いけど（！）、根気よくいきましよう。		1. オリエンテーション 2. 『異邦人』を読む（第二部） 3. 同上（第一章） 4. 同上（第一章のつづき） 5. 同上（第二章） 6. 同上（第二章のつづき） 7. 同上（第三章） 8. 同上（第三章のつづき） 9. 同上（第四章） 10. 同上（第四章のつづき） 11. 同上（第五章） 12. 同上（第五章のつづき） 13. 同上（終局） 14. 理解度の確認	
到達目標	文法事項を踏まえて体系的な文章を講読し、フランス語の基礎的な語彙や表現を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中あてますので、事前の予習は必須です。		
テキスト	Albert Camus, <i>L'Étranger</i> , Gallimard, « folio »		
参考文献	授業中に紹介します。		
評価方法	教場テスト 60%、平常点（出席、訳読、授業への参加度） 40%		

09 年度以降	フランス語Ⅰ（総合）	担当者	各担当教員																																													
講義目的、講義概要		授業計画																																														
この授業はフランス語の実力を総合的に養うことを目的としています。授業は週2回あり（同日2コマ連続）、未修クラスは「LL」、「会話」と同じ教科書Amical 1を用います。既修クラスでは「LL」と同じTotem 2を使います。 未修クラスでは特に文法や語彙の修得に中心を置きます。 各課の最初にあるdialogueの理解、関連した文法事項の学習、口頭練習、練習問題を通して、フランス語の基礎となる知識と基本的な表現を確実に身につけてゆきます。 既修クラスではネイティブ・スピーカーが授業を担当し、会話を中心に、総合的な運用能力を身につけることを目標にします。 授業の進め方については、各担当教員から説明があります。		<table><thead><tr><th></th><th><i>Amical 1</i></th><th><i>Totem 2</i></th></tr></thead><tbody><tr><td>1.</td><td>Leçon 0 pp. 8-10</td><td>Leçon 1</td></tr><tr><td>2.</td><td>Leçon 1 pp. 12-15</td><td>Leçon 2</td></tr><tr><td>3.</td><td>Leçon 2 pp. 16-19</td><td>Leçon 3</td></tr><tr><td>4.</td><td>Leçon 3 pp. 20-21</td><td>Leçon 4</td></tr><tr><td>5.</td><td>Leçon 3 pp. 22-23, Leçon 4 pp. 24-25</td><td>Leçon 5</td></tr><tr><td>6.</td><td>Leçon 4 pp. 26-27</td><td>Leçon 6</td></tr><tr><td>7.</td><td>Révision p. 28</td><td>Révision Leçon 1-6</td></tr><tr><td>8.</td><td>Leçon 5 pp. 30-31</td><td>Leçon 7</td></tr><tr><td>9.</td><td>Leçon 5 pp. 32-33, Leçon 6 pp. 34-35</td><td>Leçon 8</td></tr><tr><td>10.</td><td>Leçon 6 pp. 36-37</td><td>Leçon 9</td></tr><tr><td>11.</td><td>Leçon 7 pp. 38-39</td><td>Leçon 10</td></tr><tr><td>12.</td><td>Leçon 7 pp. 40-41, Leçon 8 pp. 42-43</td><td>Leçon 11</td></tr><tr><td>13.</td><td>Leçon 8 pp. 44-45</td><td>Leçon 12</td></tr><tr><td>14.</td><td>Révision p. 46</td><td>Révision Leçon 7-12</td></tr></tbody></table> ※クラスによって多少進度に差があります。			<i>Amical 1</i>	<i>Totem 2</i>	1.	Leçon 0 pp. 8-10	Leçon 1	2.	Leçon 1 pp. 12-15	Leçon 2	3.	Leçon 2 pp. 16-19	Leçon 3	4.	Leçon 3 pp. 20-21	Leçon 4	5.	Leçon 3 pp. 22-23, Leçon 4 pp. 24-25	Leçon 5	6.	Leçon 4 pp. 26-27	Leçon 6	7.	Révision p. 28	Révision Leçon 1-6	8.	Leçon 5 pp. 30-31	Leçon 7	9.	Leçon 5 pp. 32-33, Leçon 6 pp. 34-35	Leçon 8	10.	Leçon 6 pp. 36-37	Leçon 9	11.	Leçon 7 pp. 38-39	Leçon 10	12.	Leçon 7 pp. 40-41, Leçon 8 pp. 42-43	Leçon 11	13.	Leçon 8 pp. 44-45	Leçon 12	14.	Révision p. 46	Révision Leçon 7-12
	<i>Amical 1</i>	<i>Totem 2</i>																																														
1.	Leçon 0 pp. 8-10	Leçon 1																																														
2.	Leçon 1 pp. 12-15	Leçon 2																																														
3.	Leçon 2 pp. 16-19	Leçon 3																																														
4.	Leçon 3 pp. 20-21	Leçon 4																																														
5.	Leçon 3 pp. 22-23, Leçon 4 pp. 24-25	Leçon 5																																														
6.	Leçon 4 pp. 26-27	Leçon 6																																														
7.	Révision p. 28	Révision Leçon 1-6																																														
8.	Leçon 5 pp. 30-31	Leçon 7																																														
9.	Leçon 5 pp. 32-33, Leçon 6 pp. 34-35	Leçon 8																																														
10.	Leçon 6 pp. 36-37	Leçon 9																																														
11.	Leçon 7 pp. 38-39	Leçon 10																																														
12.	Leçon 7 pp. 40-41, Leçon 8 pp. 42-43	Leçon 11																																														
13.	Leçon 8 pp. 44-45	Leçon 12																																														
14.	Révision p. 46	Révision Leçon 7-12																																														
到達目標	フランス語の基礎的な文法、語彙、文語・口語表現を総合的に習得し、運用できるようにする。																																															
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。																																															
テキスト	未修クラス：Amical 1 既修クラス：Totem 2																																															
参考文献	必要に応じて各担当教員から指示。																																															
評価方法	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。																																															

09 年度以降	フランス語Ⅱ（総合）	担当者	各担当教員																																													
講義目的、講義概要		授業計画																																														
この授業はフランス語の実力を総合的に養うことを目的としています。授業は週2回あり（同日2コマ連続）、未修クラスは「LL」、「会話」と同じ教科書Amical 1を用います。既修クラスでは「LL」と同じTotem 2を使います。 未修クラスでは特に文法や語彙の修得に中心を置きます。 各課の最初にあるdialogueの理解、関連した文法事項の学習、口頭練習、練習問題を通して、フランス語の基礎となる知識と基本的な表現を確実に身につけてゆきます。 既修クラスではネイティヴ・スピーカーが授業を担当し、会話を中心に、総合的な運用能力を身につけることを目標にします。 授業の進め方については、各担当教員から説明があります。		<table><thead><tr><th></th><th><i>Amical 1</i></th><th><i>Totem 2</i></th></tr></thead><tbody><tr><td>1.</td><td>Leçon 9 pp. 48-49</td><td>Leçon 13</td></tr><tr><td>2.</td><td>Leçon 9 pp. 50-51, Leçon 10 pp. 52-53</td><td>Leçon 14</td></tr><tr><td>3.</td><td>Leçon 10 pp. 54-55</td><td>Leçon 15</td></tr><tr><td>4.</td><td>Leçon 11 pp. 56-57</td><td>Leçon 16</td></tr><tr><td>5.</td><td>Leçon 11 pp. 58-59, Leçon 12 pp. 60-61</td><td>Leçon 17</td></tr><tr><td>6.</td><td>Leçon 12 pp. 62-63</td><td>Leçon 18</td></tr><tr><td>7.</td><td>Révision p. 64</td><td>Révision Leçon 13-18</td></tr><tr><td>8.</td><td>Leçon 13 pp. 66-67</td><td>Leçon 19</td></tr><tr><td>9.</td><td>Leçon 13 pp. 68-69, Leçon 14 pp. 70-71</td><td>Leçon 20</td></tr><tr><td>10.</td><td>Leçon 14 pp. 72-73</td><td>Leçon 21</td></tr><tr><td>11.</td><td>Leçon 15 pp. 74-75</td><td>Leçon 22</td></tr><tr><td>12.</td><td>Leçon 15 pp. 76-77, Leçon 16 pp. 78-79</td><td>Leçon 23</td></tr><tr><td>13.</td><td>Leçon 16 pp. 80-81</td><td>Leçon 24</td></tr><tr><td>14.</td><td>Révision p. 82</td><td>Révision Leçon 19-24</td></tr></tbody></table> ※クラスによって多少進度に差があります。			<i>Amical 1</i>	<i>Totem 2</i>	1.	Leçon 9 pp. 48-49	Leçon 13	2.	Leçon 9 pp. 50-51, Leçon 10 pp. 52-53	Leçon 14	3.	Leçon 10 pp. 54-55	Leçon 15	4.	Leçon 11 pp. 56-57	Leçon 16	5.	Leçon 11 pp. 58-59, Leçon 12 pp. 60-61	Leçon 17	6.	Leçon 12 pp. 62-63	Leçon 18	7.	Révision p. 64	Révision Leçon 13-18	8.	Leçon 13 pp. 66-67	Leçon 19	9.	Leçon 13 pp. 68-69, Leçon 14 pp. 70-71	Leçon 20	10.	Leçon 14 pp. 72-73	Leçon 21	11.	Leçon 15 pp. 74-75	Leçon 22	12.	Leçon 15 pp. 76-77, Leçon 16 pp. 78-79	Leçon 23	13.	Leçon 16 pp. 80-81	Leçon 24	14.	Révision p. 82	Révision Leçon 19-24
	<i>Amical 1</i>	<i>Totem 2</i>																																														
1.	Leçon 9 pp. 48-49	Leçon 13																																														
2.	Leçon 9 pp. 50-51, Leçon 10 pp. 52-53	Leçon 14																																														
3.	Leçon 10 pp. 54-55	Leçon 15																																														
4.	Leçon 11 pp. 56-57	Leçon 16																																														
5.	Leçon 11 pp. 58-59, Leçon 12 pp. 60-61	Leçon 17																																														
6.	Leçon 12 pp. 62-63	Leçon 18																																														
7.	Révision p. 64	Révision Leçon 13-18																																														
8.	Leçon 13 pp. 66-67	Leçon 19																																														
9.	Leçon 13 pp. 68-69, Leçon 14 pp. 70-71	Leçon 20																																														
10.	Leçon 14 pp. 72-73	Leçon 21																																														
11.	Leçon 15 pp. 74-75	Leçon 22																																														
12.	Leçon 15 pp. 76-77, Leçon 16 pp. 78-79	Leçon 23																																														
13.	Leçon 16 pp. 80-81	Leçon 24																																														
14.	Révision p. 82	Révision Leçon 19-24																																														
到達目標	フランス語の基礎的な文法、語彙、文語・口語表現を総合的に習得し、運用できるようにする。																																															
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。																																															
テキスト	未修クラス：Amical 1 既修クラス：Totem 2																																															
参考文献	必要に応じて各担当教員から指示。																																															
評価方法	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。																																															

09 年度以降	フランス語 I (TP) (既修クラスのみ履修)	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
フランスには、英語におけるTOEICのようなTest de connaissance du français (以下TCF) と呼ばれる資格試験があります。フランスの大学編入に使えるフランス語資格はこれしかありません。本学でも12月にこの試験を実施しています。 この授業では、TCFの模擬テストオンライン練習を通じて受講者の総合的なフランス語力レベルアップを目指します。		1. 授業概要の説明、キーボード入力練習 2. TCF対策模擬テスト1課と解説 3. TCF対策模擬テスト2課と解説 4. TCF対策模擬テスト3課と解説 5. TCF対策模擬テスト4課と解説 6. TCF対策模擬テスト5課と解説 7. TCF対策模擬テスト6課と解説 8. TCF対策模擬テスト7課と解説 9. TCF対策模擬テスト8課と解説 10. TCF対策模擬テスト9課と解説 11. TCF対策模擬テスト10課と解説 12. TCF対策模擬テスト11課と解説 13. TCF対策模擬テスト12課と解説 14. TCF対策模擬テスト13課と解説	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テスト練習で間違えた箇所を確認し次に備えること。		
テキスト	プリントで配付。		
参考文献	授業中に指示。		
評価方法	定期試験 50%、平常点 50%		

09 年度以降	フランス語Ⅱ（TP）（既修クラスのみ履修）	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
フランスには、英語におけるTOEICのようなTest de connaissance du français（以下TCF）と呼ばれる資格試験があります。フランスの大学編入に使えるフランス語資格はこれしかありません。本学でも12月にこの試験を実施しています。 この授業では、TCFの模擬テストオンライン練習を通じて受講者の総合的なフランス語力レベルアップを目指します。		1. 春学期定期試験の総括 2. TCF対策模擬テスト14課と解説 3. TCF対策模擬テスト15課と解説 4. TCF対策模擬テスト16課と解説 5. TCF対策模擬テスト17課と解説 6. TCF対策模擬テスト18課と解説 7. TCF対策模擬テスト19課と解説 8. TCF対策模擬テスト20課と解説 9. TCF対策模擬テスト21課と解説 10. TCF対策模擬テスト22課と解説 11. TCF対策模擬テスト23課と解説 12. TCF対策模擬テスト24課と解説 13. TCF対策模擬テスト25課と解説 14. TCF対策模擬テスト26課と解説	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テスト練習で間違えた箇所を確認し次に備えること。		
テキスト	プリントで配付。		
参考文献	授業中に指示。		
評価方法	定期試験 50%、平常点 50%		

09 年度以降	フランス語Ⅰ（会話）（未修クラスのみ履修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業はフランス語の運用能力をつけることを目的としています。フランス語のネイティブ・スピーカーが担当して、特に会話と決まった言い回しの修得を中心とした授業になります。教科書は、「総合」「LL」と連動して、同じAmical 1を使用します。 授業の進め方については各担当教員から説明があります。		1. Leçon 0 pp. 8-10 2. Leçon 1 pp. 12-15 3. Leçon 2 pp. 16-19 4. Leçon 3 pp. 20-21 5. Leçon 3 pp. 22-23, Leçon 4 pp. 24-25 6. Leçon 4 pp. 26-27 7. Révision p. 28 8. Leçon 5 pp. 30-31 9. Leçon 5 pp. 32-33, Leçon 6 pp. 34-35 10. Leçon 6 pp. 36-37 11. Leçon 7 pp. 38-39 12. Leçon 7 pp. 40-41, Leçon 8 pp. 42-43 13. Leçon 8 pp. 44-45 14. Révision p. 46 ※クラスによって多少進度に差があります。	
到達目標	基礎的な事柄について口述のやりとりができるフランス語会話力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。		
テキスト	Amical 1		
参考文献	必要に応じて各担当教員から指示。		
評価方法	平常点と学期末試験（担当教員から指示があります）。		

09 年度以降	フランス語Ⅱ（会話）（未修クラスのみ履修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業はフランス語の運用能力をつけることを目的としています。フランス語のネイティブ・スピーカーが担当して、特に会話と決まった言い回しの修得を中心とした授業になります。教科書は、「総合」「LL」と連動して、同じAmical 1を使用します。 授業の進め方については各担当教員から説明があります。		1. Leçon 9 pp. 48-49 2. Leçon 9 pp. 50-51, Leçon 10 pp. 52-53 3. Leçon 10 pp. 54-55 4. Leçon 11 pp. 56-57 5. Leçon 11 pp. 58-59, Leçon 12 pp. 60-61 6. Leçon 12 pp. 62-63 7. Révision p. 64 8. Leçon 13 pp. 66-67 9. Leçon 13 pp. 68-69, Leçon 14 pp. 70-71 10. Leçon 14 pp. 72-73 11. Leçon 15 pp. 74-75 12. Leçon 15 pp. 76-77, Leçon 16 pp. 78-79 13. Leçon 16 pp. 80-81 14. Révision p. 82 ※クラスによって多少進度に差があります。	
到達目標	基礎的な事柄について口述のやりとりができるフランス語会話力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。		
テキスト	Amical 1		
参考文献	必要に応じて各担当教員から指示。		
評価方法	平常点と学期末試験（担当教員から指示があります）。		

09 年度以降	フランス語 I (LL)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、発音、綴り字と音、聞き取りの練習に力を入れます。未修クラスでは「総合」や「会話」と同じ教科書Amical 1、既修クラスでは「総合」と同じTotem 2を使用します。どちらのクラスも通常この授業はCAL教室で行います。 授業の進め方については各担当教員から説明があります。		<i>Amical 1</i>	
		<i>Totem 2</i>	
		1. Leçon 0 pp. 8-10	Leçon 1
		2. Leçon 1 pp. 12-15	Leçon 2
		3. Leçon 2 pp. 16-19	Leçon 3
		4. Leçon 3 pp. 20-21	Leçon 4
		5. Leçon 3 pp. 22-23, Leçon 4 pp. 24-25	Leçon 5
		6. Leçon 4 pp. 26-27	Leçon 6
		7. Révision p. 28	Révision Leçon 1-6
		8. Leçon 5 pp. 30-31	Leçon 7
		9. Leçon 5 pp. 32-33, Leçon 6 pp. 34-35	Leçon 8
		10. Leçon 6 pp. 36-37	Leçon 9
		11. Leçon 7 pp. 38-39	Leçon 10
		12. Leçon 7 pp. 40-41, Leçon 8 pp. 42-43	Leçon 11
		13. Leçon 8 pp. 44-45	Leçon 12
		14. Révision p. 46	Révision Leçon 7-12
		※クラスによって多少進度に差があります。	
到達目標	フランス語の発音・リズム、綴りと発音に関する基礎を理解し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、音源を聞いて練習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。		
テキスト	未修クラス：Amical 1 既修クラス：Totem 2		
参考文献	必要に応じて各担当教員から指示。		
評価方法	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。		

09 年度以降	フランス語Ⅱ（LL）	担当者	各担当教員																																													
講義目的、講義概要		授業計画																																														
この授業では、発音、綴り字と音、聞き取りの練習に力を入れます。未修クラスでは「総合」や「会話」と同じ教科書Amical 1、既修クラスでは「総合」と同じTotem 2を使用します。どちらのクラスも通常この授業はCAL教室で行います。 授業の進め方については各担当教員から説明があります。		<table><thead><tr><th></th><th><i>Amical 1</i></th><th><i>Totem 2</i></th></tr></thead><tbody><tr><td>1.</td><td>Leçon 9 pp. 48-49</td><td>Leçon 13</td></tr><tr><td>2.</td><td>Leçon 9 pp. 50-51, Leçon 10 pp. 52-53</td><td>Leçon 14</td></tr><tr><td>3.</td><td>Leçon 10 pp. 54-55</td><td>Leçon 15</td></tr><tr><td>4.</td><td>Leçon 11 pp. 56-57</td><td>Leçon 16</td></tr><tr><td>5.</td><td>Leçon 11 pp. 58-59, Leçon 12 pp. 60-61</td><td>Leçon 17</td></tr><tr><td>6.</td><td>Leçon 12 pp. 62-63</td><td>Leçon 18</td></tr><tr><td>7.</td><td>Révision p. 64</td><td>Révision Leçon 13-18</td></tr><tr><td>8.</td><td>Leçon 13 pp. 66-67</td><td>Leçon 19</td></tr><tr><td>9.</td><td>Leçon 13 pp. 68-69, Leçon 14 pp. 70-71</td><td>Leçon 20</td></tr><tr><td>10.</td><td>Leçon 14 pp. 72-73</td><td>Leçon 21</td></tr><tr><td>11.</td><td>Leçon 15 pp. 74-75</td><td>Leçon 22</td></tr><tr><td>12.</td><td>Leçon 15 pp. 76-77, Leçon 16 pp. 78-79</td><td>Leçon 23</td></tr><tr><td>13.</td><td>Leçon 16 pp. 80-81</td><td>Leçon 24</td></tr><tr><td>14.</td><td>Révision p. 82</td><td>Révision Leçon 19-24</td></tr></tbody></table> ※クラスによって多少進度に差があります。			<i>Amical 1</i>	<i>Totem 2</i>	1.	Leçon 9 pp. 48-49	Leçon 13	2.	Leçon 9 pp. 50-51, Leçon 10 pp. 52-53	Leçon 14	3.	Leçon 10 pp. 54-55	Leçon 15	4.	Leçon 11 pp. 56-57	Leçon 16	5.	Leçon 11 pp. 58-59, Leçon 12 pp. 60-61	Leçon 17	6.	Leçon 12 pp. 62-63	Leçon 18	7.	Révision p. 64	Révision Leçon 13-18	8.	Leçon 13 pp. 66-67	Leçon 19	9.	Leçon 13 pp. 68-69, Leçon 14 pp. 70-71	Leçon 20	10.	Leçon 14 pp. 72-73	Leçon 21	11.	Leçon 15 pp. 74-75	Leçon 22	12.	Leçon 15 pp. 76-77, Leçon 16 pp. 78-79	Leçon 23	13.	Leçon 16 pp. 80-81	Leçon 24	14.	Révision p. 82	Révision Leçon 19-24
	<i>Amical 1</i>	<i>Totem 2</i>																																														
1.	Leçon 9 pp. 48-49	Leçon 13																																														
2.	Leçon 9 pp. 50-51, Leçon 10 pp. 52-53	Leçon 14																																														
3.	Leçon 10 pp. 54-55	Leçon 15																																														
4.	Leçon 11 pp. 56-57	Leçon 16																																														
5.	Leçon 11 pp. 58-59, Leçon 12 pp. 60-61	Leçon 17																																														
6.	Leçon 12 pp. 62-63	Leçon 18																																														
7.	Révision p. 64	Révision Leçon 13-18																																														
8.	Leçon 13 pp. 66-67	Leçon 19																																														
9.	Leçon 13 pp. 68-69, Leçon 14 pp. 70-71	Leçon 20																																														
10.	Leçon 14 pp. 72-73	Leçon 21																																														
11.	Leçon 15 pp. 74-75	Leçon 22																																														
12.	Leçon 15 pp. 76-77, Leçon 16 pp. 78-79	Leçon 23																																														
13.	Leçon 16 pp. 80-81	Leçon 24																																														
14.	Révision p. 82	Révision Leçon 19-24																																														
到達目標	フランス語の発音・リズム、綴りと発音に関する基礎を理解し、運用できるようにする。																																															
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、音源を聞いて練習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。																																															
テキスト	未修クラス：Amical 1 既修クラス：Totem 2																																															
参考文献	必要に応じて各担当教員から指示。																																															
評価方法	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。																																															

09 年度以降	フランス語Ⅲ（文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
基礎フランス語の初級文法（文法Ⅰ、Ⅱ）を踏まえて、その内容を発展させたより詳細な文法を学びます。実際の言葉の表現の中で文法を活かして、正しいフランス語を修得することを目的とします。 授業で使用する教材および進め方などについては、担当教員から具体的な指示・説明があります。		1. 名詞の性と数 2. 形容詞のはたらき 3. 冠詞の使い方 4. 指示形容詞と所有形容詞 5. 疑問形容詞 6. 不定形容詞 7. 分量を表す表現 8. 人称代名詞 9. 再帰代名詞・代名動詞 10. 中性代名詞 11. 指示代名詞・不定代名詞 12. 関係代名詞 13. 否定の表現 14. 直接話法と間接話法 ※クラスによって使用教材と進度が異なるため、各回の内容はここに挙げた項目と異なることがあります。	
到達目標	フランス語の初級文法を理解し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。		
テキスト	文法の教科書は担当教員から指示があります。		
参考文献	必要に応じて各担当教員から指示。		
評価方法	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。		

09 年度以降	フランス語Ⅳ（文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
基礎フランス語の初級文法（文法Ⅰ、Ⅱ）を踏まえて、その内容を発展させたより詳細な文法を学びます。実際の言葉の表現の中で文法を活かして、正しいフランス語を修得することを目的とします。 授業で使用する教材および進め方などについては、担当教員から具体的な指示・説明があります。		1. 動詞の法と時制 2. 直説法現在・複合過去 3. 直説法半過去・大過去 4. 直説法単純過去・前過去・重複過去 5. 直説法単純未来・前未来 6. 条件法現在 7. 条件法過去 8. 接続法現在 9. 接続法過去 10. 接続法半過去・大過去 11. 命令法 12. 不定法 13. 現在分詞・ジェロンディフ 14. 過去分詞 ※クラスによって使用教材と進度が異なるため、各回の内容はここに挙げた項目と異なることがあります。	
到達目標	フランス語の初級文法を理解し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。		
テキスト	文法の教科書は担当教員から指示があります。		
参考文献	必要に応じて各担当教員から指示。		
評価方法	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。		

09 年度以降	フランス語Ⅲ（講読）	担当者	G. ヴェスイエール
講義目的、講義概要		授業計画	
時事問題に関するフランス語のテキストの精読を通して、文法項目の理解を確認し、長文の読解力を身につけます。 授業では、受講者の理解度に応じて、フランス語と日本語を織り交ぜながら文法の説明や文化面について解説をします。毎回勉強するテーマに関する解釈や意見の共有もしていく予定です。 授業に参加するときの大前提として、毎回テキストの予習をし、該当テーマについて自分の意見や感想を考えることが必要になってきます。		1. ガイダンス、授業の概要説明 2. 「エマニュエル・マクロン 前進! [政治]」 3. 「フランス極右勢力の後退 [政治]」 4. 「EU 都市ストラスブール [地理／ヨーロッパ]」 5. 「シモーヌ・ヴェーユ [歴史／政治]」 6. 「ローラン・ギャロス [スポーツ]」 7. 前半のまとめ、文法事項の確認 8. 「サッカー女子ワールドカップ [スポーツ]」 9. 「食事のちやりんこ宅配 [経済／社会]」 10. 「社会貢献 [経済／社会]」 11. 「夏休み [社会]」 12. 「コンシエルジュ 古くて新しい職業 [社会]」 13. 後半のまとめ、文法事項の確認 14. 全体のまとめ	
到達目標	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの予習と復習。		
テキスト	加藤晴久、ミシェル・サガズ著『時事フランス語－2019 年度版－』（朝日出版社）		
参考文献	授業内で指示。		
評価方法	平常点 50%（積極的な参加と授業内課題）と期末試験 50%		

09 年度以降	フランス語Ⅳ（講読）	担当者	G. ヴェスイエール
講義目的、講義概要		授業計画	
時事問題に関するフランス語のテキストの精読を通して、文法項目の理解を確認し、長文の読解力を身につけます。 授業では、受講者の理解度に応じて、フランス語と日本語を織り交ぜながら文法の説明や文化面について解説をします。毎回勉強するテーマに関する解釈や意見の共有もしていく予定です。 授業に参加するときの大前提として、毎回テキストの予習をし、該当テーマについて自分の意見や感想を考えることが必要になってきます。		1. ガイダンス、授業の概要説明 2. 「フランスの外国人医師 [社会]」 3. 「平均余命 [社会]」 4. 「パパママと同居のオトナ [社会]」 5. 「1 日延ばし [教育]」 6. 「ジャガイモ [農業]」 7. 前半のまとめ、文法事項の確認 8. 「バゲット [ガストロノミー]」 9. 「オーギュスト・エスコフィエ [ガストロノミー]」 10. 「バレンタイン・デー [社会／文化]」 11. 「日本酒 [日本／フランス]」 12. 「フランス語になった日本語 [日本／フランス]」 13. 前半のまとめ、文法事項の確認 14. 全体のまとめ	
到達目標	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの予習と復習。		
テキスト	加藤晴久、ミシェル・サガズ著『時事フランス語－2019 年度版－』（朝日出版社）		
参考文献	授業内で指示。		
評価方法	平常点 50%（積極的な参加と授業内課題）と期末試験 50%		

09 年度以降	フランス語Ⅲ（講読）	担当者	清水 雄大
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 1年次で学習したフランス語の知識を基礎にして、フランス語で書かれた平易な文章を読めるようになることを目指します。あわせて、フランスの政治、社会、文化、歴史についての理解を深めることも目指しています。 【講義概要】 『A la page 時事フランス語2019』を読み進めていきます。毎回担当者を決めるので、担当者は翻訳を作成してください。また、テキストに登場する重要な文法・語法の項目については、適宜プリントを配布して解説する予定です。		1. 第1課「エマニュエル・マクロン 前進！」（前半） 2. 第1課「エマニュエル・マクロン 前進！」（後半） 3. 第2課「フランス極右勢力の後退」（前半） 4. 第2課「フランス極右勢力の後退」（後半） 5. 小テスト、第3課「ローラン・ギャロス」（前半） 6. 第3課「ローラン・ギャロス」（後半） 7. 第4課「サッカー女子ワールドカップ」（前半） 8. 第4課「シモーヌ・ヴェーユ」（前半） 9. 第5課「シモーヌ・ヴェーユ」（後半） 10. 小テスト、第5課「サッカー女子ワールドカップ」（後半） 11. 第6課「ローラン・ギャロス」（前半） 12. 第6課「ローラン・ギャロス」（後半） 13. 第7課「食事のちゃりんこ宅配」（前半） 14. 期末テストおよび解説授業	
到達目標	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの予習をして授業に臨んでください。また授業後は、授業で扱った箇所を繰り返し音読して、扱った内容を身につけてください。		
テキスト	『A la page 時事フランス語 2019』（加藤晴久、ミシェル・サガス、朝日出版社）		
参考文献	授業中に適宜指示します。		
評価方法	平常点（課題、積極的な授業参加、小テストなど：50%）、期末試験（50%）		

09 年度以降	フランス語Ⅳ（講読）	担当者	清水 雄大
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 1年次に身につけたフランス語の知識を用いて、フランス語で書かれた平易な文章を読めるようになることを目指します。あわせて、フランスの政治、社会、文化、歴史についての理解を深めることも目指しています。 【講義概要】 『A la page 時事フランス語2019』を読み進めていきます。毎回担当者を決めるので、担当者は翻訳を作成してください。また、テキストに登場する重要な文法・語法の項目については、適宜プリントを配布して解説をする予定です。		1. 第7課「食事のちゃりんこ宅配」（後半） 2. 第8課「社会貢献」（前半） 3. 第8課「社会貢献」（後半） 4. 第9課「夏休み」（前半） 5. 第9課「夏休み」（後半） 6. 小テスト、第10課「コンシエルジュ」（前半） 7. 第10課「コンシエルジュ」（後半） 8. 第11課「フランスの外国人医師」（前半） 9. 第11課「フランスの外国人医師」（後半） 10. 第12課「平均余妙」（前半） 11. 小テスト、第12課「平均余妙」（後半） 12. 第13課「パパママと同居のオトナ」（前半） 13. 第13課「パパママと同居のオトナ」（後半） 14. 期末テストおよび解説授業	
到達目標	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの予習をして授業に臨んでください。また授業後は、授業で扱った箇所を繰り返し音読して、扱った内容を身につけてください。		
テキスト	『A la page 時事フランス語 2019』（加藤晴久、ミシェル・サガス、朝日出版社）		
参考文献	授業中に適宜指示します。		
評価方法	平常点（課題、積極的な授業参加、小テストなど：50%）、期末試験（50%）		

09 年度以降	フランス語Ⅲ（講読）	担当者	竹内 久雄
講義目的、講義概要		授業計画	
(1) 初級文法の知識を実際のフランス語を読むことに応用する力をつける。(2) 絵画の説明を通して、事物を描写する力をつける。		(1) être, avoir, 提示表現 (2) être, avoir, 規則動詞, Jongkind 1 (3) être, avoir, 規則動詞, Jongkind 2 (4) 2 つ目のタイプの動詞, Sisley 1 (5) 2 つ目のタイプの動詞, Sisley 2 (6) 2 つ目のタイプの動詞, Ingres 1 (7) 2 つ目のタイプの動詞, Ingres 2 (8) まとめ, 復習 (9) 関係代名詞, 複文, Renoir 1 (10) 関係代名詞, 複文, Renoir 2 (11) 関係代名詞, 複文, Cézanne 1 (12) 関係代名詞, 複文, Cézanne 2 (13) 複合過去, Courbet 1 (14) 複合過去, Courbet 2, 総まとめ	
到達目標	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	前：文法部分を読んでおいてください。事後：本文内容を把握しているか確認してください。		
テキスト	中山真彦, オルセー美術館にて, 朝日出版社		
参考文献	白水社中級フランス語シリーズ		
評価方法	平常点（発表, 宿題など：50%）と期末試験（50%）		

09 年度以降	フランス語Ⅳ（講読）	担当者	竹内 久雄
講義目的、講義概要		授業計画	
(1) 初級文法の知識を実際のフランス語を読むことに応用する力をつける。(2) 絵画の説明を通して、事物を描写する力をつける。		(1) 複合過去, 半過去, Luce (2) 複合過去, 半過去, Luce 2 (3) 複合過去, 半過去, Seurat 1 (4) 複合過去, 半過去, Seurat 2 (5) 分詞, 大過去, Van Gogh 1 (6) 分詞, 大過去, Van Gogh 2 (7) 単純未来, 前未来, Degas 1 (8) 単純未来, 前未来, Degas 2 (9) 条件法, Monet 1 (10) 条件法, Monet 2 (11) 接続法, Rousseau 1 (12) 接続法, Rousseau 2 (13) まとめ Gauguin 1 (14) まとめ Gauguin 2, 総まとめ	
到達目標	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	前：文法部分を読んでおいてください。 事後：本文内容を把握しているか確認してください。		
テキスト	中山真彦, オルセー美術館にて, 朝日出版社		
参考文献	白水社中級フランス語シリーズ		
評価方法	平常点（発表, 宿題など：50%）と期末試験（50%）		

09 年度以降	フランス語Ⅲ（講読）	担当者	阿部 明日香
講義目的、講義概要		授業計画	
初等文法で学んだ知識を最大限活用し、フランス語で書かれた平易なテキストを読む力を養うことを目的とします。同時に、授業であつかうトピックを通じて、フランス（フランス語圏）の文化や社会などについても学んでいきます。 毎回1人1回当たるペースで訳読してもらいますので、必ず予習をしてから授業に臨むこと。		1. 第1課：エマニュエル・マクロン 前進！（前半） 2. 第1課：エマニュエル・マクロン 前進！（後半） 3. 第1課：まとめ、Exercices 4. 第3課：EU都市ストラスブール（前半） 5. 第3課：EU都市ストラスブール（後半） 6. 第3課：まとめ、Exercices 7. 第5課：ローラン・ギャロス（前半） 8. 第5課：ローラン・ギャロス（後半） 9. 第5課：まとめ、Exercices 10. 第6課：サッカー女子ワールドカップ（前半） 11. 第6課：サッカー女子ワールドカップ（後半） 12. 第6課：まとめ、Exercices 13. 第9課：夏休み（前半） 14. 第9課：夏休み（後半）	
到達目標	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	辞書で単語の意味を調べるだけでなく、文法事項についても確認し、自分なりの訳をつくって授業に臨んでください。授業後は、授業で扱った箇所を読み返して重要事項を確認してください。		
テキスト	加藤晴久・ミッシェル・サガズ『A la page 時事フランス語 2019 年度版』（朝日出版社、2019 年）		
参考文献	授業中に適宜指示します。		
評価方法	平常点（30%）、学期末試験（70%）		

09 年度以降	フランス語Ⅳ（講読）	担当者	阿部 明日香
講義目的、講義概要		授業計画	
初等文法で学んだ知識を最大限活用し、フランス語で書かれた平易なテキストを読む力を養うことを目的とします。同時に、授業であつかうトピックを通じて、フランス（フランス語圏）の文化や社会などについても学んでいきます。 毎回1人1回当たるペースで訳読してもらいますので、必ず予習をしてから授業に臨むこと。		1. 第2課：フランス極右勢力の後退（前半） 2. 第2課：フランス極右勢力の後退（後半） 3. 第2課：まとめ、Exercices 4. 第4課：シモーヌ・ヴェーユ（前半） 5. 第4課：シモーヌ・ヴェーユ（後半） 6. 第4課：まとめ、Exercices 7. 第16課：バゲット（前半） 8. 第16課：バゲット（後半） 9. 第16課：まとめ、Exercices 10. 第17課：オーギュスト・エスコフィエ（前半） 11. 第17課：オーギュスト・エスコフィエ（後半） 12. 第17課：まとめ、Exercices 13. 第20課：フランス語になった日本語（前半） 14. 第20課：フランス語になった日本語（後半）	
到達目標	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	辞書で単語の意味を調べるだけでなく、文法事項についても確認し、自分なりの訳をつくって授業に臨んでください。授業後は、授業で扱った箇所を読み返して重要事項を確認してください。		
テキスト	加藤晴久・ミッシェル・サガズ『 <i>A la page</i> 時事フランス語 2019 年度版』（朝日出版社、2019 年）		
参考文献	授業中に適宜指示します。		
評価方法	平常点（30%）、学期末試験（70%）		

09 年度以降	フランス語Ⅲ（講読）	担当者	野澤 丈二
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 フランス語圏に滞在したり、フランス語を話す友人ができたとき、最初に話題となるのは、自分自身に関する事柄です。この講義では、これまでに学んできたフランス語の能力を土台として、日本に関する基礎知識をフランス語で読み、理解し、説明できるようになることを目的とします。 【講義概要】 教材に沿って進行し、日本の地理、歴史、教育、政治・経済、信仰、日常生活、言語、伝統文化などを、フランスとの比較の視点を重視しながら考えていきます。 授業では、文法事項も再確認し、語彙やさまざまな表現も身に付けていきます。		1. Leçon 1 : Tokyo et la mégalopole 2. 文法事項と語彙の確認、小テスト 3. Leçon 2 : D'Edo à Tokyo 4. 文法事項と語彙の確認、小テスト 5. Leçon 3 : Les Jeux Olympiques à Tokyo 6. 文法事項と語彙の確認、小テスト 7. Leçon 4 : L'éducation au Japon 8. 文法事項と語彙の確認、小テスト 9. Leçon 5 : Tokyo, capitale économique et politique 10. 文法事項と語彙の確認、小テスト 11. Leçon 6 : La religion des Japonais 12. 文法事項と語彙の確認、小テスト 13. Leçon 7 : Une journée à Tokyo 14. 文法事項と語彙の確認、小テスト	
到達目標	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講読の授業です、予習は欠かさないようにしましょう。		
テキスト	ジェローム・ルボワ、井上櫻子『日本再発見！』（2016年、白水社）		
参考文献	必要に応じて、授業内でも指示します。		
評価方法	平常点（積極的な参加、授業内課題、小テストなど）と期末試験の結果を総合的に判断し、評価する。		

09 年度以降	フランス語Ⅳ（講読）	担当者	野澤 丈二
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 フランス語圏に滞在したり、フランス語を話す友人ができたとき、まず一番最初に話題となるのは、自分自身に関する事柄です。この講義では、これまでに学んできたフランス語の能力を土台として、日本に関する基礎知識をフランス語で読み、理解し、説明できるようになることを目的とします。 【講義概要】 教材に沿って進行し、日本の地理、歴史、教育、政治・経済、信仰、日常生活、言語、伝統文化などを、とりわけフランスとの比較の視点から考えていきます。 授業では、文法事項も再確認し、語彙やさまざまな表現も身に付けていきます。		1. Leçon 8 : Une année à Tokyo 2. 文法事項と語彙の確認、小テスト 3. Leçon 9 : La langue japonaise 4. 文法事項と語彙の確認、小テスト 5. Leçon 10 : Tokyo traditionnel 6. 文法事項と語彙の確認、小テスト 7. Leçon 11 : Tokyo modern 8. 文法事項と語彙の確認、小テスト 9. Leçon 12 : Autour de Tokyo (1) 10. 文法事項と語彙の確認、小テスト 11. Leçon 13 : Autour de Tokyo (2) 12. 文法事項と語彙の確認、小テスト 13. Leçon 14 : Ukiyoe : les images du monde flottant 14. 文法事項と語彙の確認、小テスト	
到達目標	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講読の授業です、予習は欠かさないようにしましょう。		
テキスト	ジェローム・ルボワ、井上櫻子『日本再発見！』（2016年、白水社）		
参考文献	必要に応じて、授業内でも指示します。		
評価方法	平常点（積極的な参加、授業内課題、小テストなど）と期末試験の結果を総合的に判断し、評価する。		

09 年度以降	フランス語Ⅲ（総合）	担当者	各担当教員																																																												
講義目的、講義概要		授業計画																																																													
この授業はフランス語の実力を総合的に伸ばすことを目的としています。授業は週 2 回あり（同日 2 コマ連続）、未修クラスでは「会話」と同じ教科書Amical 1、既修クラスではTotem 2、Totem 3 を使います。 未修クラスは日本人教員、既修クラスはネイティヴ・スピーカーが授業を担当します。 授業の進め方については、各担当教員から説明があります。		<table><thead><tr><th colspan="2">Amical 1</th><th colspan="2">Totem 2, 3</th></tr></thead><tbody><tr><td>1.</td><td>Leçon 17 pp. 84-85</td><td>Totem 2</td><td>Leçon 25</td></tr><tr><td>2.</td><td>Leçon 17 pp. 86-87, Leçon 18 pp. 88-89</td><td></td><td>Leçon 26</td></tr><tr><td>3.</td><td>Leçon 18 pp. 90-91</td><td></td><td>Leçon 27</td></tr><tr><td>4.</td><td>Leçon 19 pp. 92-93</td><td></td><td>Leçon 28</td></tr><tr><td>5.</td><td>Leçon 19 pp. 94-95, Leçon 20 pp. 96-97</td><td></td><td>Leçon 29</td></tr><tr><td>6.</td><td>Leçon 20 pp. 98-99</td><td></td><td>Leçon 30</td></tr><tr><td>7.</td><td>Révision p. 100</td><td></td><td>Leçon 31</td></tr><tr><td>8.</td><td>Leçon 21 pp. 102-103</td><td></td><td>Leçon 32</td></tr><tr><td>9.</td><td>Leçon 21 pp. 104-105, Leçon 22 pp. 106-107</td><td>Révision</td><td>Leçon 25-32</td></tr><tr><td>10.</td><td>Leçon 22 pp. 108-109</td><td>Totem 3</td><td>Leçon 1</td></tr><tr><td>11.</td><td>Leçon 23 pp. 110-111</td><td></td><td>Leçon 2</td></tr><tr><td>12.</td><td>Leçon 23 pp. 112-113, Leçon 24 pp. 114-115</td><td></td><td>Leçon 3</td></tr><tr><td>13.</td><td>Leçon 24 pp. 116-117</td><td></td><td>Leçon 4</td></tr><tr><td>14.</td><td>Révision p. 118</td><td>Révision</td><td>Leçon 1-4</td></tr></tbody></table> ※クラスによって多少進度に差があります。		Amical 1		Totem 2, 3		1.	Leçon 17 pp. 84-85	Totem 2	Leçon 25	2.	Leçon 17 pp. 86-87, Leçon 18 pp. 88-89		Leçon 26	3.	Leçon 18 pp. 90-91		Leçon 27	4.	Leçon 19 pp. 92-93		Leçon 28	5.	Leçon 19 pp. 94-95, Leçon 20 pp. 96-97		Leçon 29	6.	Leçon 20 pp. 98-99		Leçon 30	7.	Révision p. 100		Leçon 31	8.	Leçon 21 pp. 102-103		Leçon 32	9.	Leçon 21 pp. 104-105, Leçon 22 pp. 106-107	Révision	Leçon 25-32	10.	Leçon 22 pp. 108-109	Totem 3	Leçon 1	11.	Leçon 23 pp. 110-111		Leçon 2	12.	Leçon 23 pp. 112-113, Leçon 24 pp. 114-115		Leçon 3	13.	Leçon 24 pp. 116-117		Leçon 4	14.	Révision p. 118	Révision	Leçon 1-4
Amical 1		Totem 2, 3																																																													
1.	Leçon 17 pp. 84-85	Totem 2	Leçon 25																																																												
2.	Leçon 17 pp. 86-87, Leçon 18 pp. 88-89		Leçon 26																																																												
3.	Leçon 18 pp. 90-91		Leçon 27																																																												
4.	Leçon 19 pp. 92-93		Leçon 28																																																												
5.	Leçon 19 pp. 94-95, Leçon 20 pp. 96-97		Leçon 29																																																												
6.	Leçon 20 pp. 98-99		Leçon 30																																																												
7.	Révision p. 100		Leçon 31																																																												
8.	Leçon 21 pp. 102-103		Leçon 32																																																												
9.	Leçon 21 pp. 104-105, Leçon 22 pp. 106-107	Révision	Leçon 25-32																																																												
10.	Leçon 22 pp. 108-109	Totem 3	Leçon 1																																																												
11.	Leçon 23 pp. 110-111		Leçon 2																																																												
12.	Leçon 23 pp. 112-113, Leçon 24 pp. 114-115		Leçon 3																																																												
13.	Leçon 24 pp. 116-117		Leçon 4																																																												
14.	Révision p. 118	Révision	Leçon 1-4																																																												
到達目標	フランス語の一般的な文法、語彙、文語・口語表現を総合的に習得し、運用できるようにする。																																																														
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。																																																														
テキスト	未修クラス：Amical 1 既修クラス：Totem 2, 3																																																														
参考文献	必要に応じて各担当教員から指示。																																																														
評価方法	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。																																																														

09 年度以降	フランス語Ⅳ（総合）	担当者	各担当教員																														
講義目的、講義概要		授業計画																															
この授業はフランス語の実力を総合的に伸ばすことを目的としています。授業は週 2 回あり（同日 2 コマ連続）、未修クラスでは「会話」と同じ教科書Amical 2、既修クラスではTotem 3 を使います。 未修クラスは日本人教員、既修クラスはネイティヴ・スピーカーが授業を担当します。 授業の進め方については、各担当教員から説明があります。		<table><thead><tr><th><i>Amical 2</i></th><th><i>Totem 3</i></th></tr></thead><tbody><tr><td>1. Leçon 1 pp. 8-9</td><td><i>Totem 3</i> Leçon 5</td></tr><tr><td>2. Leçon 1 pp. 10-11, Leçon 2 pp. 12-13</td><td>Leçon 6</td></tr><tr><td>3. Leçon 2 pp. 14-15</td><td>Leçon 7</td></tr><tr><td>4. Leçon 3 pp. 16-17</td><td>Leçon 8</td></tr><tr><td>5. Leçon 3 pp. 18-19, Leçon 4 pp. 20-21</td><td>Leçon 9</td></tr><tr><td>6. Leçon 4 pp. 22-23</td><td>Leçon 10</td></tr><tr><td>7. Révision p. 24</td><td><i>Révision</i> Leçon 5-10</td></tr><tr><td>8. Leçon 5 pp. 26-27</td><td><i>Totem 3</i> Leçon 11</td></tr><tr><td>9. Leçon 5 pp. 28-29, Leçon 6 pp. 30-31</td><td>Leçon 12</td></tr><tr><td>10. Leçon 6 pp. 32-33</td><td>Leçon 13</td></tr><tr><td>11. Leçon 7 pp. 34-35</td><td>Leçon 14</td></tr><tr><td>12. Leçon 7 pp. 36-37, Leçon 8 pp. 38-39</td><td>Leçon 15</td></tr><tr><td>13. Leçon 8 pp. 40-41</td><td>Leçon 16</td></tr><tr><td>14. Révision p. 42</td><td><i>Révision</i> Leçon 11-16</td></tr></tbody></table> ※クラスによって多少進度に差があります。		<i>Amical 2</i>	<i>Totem 3</i>	1. Leçon 1 pp. 8-9	<i>Totem 3</i> Leçon 5	2. Leçon 1 pp. 10-11, Leçon 2 pp. 12-13	Leçon 6	3. Leçon 2 pp. 14-15	Leçon 7	4. Leçon 3 pp. 16-17	Leçon 8	5. Leçon 3 pp. 18-19, Leçon 4 pp. 20-21	Leçon 9	6. Leçon 4 pp. 22-23	Leçon 10	7. Révision p. 24	<i>Révision</i> Leçon 5-10	8. Leçon 5 pp. 26-27	<i>Totem 3</i> Leçon 11	9. Leçon 5 pp. 28-29, Leçon 6 pp. 30-31	Leçon 12	10. Leçon 6 pp. 32-33	Leçon 13	11. Leçon 7 pp. 34-35	Leçon 14	12. Leçon 7 pp. 36-37, Leçon 8 pp. 38-39	Leçon 15	13. Leçon 8 pp. 40-41	Leçon 16	14. Révision p. 42	<i>Révision</i> Leçon 11-16
<i>Amical 2</i>	<i>Totem 3</i>																																
1. Leçon 1 pp. 8-9	<i>Totem 3</i> Leçon 5																																
2. Leçon 1 pp. 10-11, Leçon 2 pp. 12-13	Leçon 6																																
3. Leçon 2 pp. 14-15	Leçon 7																																
4. Leçon 3 pp. 16-17	Leçon 8																																
5. Leçon 3 pp. 18-19, Leçon 4 pp. 20-21	Leçon 9																																
6. Leçon 4 pp. 22-23	Leçon 10																																
7. Révision p. 24	<i>Révision</i> Leçon 5-10																																
8. Leçon 5 pp. 26-27	<i>Totem 3</i> Leçon 11																																
9. Leçon 5 pp. 28-29, Leçon 6 pp. 30-31	Leçon 12																																
10. Leçon 6 pp. 32-33	Leçon 13																																
11. Leçon 7 pp. 34-35	Leçon 14																																
12. Leçon 7 pp. 36-37, Leçon 8 pp. 38-39	Leçon 15																																
13. Leçon 8 pp. 40-41	Leçon 16																																
14. Révision p. 42	<i>Révision</i> Leçon 11-16																																
到達目標	フランス語の一般的な文法、語彙、文語・口語表現を総合的に習得し、運用できるようにする。																																
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。																																
テキスト	未修クラス：Amical 2 既修クラス：Totem 3																																
参考文献	必要に応じて各担当教員から指示。																																
評価方法	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。																																

09 年度以降	フランス語Ⅲ（TP）（既修クラスのみ履修）	担当者	堀 晋也
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では受講者自身で課題を設定し、自律学習を行っていただきます。自律学習とは学習者自身が目的・目標を定め、学習内容・教材を選び、実行し、成果を自己評価し、次のサイクルに移るという学習です。 教員からは、DELFLのA1～B2に対応した Compréhension orale の教材を準備します。そちらを進めていただいても結構ですし、RFI・TV5 などを使用した聞き取り、読解、作文、仏検・TCF・DELFL/DALFの対策など受講者自身が課題とする学習を進めていただいても結構です。要望があればそれに沿った学習素材も準備します。 いずれの場合もその日の学習成果物を提出していただき、教員が添削をして次回の授業で返却します。 学期末には半期間の学習内容を省察するレポートを提出していただきます。		教員が用意した教材を使用した場合の進度の目安です。 - Unité 1 Leçon 1: Faire une rencontre - Unité 1 Leçon 2: Faire connaissance - Unité 1 Leçon 3: Sortir ensemble - Unité 2 Leçon 1: Organiser sa journée - Unité 2 Leçon 2: Faire des choix - Unité 2 Leçon 3: Garder la forme - Unité 3 Leçon 1: Louer un appartement - Unité 3 Leçon 2: Déménager - Unité 3 Leçon 3: S'installer - Unité 4 Leçon 1: Partager un repas - Unité 4 Leçon 2: Faire les courses - Unité 4 Leçon 3: Faire les magasins - Unité 5 Leçon 1: Découvrir la ville - Unité 5 Leçon 2: Voyager	
到達目標	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Transcript を見て音声聞き直し、辞書を使って調べ直すなど時間をかけて添削内容の復習をすること		
テキスト	DELFL の A1～B2 に対応した Compréhension orale の教材を配布します。		
参考文献	特になし		
評価方法	学習成果物の提出 80%、レポート 20%		

09 年度以降	フランス語Ⅳ（TP）（既修クラスのみ履修）	担当者	堀 晋也
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では受講者自身で課題を設定し、自律学習を行っていただきます。自律学習とは学習者自身が目的・目標を定め、学習内容・教材を選び、実行し、成果を自己評価し、次のサイクルに移るという学習です。 教員からは、DELFLのA1～B2に対応した Compréhension orale の教材を準備します。そちらを進めていただいても結構ですし、RFI・TV5 などを使用した聞き取り、読解、作文、仏検・TCF・DELFL/DALFの対策など受講者自身が課題とする学習を進めていただいても結構です。要望があればそれに沿った学習素材も準備します。 いずれの場合もその日の学習成果物を提出していただき、教員が添削をして次回の授業で返却します。 学期末には半期間の学習内容を省察するレポートを提出していただきます。		教員が用意した教材を使用した場合の進度の目安です。 - Unité 1 Leçon 1: Trouver un emploi - Unité 1 Leçon 2: Faire carrière - Unité 1 Leçon 3: Rencontrer des difficultés - Unité 2 Leçon 1: Relater des faits passés - Unité 2 Leçon 2: Raconter la vie des gens - Unité 2 Leçon 3: Témoigner - Unité 3 Leçon 1: Pratiquer un sport - Unité 3 Leçon 2: Faire la fête - Unité 3 Leçon 3: Avoir des activités culturelles - Unité 4 Leçon 1: Vivre en famille - Unité 4 Leçon 2: Avoir des amis - Unité 4 Leçon 3: S'intéresser aux autres - Unité 5 Leçon 1: Découvrir l'information - Unité 5 Leçon 2: Se divertir	
到達目標	フランス語の初歩的なテキストを講読できる力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Transcript を見て音声聞き直し、辞書を使って調べ直すなど時間をかけて添削内容の復習をすること		
テキスト	DELFL の A1～B2 に対応した Compréhension orale の教材を配布します。		
参考文献	特になし		
評価方法	学習成果物の提出 80%、レポート 20%		

09 年度以降	フランス語Ⅲ（会話）（未修クラスのみ履修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業はフランス語の運用能力をつけることを目的としています。フランス語のネイティヴ・スピーカーが担当して、特に会話と決まった言い回しの修得を中心とした授業になります。教科書は、「総合」と連動して、同じAmical 1 を使用します。 授業の進め方については各担当教員から説明があります。		1. Leçon 17 pp. 84-85 2. Leçon 17 pp. 86-87, Leçon 18 pp. 88-89 3. Leçon 18 pp. 90-91 4. Leçon 19 pp. 92-93 5. Leçon 19 pp. 94-95, Leçon 20 pp. 96-97 6. Leçon 20 pp. 98-99 7. Révision p. 100 8. Leçon 21 pp. 102-103 9. Leçon 21 pp. 104-105, Leçon 22 pp. 106-107 10. Leçon 22 pp. 108-109 11. Leçon 23 pp. 110-111 12. Leçon 23 pp. 112-113, Leçon 24 pp. 114-115 13. Leçon 24 pp. 116-117 14. Révision p. 118 ※クラスによって多少進度に差があります。	
到達目標	一般的な事柄について口述のやりとりができるフランス語会話力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。		
テキスト	Amical 1		
参考文献	必要に応じて各担当教員から指示。		
評価方法	平常点と学期末試験（担当教員から指示があります）。		

09 年度以降	フランス語Ⅳ（会話）（未修クラスのみ履修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業はフランス語の運用能力をつけることを目的としています。フランス語のネイティブ・スピーカーが担当して、特に会話と決まった言い回しの修得を中心とした授業になります。教科書は、「総合」と連動して、同じAmical 2 を使用します。 授業の進め方については各担当教員から説明があります。		1. Leçon 1 pp. 8-9 2. Leçon 1 pp. 10-11, Leçon 2 pp. 12-13 3. Leçon 2 pp. 14-15 4. Leçon 3 pp. 16-17 5. Leçon 3 pp. 18-19, Leçon 4 pp. 20-21 6. Leçon 4 pp. 22-23 7. Révision p. 24 8. Leçon 5 pp. 26-27 9. Leçon 5 pp. 28-29, Leçon 6 pp. 30-31 10. Leçon 6 pp. 32-33 11. Leçon 7 pp. 34-35 12. Leçon 7 pp. 36-37, Leçon 8 pp. 38-39 13. Leçon 8 pp. 40-41 14. Révision p. 42 ※クラスによって多少進度に差があります。	
到達目標	一般的な事柄について口述のやりとりができるフランス語会話力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。		
テキスト	Amical 2		
参考文献	必要に応じて各担当教員から指示。		
評価方法	平常点と学期末試験（担当教員から指示があります）。		

09 年度以降	フランス語Ⅲ（構文）	担当者	井上 美穂
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業の目的は、フランス語でよくつかわれる構文を獲得し、使えるようになることです。まず教科書である構文を学習し、練習問題を解きます。次に、2人でペアになり、学習した構文を使って何回も会話練習を行うことによって、構文を身につけます。最初の授業からパソコンを使いますので、パソコンにログインできるように準備しておいて下さい。練習問題の解答はすべてワード文書に記入し、そのワード文書をクラス全体でモニターで見ながら添削を加えます。この手法をとることにより、時間の節約ができて、全員の答を順次見ることができます。		第1回 不特定の数の表現 第2回 不特定の量の表現 第3回 数量の近似表現 第4回 人・物の不定名詞表現 第5回 人・物の不定冠詞・形容詞的表現 第6回 ばくぜんとした主語・動作主の表現 第7回 場所の状況表現 第8回 空間の状況表現 第9回 時間の状況表現 第10回 原因・理由の状況表現 第11回 方法・様態の状況表現 第12回 ～のようなもの 第13回 まるで・いわば・ほとんど 第14回 程度の表現「いくらか・少し・やや・多少」	
到達目標	フランス語構文の使い分けや応用を理解し、正字法にしたがって正しい文章を作成する作文力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習は必要ありません。授業で学習した構文の応用力を身につけるために、復習を行うことが大切です。		
テキスト	石野好一「フランス語ニュアンス表現練習帳」第三書房		
参考文献	特になし		
評価方法	試験期間に行われるテストの得点で評価を行います。90 点以上が AA、80 点以上が A、70 点以上が B、60 点以上が C、60 点未満は不可になります。		

09 年度以降	フランス語Ⅳ（構文）	担当者	井上 美穂
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業の目的は、フランス語でよくつかわれる構文を獲得し、使えるようになることです。まず教科書である構文を学習し、練習問題を解きます。次に、2人でペアになり、学習した構文を使って何回も会話練習を行うことによって、構文を身につけます。最初の授業からパソコンを使いますので、パソコンにログインできるように準備しておいて下さい。練習問題の解答はすべてワード文書に記入し、そのワード文書をクラス全体でモニターで見ながら添削を加えます。この手法をとることにより、時間の節約ができて、全員の答を順次見ることができます。		第1回 程度の表現「半ば・半分」 第2回 程度の表現「まあまあ・なかなか」 第3回 程度の表現「とても・かなり」 第4回 叙法・時制のニュアンス 第5回 「かもしれない」「にちがいない」(1) 第6回 「かもしれない」「にちがいない」(2) 第7回 「たぶん」 第8回 「きっと」 第9回 「思う」 第10回 「ようだ」「そうだ」 第11回 「私としては」「～によれば」 第12回 否定 第13回 二重否定 第14回 依頼・疑問	
到達目標	フランス語構文の使い分けや応用を理解し、正字法にしたがって正しい文章を作成する作文力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習は必要ありません。授業で学習した構文の応用力を身につけるために、復習を行うことが大切です。		
テキスト	石野好一「フランス語ニュアンス表現練習帳」第三書房		
参考文献	特になし		
評価方法	試験期間に行われるテストの得点で評価を行います。90 点以上が AA、80 点以上が A、70 点以上が B、60 点以上が C、60 点未満は不可になります。		

09 年度以降	フランス語Ⅲ（構文）	担当者	木田 剛
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> 1 年次に習得した初級文法の知識をもとに、フランス語で「発信する」ために必要な構文を学習することを目的とする。必要に応じて1年次で学習した文法項目や語彙も復習しながら、また英語との比較を通して、フランス語特有の文の構造を理解することに重点をおく。 <講義概要> 基本的な構文学習のために、言語行為の表現の習得に重点を置く。モデル文を参考に、短い文を書く練習や聞き取り訓練を行う。それぞれの文について受講生自身が自分で考えることが何よりも大切になる。どの語や表現が適切か自分自身で判断して、実際に単語をつなげて文にしていく過程を通して、フランス語構文の基礎を身に着ける。また、随時、英語との比較も行う。		1. 1課「助言する」語彙と文法 2. 1課「助言する」発音と練習問題 3. 2課「誤る」語彙と文法 4. 2課「誤る」発音と練習問題 5. 3課「依頼する」語彙と文法 6. 3課「依頼する」発音と練習問題 7. まとめ・小テスト 8. 4課「残念に思う」語彙と文法 9. 4課「残念に思う」発音と練習問題 10. 5課「抗議する」語彙と文法 11. 5課「抗議する」発音と練習問題 12. 6課「賛成・反対意見を言う」語彙と文法 13. 6課「賛成・反対意見を言う」発音と練習問題 14. まとめ・小テスト	
到達目標	フランス語構文の使い分けや応用を理解し、正字法にしたがって正しい文章を作成する作文力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	課題がある週には準備し、ない週には学習項目の整理を行う。		
テキスト	藤田裕二『新訂版・エスカルゴ 2』（Escargot 2—Nouvelle édition）朝日出版		
参考文献	倉方秀憲『Nouvelle grammaire systématique du français』 早美出版社		
評価方法	常点（授業中の積極性、課題への取り組み等）を 30%、小テストを 70%の配分を目処に評価する。		

09 年度以降	フランス語Ⅳ（構文）	担当者	木田 剛
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> 春学期に引き続き「発信するフランス語」を念頭において、さらに実践力を高めていくことが主な目的である。春学期よりも語彙と表現をさらに増やして、3年次で行われるテキスト論や講読などの授業につなげるための準備段階の授業として、より複雑な構文の知識を身に付ける。随時、英語との比較も行う。 <講義概要> 文を書く能力や聞き取り能力をブラッシュアップして、文法と構文の知識を春学期よりさらに確実なものにしつつ、こなれた会話や討論ができるレベルにしていく。最終的な目標はフランス語での新聞を読めたりラジオが聞けたりというように、生のフランス語が理解できるようになることとする。		7課「承諾する・断る」語彙と文法 7課「承諾する・断る」発音と練習問題 8課「興味を示す」語彙と文法 8課「興味を示す」発音と練習問題 9課「時の表現」語彙と文法 9課「時の表現」発音と練習問題 - まとめ・小テスト 10課「場所の表現」語彙と文法 10課「場所の表現」発音と練習問題 11課「論理の表現」語彙と文法 11課「論理の表現」発音と練習問題 12課「文学・思想」語彙と文法 12課「文学・思想」発音と練習問題 - まとめ・小テスト	
到達目標	フランス語構文の使い分けや応用を理解し、正字法にしたがって正しい文章を作成する作文力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	課題がある週には準備し、ない週には学習項目の整理を行う。		
テキスト	藤田裕二『新訂版・エスカルゴ 2』（Escargot 2—Nouvelle édition）朝日出版		
参考文献	倉方秀憲『Nouvelle grammaire systématique du français』 早美出版社		
評価方法	平常点（授業中の積極性、課題への取り組み等）を 30%、小テストを 70%の配分を目処に評価する。		

09 年度以降	フランス語Ⅲ（構文）	担当者	田桐 正彦
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、「フランス語作文の基礎を学ぶ」をテーマに、基本的な構文を学んでいきます。 容易なものから、階段を一段ずつ上るように徐々に高度な問題へ進んでいきます。 各回の授業は、まずひとつずつ構文の例を解説します。 次に各自、その構文を用いてフランス語を書く練習問題に取り組んでももらいます。 演習形式の授業です。		1. ガイダンス、L. 3 主語+動詞+直接目的語 2. L. 4 主語+動詞+間接目的語+ 3. L. 5 主語+動詞+直接目的語+間接目的語 4. L. 6 主語+動詞+直接目的語+属詞 5. L. 7 avoir の慣用句、前置詞+形容詞 6. L. 8 動詞+前置詞+不定詞 7. 中間テスト テスト、正解例解説 8. L. 9 現在（１）、未来 9. L. 10 現在（２）、過去 10. L. 11 疑問詞、感嘆文 11. L. 12 非人称構文、on 12. L. 13 代名詞 13. L. 15 代名動詞 14. L. 16 受動態、使役動詞、知覚動詞	
到達目標	フランス語構文の使い分けや応用を理解し、正字法にしたがって正しい文章を作成する作文力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習は教科書の指定箇所に目を通しておくこと。復習は間違いを理解し解答を覚えること。		
テキスト	福井芳男・柏岡珠子『フランス語作文の基礎』（駿河台出版社、平成 19 年 7 刷）		
参考文献	文法の教科書を参考にしてください。		
評価方法	定期試験 70%、平常点 30%		

09 年度以降	フランス語Ⅳ（構文）	担当者	田桐 正彦
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、「フランス語作文の力を伸ばす」をテーマに、やや高度な構文を学んでいきます。 比較的容易なものから、階段を上るようにすこしずつ高度な問題へと進んでいきます。 各回の授業は、まずひとつずつ構文の例を解説します。 次に各自、その構文を用いてフランス語を書く練習問題に取り組んでももらいます。 演習形式の授業です。		1. ガイダンス、L. 1 副詞句 2. L. 2 形容詞句、形容詞節（1） 3. L. 3 形容詞節（2） 4. L. 4 名詞節（1） 5. L. 5 名詞節（2） 6. L. 6 名詞節（3） 7. 中間テスト テストと正解例解説 8. L. 7 分詞、ジェロンディフ 9. L. 8 副詞節（1） 時 10. L. 9 副詞節（2） 仮定、条件 11. L. 10 副詞節（3） 理由、原因 12. L. 11 副詞節（4） 目的、結果 13. L. 12 副詞節（5） 対立、譲歩 14. L. 13 名詞構文、成句	
到達目標	フランス語構文の使い分けや応用を理解し、正字法にしたがって正しい文章を作成する作文力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習は教科書の指定箇所に目を通しておくこと。復習は間違いを理解し解答を覚えること。		
テキスト	福井芳男・中井珠子・田辺保子『フランス語の作文—複文の理解』（駿河台出版社、2015 年 6 刷）		
参考文献	文法の教科書を参考にしてください。		
評価方法	定期試験 70%、平常点 30%		

09 年度以降	フランス語Ⅲ（構文）	担当者	竹内 久雄
講義目的、講義概要		授業計画	
(1) 学習目標：フランス語についての中級レベルの知識、運用能力を深める。フランス語を様々な視点からとらえる力を養う。(2) 授業概要：中級レベルのフランス語についての知識、運用能力を深める。問題練習としては、構文理解、作文、語彙を増やすこと（派生語、関連語、名詞化などにより）、論理的展開を助ける表現の理解などを試みます。クラスの人数によっては聞き取り、書きとりも考えます。必要に応じて、基本文法の復習を行います。		(1) 動詞時制復習とまとめ 1 (2) 動詞時制復習とまとめ 2 (3) 動詞時制復習とまとめ 3 (4) 語彙を増やす. 1 (5) 語彙を増やす. 2 (6) 語彙を増やす. 3 (7) 文をつなぐ、論理的文章 1 (8) 文をつなぐ、論理的文章 2 (9) 文をつなぐ、論理的文章 3 (10) 文をつなぐ、論理的文章 4 (11) 動詞を使いこなす 1 (12) 動詞を使いこなす 2 (13) 動詞を使いこなす 3 (14) まとめと復習、総まとめ	
到達目標	フランス語構文の使い分けや応用を理解し、正字法にしたがって正しい文章を作成する作文力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業と並行して初級文法の参考書を読む。		
テキスト	プリント使用		
参考文献	白水社中級フランス語シリーズ		
評価方法	平常点（発表、宿題など：50%）と期末試験（50%）		

09 年度以降	フランス語Ⅳ（構文）	担当者	竹内 久雄
講義目的、講義概要		授業計画	
(1) 学習目標：フランス語についての中級レベルの知識、運用能力を深める。フランス語を様々な視点からとらえる力を養う。(2) 授業概要：中級レベルのフランス語についての知識、運用能力を深める。問題練習としては、構文理解、作文、語彙を増やすこと（派生語、関連語、名詞化などにより）、論理的展開を助ける表現の理解などを試みます。クラスの人数によっては聞き取り、書きとりも考えます。必要に応じて、基本文法の復習を行います。		(1) 動詞時制応用 1 (2) 動詞時制応用 2 (3) 動詞時制応用 3 (4) 複文に慣れる 1 (5) 複文に慣れる 2 (6) 複文に慣れる 3 (7) 文をつなぐ、論理的文章・分詞表現 1 (8) 文をつなぐ、論理的文章・分詞表現 2 (9) 文をつなぐ、論理的文章・分詞表現 3 (10) 分詞表現 (11) 分詞表現 (12) 語彙を増やす（同義語、名詞化など）. 1 (13) 語彙を増やす（同義語、名詞化など）. 2 (14) まとめと復習、総まとめ	
到達目標	フランス語構文の使い分けや応用を理解し、正字法にしたがって正しい文章を作成する作文力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業と並行して初級文法の参考書を読む。		
テキスト	プリント使用		
参考文献	白水社中級フランス語シリーズ		
評価方法	平常点（発表、宿題など：50%）と期末試験（50%）		

09 年度以降	フランス語Ⅲ（構文）	担当者	富塚 真理子
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、一年次の初級文法の知識を活用し、フランス語で文章を書く為に必要な構文を学習します。実際に使用するテキストは、文章表現を充実させるべく編まれたものですが、文の構造にも重点を置きながら、出来る限り多くの、かつ豊かなフランス語表現の習得を目指します。基本的な構文学習の為に、短い単文を書く作文課題から、より複雑で少し長めの複文（関係代名詞の使用、仮定を表す条件法の文、直接話法と間接話法の文など）を扱う課題まで、専ら教科書の練習問題に取り組みます。いずれは長文での作文が可能となるプロセスですので、学習の際には、どの文の構造も自分自身立ち止まって、よく考えることが大切です。また、その都度、各自準備した解答は「大きな声で」発表してもらいますので、普段から正しい発音を意識した上「朗読練習」に励んでください。		1. 授業の概要 2. 不特定の数の表現（1） 3. 不特定の数の表現（2） 4. 数量（時間・年齢）の近似表現 5. 人・物の不定名詞表現 6. 人・物の不定冠詞・形容詞的表現 7. 漠然とした主語・動作主の表現 8. 中間試験、諸事検討 9. 場所・空間の状況表現 10. 時間の状況表現 11. 原因・理由の状況表現 12. 方法・様態の状況表現 13. 「～のようなもの」の表現 14. 期末試験、諸事検討	
到達目標	フランス語構文の使い分けや応用を理解し、正字法にしたがって正しい文章を作成する作文力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に十分準備しておいてください。とくに、音読が大事です。		
テキスト	石野好一『フランス語ニュアンス表現練習帳』（第三書房、2017 年）		
参考文献	石野好一『フランス語の意味とニュアンスー基礎から身につく表現力』（第三書房、1997 年）		
評価方法	定期試験 70%、小テスト 20%、授業での発言 10%		

09 年度以降	フランス語Ⅳ（構文）	担当者	富塚 真理子
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、一年次の初級文法の知識を活用し、フランス語で文章を書く為に必要な構文を学習します。実際に使用するテキストは、文章表現を充実させるべく編まれたものですが、文の構造にも重点を置きながら、出来る限り多くの、かつ豊かなフランス語表現の習得を目指します。基本的な構文学習の為に、短い単文を書く作文課題から、より複雑で少し長めの複文（関係代名詞の使用、仮定を表す条件法の文、直接話法と間接話法の文など）を扱う課題まで、専ら教科書の練習問題に取り組みます。いずれは長文での作文が可能となるプロセスですので、学習の際には、どの文の構造も自分自身立ち止まって、よく考えることが大切です。また、その都度、各自準備した解答は「大きな声で」発表してもらいますので、普段から正しい発音を意識した上「朗読練習」に励んでください。		1. 授業の概要 2. 「まるで・いわば・ほとんど～」の表現 3. 程度の表現「いくらか・少し・やや・多少」 4. 程度の表現「半ば・半分」 5. 程度の表現「まあまあ・なかなか」 6. 程度の表現「とても・かなり」 7. 叙法・時制のニュアンス 8. 中間試験、諸事検討 9. 「かもしれない」「～にちがいない」の表現（1） 10. 「かもしれない」「～にちがいない」の表現（2） 11. 「たぶん」「きっと」の表現 12. 「思う」「ようだ」「そうだ」の表現 13. 「私としては」「～によれば」の表現 14. 期末試験、諸事検討	
到達目標	フランス語構文の使い分けや応用を理解し、正字法にしたがって正しい文章を作成する作文力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に十分準備しておいてください。とくに、音読が大事です。		
テキスト	石野好一『フランス語ニュアンス表現練習帳』（第三書房、2017 年）		
参考文献	石野好一『フランス語の意味とニュアンスー基礎から身につく表現力』（第三書房、1997 年）		
評価方法	定期試験 70%、小テスト 20%、授業での発言 10%		

09 年度以降	フランス芸術文化入門Ⅰ	担当者	根木 昭英
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、フランスの芸術文化に関する基礎知識の習得、そして3・4年の専門科目への導入を目的としています。 春学期は、大衆文学、思想、美術、バレエ、音楽などについて学びます。 これらの分野はばらばらに存在しているわけではなく、必ずどこかで関連しあい、つながりあっています。講義を通じて、それぞれのトピックがどのようにして現在のフランスを形作っているのかを考えるようにしてください。 この科目はフランス語学科の基礎科目になっているので、授業はフランス語学科の学生を念頭において行われます。他学科の学生もこの授業を履修できますが、そのことを了承したうえで受講するようにしてください。 初回の授業に詳細を説明しますので、必ず出席してください。		1. ガイダンス (根木昭英) 2. 図書館セミナー (根木昭英) 3. フランスの思想：「思想」「哲学」とは (根木昭英) 4. フランスの思想：ルソー (根木昭英) 5. 大衆文学：フランスの大衆文学とは (筒井伸保) 6. 大衆文学：ヴェルヌ (筒井伸保) 7. 大衆文学：ルブランとルルー (筒井伸保) 8. 公開授業：フランスの映画 (外部講師) 9. フランスの思想：ボードリヤール (根木昭英) 10. フランスの音楽 (阿部明日香) 11. フランスのバレエ (阿部明日香) 12. フランスの美術館と美術:ルーヴル美術館 (阿部明日香) 13. フランスの建築 (根木昭英) 14. まとめ (根木昭英)	
到達目標	フランスの芸術・文化（文学・言語・音楽・思想・美術など）に関する基礎的な知識を習得し、鑑賞・批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に各講義の主題について知識を得ておくことが望まれます（大学ポータルサイトを通じて指示がなされる場合があります）。要点の復習を行ってください。		
テキスト	講義のなかで、あるいは大学ポータルサイトを通じて資料を配布します。		
参考文献	それぞれの授業担当者から講義内で直接指示があります。		
評価方法	各教員の課した小テストまたはコメントペーパーによって評価します。（100％）		

09 年度以降	フランス芸術文化入門Ⅱ	担当者	根木 昭英
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的は春学期を参照してください。 秋学期にはフランスの食文化、演劇、詩と歌、現代文学、美術などについて学びます。 春学期同様、それぞれのトピックの関連を意識し、今後の学びに役立ててください。 この科目はフランス語学科の基礎科目になっているので、授業はフランス語学科の学生を念頭において行われます。他学科の学生もこの授業を履修できますが、そのことを了承したうえで受講するようにしてください。		1. ガイダンス (根木昭英) 2. フランスの食文化：中世～18世紀 (江花輝昭) 3. フランスの食文化：19世紀～20世紀 (江花輝昭) 4. フランスの食文化：現代 (江花輝昭) 5. フランスの宗教：中世から近世まで (清水雄大) 6. フランスの演劇：聖史劇から古典主義まで (清水雄大) 7. フランスの詩と歌：2019年現在 (G. Veyssière) 8. フランスの詩と歌：中世～20世紀初頭 (G. Veyssière) 9. フランスの詩と歌：1930～2010年代 (G. Veyssière) 10. フランスの近現代文学：19世紀 (森井良) 11. フランスの近現代文学：20世紀 (森井良) 12. フランスの近現代文学：現在 (森井良) 13. フランスの美術館と美術:オルセー美術館 (阿部明日香) 14. まとめ (根木昭英)	
到達目標	フランスの芸術・文化（文学・言語・音楽・思想・美術など）に関する基礎的な知識を習得し、鑑賞・批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に各講義の主題について知識を得ておくことが望まれます（大学ポータルサイトを通じて指示がなされる場合があります）。要点の復習を行ってください。		
テキスト	講義のなかで、あるいは大学ポータルサイトを通じて資料を配布します。		
参考文献	それぞれの授業担当者から講義内で直接指示があります。		
評価方法	各教員の課した小テストまたはコメントペーパーによって評価します。（100％）		

09 年度以降	フランス現代社会入門 I	担当者	横地 卓哉
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス現代社会を理解するために必要な基礎知識を習得することを目標とする授業です。授業は、複数の教員によるオムニバス形式でおこないます。 この科目はフランス語学科の基礎科目になっているので、授業はフランス語学科の学生を念頭においておこなわれます。他学科の学生もこの授業を履修できますが、このことを了承したうえで受講するようにしてください。 初回の授業で詳細を説明しますので、受講希望者はかならず出席してください。		1) ガイダンス (横地卓哉) 2) フランスの歴史：古代・中世 (藤田朋久) 3) フランスの歴史：アンシアン・レジーム (藤田朋久) 4) フランスの歴史：フランス革命から第2 帝政へ (福井憲彦) 5) フランスの歴史：第2 帝政から第3 共和政へ (福井憲彦) 6) フランスの国土 (横地卓哉) 7) 20 世紀フランスの歴史 (福井憲彦) 8) 世界とフランス語 (田中善英) 9) フランス語学入門 (田中善英) 10) フランコフォニー：歴史 (Ph. ヴァネ) 11) フランコフォニー：現状 (Ph. ヴァネ) 12) パリ：19 世紀の首都 (横地卓哉) 13) パリ：2024 年そして未来へ (横地卓哉) 14) まとめ (横地卓哉)	
到達目標	フランスの現代社会（地域、歴史、政治経済、教育など）に関する基礎的な知識を習得し、分析および見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に事典や参考文献で各講義の主題について知識を得ておくことが望まれます（大学ポータルサイトで指示がなされる場合があります）。事後には資料やノートを整理し、内容を確認するようにしてください。		
テキスト	大学ポータルサイトによる添付資料・授業中のプリントのかたちで配布。		
参考文献	各教員から指示があります。		
評価方法	各教員による小テストまたはコメントペーパーをもとに評価します。（100％）		

09 年度以降	フランス現代社会入門 II	担当者	横地 卓哉
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス現代社会を理解するために必要な基礎知識を習得することを目標とする授業です。授業は、複数の教員によるオムニバス形式でおこないます。 この科目はフランス語学科の基礎科目になっているので、授業はフランス語学科の学生を念頭においておこなわれます。他学科の学生もこの授業を履修できますが、このことを了承したうえで受講するようにしてください。 初回の授業で詳細を説明しますので、受講希望者はかならず出席してください。		1) ガイダンス (横地卓哉) 2) フランスの経済 (廣田愛理) 3) グローバル化とフランス人 (廣田愛理) 4) フランスの政治 (右と左) (尾玉剛士) 5) フランスの政治 (最近の潮流) (尾玉剛士) 6) 共和国の理念 (根木昭英) 7) フランスの教育制度 (中村公子) 8) フランスの教育と生活 (中村公子) 9) ライシテとスカーフ問題 (根木昭英) 10) フランス語とマルチモダリティ (木田 剛) 11) フランス語と言語景観 (木田 剛) 12) フランス語とグローバル社会 (木田 剛) 13) 時事問題 (横地卓哉) 14) まとめ (横地卓哉)	
到達目標	フランスの現代社会（地域、歴史、政治経済、教育など）に関する基礎的な知識を習得し、分析および見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に事典や参考文献で各講義の主題について知識を得ておくことが望まれます（大学ポータルサイトで指示がなされる場合があります）。事後には資料やノートを整理し、内容を確認するようにしてください。		
テキスト	大学ポータルサイトによる添付資料・授業中のプリントのかたちで配布。		
参考文献	各教員から指示があります。		
評価方法	各教員による小テストまたはコメントペーパーをもとに評価します。（100％）		

09 年度以降	総合フランス語 I	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
Le but de ce cours est d'approfondir la connaissance de la langue française aussi bien sur le plan grammatical que lexical. Il prend la suite des cours de Sogo des premières années mais il n'a lieu qu'une fois par semaine avec un enseignant francophone. Vous devez donc travailler personnellement à la maison et préparer à l'avance. Le groupe 3-1 utilise Totem 3 à partir de la leçon 17 ; les groups 2,3,4 et 5 : Amical 2 à partir de l'unité 3. On insistera surtout sur la compréhension à l'écrit et à l'oral et sur l'expression écrite.		<i>Amical 2</i>	<i>Totem 3</i>
		1. Leçon 9 pp. 44-45 2. Leçon 9 pp. 46-47, Leçon 10 pp. 48-49 3. Leçon 10 pp. 50-51 4. Leçon 11 pp. 52-53 5. Leçon 11 pp. 54-55, Leçon 12 pp. 56-57 6. Leçon 12 pp. 58-59 7. Révision 60-62 8. Leçon 13 pp. 64-65 9. Leçon 13 pp.66-67, Leçon 14 pp.68-69 10. Leçon 14 pp.70-71 11. Leçon 15 pp.72-73 12. Leçon 15 pp.74-75, Leçon 16 pp.76-77 13. Leçon 16 pp.78-79 14. Révision pp.80 Leçon 17 Leçon 18 Leçon 19 Leçon 20 Leçon 21 Leçon 22 Leçon 23 Leçon 24 Leçon 25 Révision Leçon 17-25 Leçon 26 Leçon 27 Leçon 28 Révision Leçon 26-28	
到達目標	習得した文法、語彙、文語・口語表現、構文などを用いて日常生活の様々なテーマについて論理的な表現ができ、また、フランス語母語者との間で一般的な会話や議論ができるといった、総合的なフランス語運用ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。		
テキスト	未修クラス： <i>Amical 2</i> 既修クラス： <i>Totem 3</i>		
参考文献	必要に応じて各担当教員から指示。		
評価方法	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。		

09 年度以降	総合フランス語Ⅱ	担当者	各担当教員																																								
講義目的、講義概要		授業計画																																									
Le but de ce cours est d'approfondir la connaissance de la langue française aussi bien sur le plan grammatical que lexical. Il prend la suite des cours de Sogo des premières années mais il n'a lieu qu'une fois par semaine avec un enseignant francophone. Vous devez donc travailler personnellement à la maison et préparer à l'avance. Le groupe 3-1 utilise Totem 3 à partir de la leçon 29 ; les groups 2,3,4 et 5 : Amical 2 à partir de l'unité 5. On insistera surtout sur la compréhension à l'écrit et à l'oral et sur l'expression écrite.		<i>Amical 2</i> <i>Totem 3</i>																																									
		<table><tr><td>1.</td><td>Leçon 17 pp. 82-83</td><td>Leçon 29</td></tr><tr><td>2.</td><td>Leçon 17 pp. 84-85, Leçon 18 pp. 86-87</td><td>Leçon 30</td></tr><tr><td>3.</td><td>Leçon 18 pp. 88-89</td><td>Leçon 31</td></tr><tr><td>4.</td><td>Leçon 19 pp. 90-91</td><td>Leçon 32</td></tr><tr><td>5.</td><td>Leçon 19 pp. 92-93, Leçon 20 pp. 94-95</td><td>Leçon 33</td></tr><tr><td>6.</td><td>Leçon 20 pp. 96-97</td><td>Leçon 34</td></tr><tr><td>7.</td><td>Révision 98</td><td>Leçon 35</td></tr><tr><td>8.</td><td>Leçon 21 pp. 100-101</td><td>Révision Leçon 29-35</td></tr><tr><td>9.</td><td>Leçon 21 pp. 102-103, Leçon 22 pp. 104-105</td><td>Leçon 36</td></tr><tr><td>10.</td><td>Leçon 22 pp. 106-107</td><td>Leçon 37</td></tr><tr><td>11.</td><td>Leçon 23 pp. 108-109</td><td>Leçon 38</td></tr><tr><td>12.</td><td>Leçon 23 pp. 110-111, Leçon 24 pp. 112-113</td><td>Leçon 39</td></tr><tr><td>13.</td><td>Leçon 24 pp. 114-115</td><td>Leçon 40</td></tr><tr><td>14.</td><td>Révision p. 116</td><td>Révision Leçon 36-40</td></tr></table> ※クラスによって多少進度に差があります。		1.	Leçon 17 pp. 82-83	Leçon 29	2.	Leçon 17 pp. 84-85, Leçon 18 pp. 86-87	Leçon 30	3.	Leçon 18 pp. 88-89	Leçon 31	4.	Leçon 19 pp. 90-91	Leçon 32	5.	Leçon 19 pp. 92-93, Leçon 20 pp. 94-95	Leçon 33	6.	Leçon 20 pp. 96-97	Leçon 34	7.	Révision 98	Leçon 35	8.	Leçon 21 pp. 100-101	Révision Leçon 29-35	9.	Leçon 21 pp. 102-103, Leçon 22 pp. 104-105	Leçon 36	10.	Leçon 22 pp. 106-107	Leçon 37	11.	Leçon 23 pp. 108-109	Leçon 38	12.	Leçon 23 pp. 110-111, Leçon 24 pp. 112-113	Leçon 39	13.	Leçon 24 pp. 114-115	Leçon 40	14.
1.	Leçon 17 pp. 82-83	Leçon 29																																									
2.	Leçon 17 pp. 84-85, Leçon 18 pp. 86-87	Leçon 30																																									
3.	Leçon 18 pp. 88-89	Leçon 31																																									
4.	Leçon 19 pp. 90-91	Leçon 32																																									
5.	Leçon 19 pp. 92-93, Leçon 20 pp. 94-95	Leçon 33																																									
6.	Leçon 20 pp. 96-97	Leçon 34																																									
7.	Révision 98	Leçon 35																																									
8.	Leçon 21 pp. 100-101	Révision Leçon 29-35																																									
9.	Leçon 21 pp. 102-103, Leçon 22 pp. 104-105	Leçon 36																																									
10.	Leçon 22 pp. 106-107	Leçon 37																																									
11.	Leçon 23 pp. 108-109	Leçon 38																																									
12.	Leçon 23 pp. 110-111, Leçon 24 pp. 112-113	Leçon 39																																									
13.	Leçon 24 pp. 114-115	Leçon 40																																									
14.	Révision p. 116	Révision Leçon 36-40																																									
到達目標	習得した文法、語彙、文語・口語表現、構文などを用いて日常生活の様々なテーマについて論理的な表現ができ、また、フランス語母語者との間で一般的な会話や議論ができるといった、総合的なフランス語運用ができるようにする。																																										
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。																																										
テキスト	未修クラス： <i>Amical 2</i> 既修クラス： <i>Totem 3</i>																																										
参考文献	必要に応じて各担当教員から指示。																																										
評価方法	平常点、学期末試験（担当教員から指示があります）。																																										

09 年度以降	フランス語文章表現法 I	担当者	P h . ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
Au temps des smartphones et d'internet, écrire est toujours un moyen de communication et un moyen d'approfondir ses idées et sentiments. Dans ce but, on utilise des règles de logique à découvrir en classe : 1) Exercices sur les articulations et les expressions de la cause, de la conséquence, du but, de l'opposition. 2) Travail sur le plan et comment écrire une introduction, une conclusion, un paragraphe. - Avant chaque cours, écrire un petit message de la forme Tweet. - Une fois par semestre, chaque étudiant écrit librement une composition. Ce « grand devoir » est rendu 3 fois. Au cours des deux premières fois, j'indique les endroits à modifier. Après la troisième rédaction, je propose une correction possible		1. Présentation 2. Découverte de la. logique d'un texte. 3. Reconstitution d'un texte. 4. Découverte des articulations d'un texte. 5. Exercices à trous. 1^{ère} version du grand devoir. 6. Notion de plan à partir des articulations. 7. Les expressions de la cause. 8. Exercices sur la cause. 2^e version du grand devoir. 9. Les expressions de la conséquence. 10. Exercices sur la conséquence. 11. Les expressions du but. 12. Exercices sur le but. 3^e version du grand devoir. 13. Les expressions de l'opposition. 14. Exercices sur l'opposition. commentaires sur la version finale du grand devoir.	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Écrire un petit message (format tweet), préparer les exercices, faire 3 fois le « grand devoir ».		
テキスト	Photocopies.		
参考文献	Avoir si possible un dictionnaire français-français, par exemple le <i>Larousse de poche</i> 2019.		
評価方法	La 3 ^e version du « grand devoir » est notée (100%).		

09 年度以降	フランス語文章表現法Ⅱ	担当者	P h . ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
Voir ci-dessus les explications données pour le 1er semestre.		1. Présentation 2. Comment lire et comprendre un sujet de devoir. 3. Exercices sur la compréhension des sujets de devoir. 4. Comment rechercher des idées. 1^{ère} version du devoir. 5. Exercices sur la recherche des idées. 6. Comment classer les idées. 7. Exercices sur le classement. 2^e version du devoir. 8. Comment construire un plan 9. les plans en deux parties 10. Les plans en trois parties. 11. Différents types d'introduction. 3^e version du devoir. 12. Différents types de conclusion. 13. Commentaires sur le grand devoir 14. Conclusions générales. Retour à la question de la logique d'un texte.	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Écrire un petit message (format tweet), préparer les exercices, faire 3 fois le « grand devoir ».		
テキスト	Photocopies.		
参考文献	Avoir si possible un dictionnaire français-français, par exemple le <i>Larousse de poche</i> 2019.		
評価方法	La 3 ^e version du « grand devoir » est notée (100%).		

09 年度以降	フランス語文章表現法 I	担当者	C h . ペリセロ
講義目的、講義概要		授業計画	
Objectifs - S’habituer à écrire en français de courts textes. (PE) - S’entraîner à la compréhension écrite (CE) - Pratiquer le grammaire (GR) - Acquérir du vocabulaire (V) - Faire des dictées (D) Contenu : Ce cours s’adresse aux étudiants qui souhaitent améliorer leur compétence à l’écrit, étendre leur vocabulaire et préciser leurs connaissances en grammaire dans des activités simples et créatrices. ※とくにTCF280点以上取得者の積極的な受講をすすめます。		1. Présentation du cours. 2. Auto-portrait : CE, GR, V, D 3. Auto-portrait : PE 4. Journal intime : CE, GR, V, D 5. Journal intime : PE 6. Raconter un souvenir : CE, GR, V, D 7. Raconter un souvenir : PE 8. Visitez le Japon ! : CE, GR, V, D 9. Visitez le Japon ! : PE 10. Si j’étais... : CE, GR, V, D 11. Si j’étais... : PE 12. Dans 100 ans... : CE, GR, V, D 13. Dans 100 ans... : PE 14. Remise et correction des devoirs.	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Auto-correction des erreurs simples		
テキスト	Photocopies, un dictionnaire est utile.		
参考文献	Travail en groupe ou seul		
評価方法	Contrôle continu par devoirs à remettre.		

09 年度以降	フランス語文章表現法Ⅱ	担当者	C h . ペリセロ
講義目的、講義概要		授業計画	
Objectifs - S'habituer à écrire en français de courts textes. (PE) - S'entraîner à la compréhension écrite (CE) - Pratiquer le grammaire (GR) - Acquérir du vocabulaire (V) - Faires des dictées (D) Contenu : Ce cours s'adresse aux étudiants qui souhaitent améliorer leur compétence à l'écrit, étendre leur vocabulaire et préciser leurs connaissances en grammaire dans des activités simples et créatrices. ※とくにTCF280点以上取得者の積極的な受講をすすめます。		1. Présentation du cours. 2. Décrire un lieu : CE, GR, V, D 3. Décrire un lieu : PE 4. Une recette ! : CE, GR, V, D 5. Une recette ! : PE 6. Je pense que... : CE, GR, V, D 7. Je pense que... : PE 8. Ecrire une critique de film ! : CE, GR, V, D 9. Visionnage du film 10. Ecrire une critique de film ! PE 11. Préservons la nature ! : CE, GR, V, D 12. Préservons la nature ! : PE 13. Jeux d'écriture. 14. Remise et correction des devoirs.	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Auto-correction des erreurs simples		
テキスト	Photocopies, un dictionnaire est utile.		
参考文献	Travail en groupe ou seul		
評価方法	Contrôle continu par devoirs à remettre.		

09 年度以降	フランス語文章表現法 I	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
Commencer à écrire en français de petits textes portant sur des sujets divers. Contenu du cours : Ce cours s'adresse tout particulièrement aux étudiants qui souhaitent revoir les points grammaticaux de base. Tout au long de l'année, je proposerai aux étudiants des exercices diversifiés qui, en fin de parcours, leur permettront de rédiger avec un certain plaisir de petits textes en français. Le principe consistera à partir du plus simple pour aller vers des choses un peu plus compliquées. Pour commencer notre séance d'écriture hebdomadaire nous prendrons l'habitude d'écrire ce qui nous passe par la tête en 2 ou 3 phrases et en toute spontanéité.		1. Présentation du cours 2. Se présenter par écrit 3. Présenter sa famille 4. Ecrire sur son quartier 5. Ecrire sur sa ville natale 6. Ecrire à un(e) ami(e) pour être hébergé(e) 7. Ecrire sur un souvenir d'enfance 8. Description d'une personne aimée dans son enfance 9. Ecrire sur un livre qu'on a aimé 10. Ecrire sur l'importance de la lecture 11. Ecrire sur un film qu'on a aimé 12. Ecrire sur l'importance de l'image 13. Ecrire pour refuser un petit boulot 14. Bilan	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Ecrire encore une fois le texte corrigé.		
テキスト	Photocopies		
参考文献	Apporter un dictionnaire FRANÇAIS		
評価方法	Contrôle continu. Deux textes à écrire au cours du semestre. Participation régulière aux cours souhaitée.		

09 年度以降	フランス語文章表現法Ⅱ	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
Commencer à écrire en français de petits textes portant sur des sujets divers. Contenu du cours : Ce cours s'adresse tout particulièrement aux étudiants qui souhaitent revoir les points grammaticaux de base. Tout au long de l'année, je proposerai aux étudiants des exercices diversifiés qui, en fin de parcours, leur permettront de rédiger avec un certain plaisir de petits textes en français. Le principe consistera à partir du plus simple pour aller vers des choses un peu plus compliquées. Pour commencer notre séance d'écriture hebdomadaire nous prendrons l'habitude d'écrire ce qui nous passe par la tête en 2 ou 3 phrases et en toute spontanéité.		1. Mise en train. Ecriture en toute liberté 2. Ecrire sur un travail que j'aimerais faire 3. Ecrire sur le travail des femmes 4. Ecrire sur un pays où j'aimerais vivre 5. Ecrire sur ma maison idéale 6. Ecrire sur l'utilité des compétitions sportives internationales 7. Ecrire sur les jeux olympiques 8. Quel enfant j'étais ? 9. Mes parents 10. Rêver : ma vie dans 10 ans 11. Rêver : ma famille idéale 12. Mon école idéale 13. Mon université idéale 14. Ecrire une histoire d'amour	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Ecrire encore une fois le texte corrigé.		
テキスト	Photocopies		
参考文献	Apporter un dictionnaire FRANÇAIS		
評価方法	Contrôle continu. Deux textes à écrire au cours du deuxième semestre. Participation régulière aux cours souhaitée.		

09 年度以降	フランス語文章表現法 I	担当者	山崎 夏絵
講義目的、講義概要		授業計画	
自分の言いたいことをフランス語で表現するためには、文法知識の他に、語彙や表現に関する知識が必要になります。この授業では、まずそれぞれのテーマに即したフランス語の文章を読みながら、文法、語彙、表現を学びます。その後で、学んだ事を応用して実際に文章を書いていきます。 授業中に辞書を使用しますので毎回必ず持参してください。スマートフォンのアプリの使用は禁止です。		1. ガイダンス 2. 自己紹介の表現 3. 人に依頼をする 4. 依頼を断る 5. 友人を誘う 6. 誘いに対する返事（1） 7. 誘いに対する返事（2） 8. 通知をする 9. 祝いのメッセージを送る 10. 自宅に友人を招く 11. 道順を説明する 12. 提案をする 13. 提案に対する反対理由を述べる 14. 春学期のまとめ	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に配布するプリントを精読しておくこと。		
テキスト	プリント配布。		
参考文献	授業中に紹介。		
評価方法	学期末試験（50%）、授業中に提出する課題（30%）、授業への参加度（20%）		

09 年度以降	フランス語文章表現法Ⅱ	担当者	山崎 夏絵
講義目的、講義概要		授業計画	
自分の言いたいことをフランス語で表現するためには、文法知識の他に、語彙や表現に関する知識が必要になります。この授業では、まずそれぞれのテーマに即したフランス語の文章を読みながら、文法、語彙、表現を学びます。その後で、学んだ事を応用して実際に文章を書いていきます。 授業中に辞書を使用しますので毎回必ず持参してください。スマートフォンのアプリの使用は禁止です。		1. ガイダンス 2. 人の特徴を表現する 3. 人について意見を述べる 4. 場所についての情報を求める 5. 自分の街について説明する 6. 休暇について語る 7. 比較をする 8. 過去の状況について語る－ 半過去（1） 9. 自分の子供時代について語る－ 半過去（2） 10. 旅行について語る－ 半過去と複合過去（1） 11. 家族の1日について語る－ 半過去と複合過去（2） 12. 様々な時の表現 13. 物語の続きを書く－ 半過去、複合過去、大過去 14. 秋学期のまとめ	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に配布するプリントを精読しておくこと。		
テキスト	プリント配布。		
参考文献	授業中に紹介。		
評価方法	学期末試験（50%）、授業中に提出する課題（30%）、授業への参加度（20%）		

09 年度以降	フランス語文章表現法 I	担当者	C. ラビニャス
講義目的、講義概要		授業計画	
Ce cours d'expression écrite a différents objectifs : 1. s'exprimer dans des situations réelles et concrètes 2. comprendre et analyser des documents écrits 3. apprendre à construire une argumentation 4. revoir la grammaire, enrichir son vocabulaire 5. Approfondir les connaissances culturelles En observant différents types d'écrits, vous apprendrez à : - vous présenter - proposer, accepter et refuser une invitation - faire une réservation - écrire une carte postale		1. Se présenter 2. Donner des renseignements sur soi 3. Proposer / inviter 4. Annoncer un événement 5. Accepter / refuser une invitation 6. Remercier / s'excuser 7. Bilan des leçons 1 à 6 8. Féliciter 9. Écrire une carte postale 10. Faire une réservation / faire une demande polie 11. Répondre à une proposition 12. Rédiger un message pour donner des instructions 13. Rédiger des consignes, donner des directions 14. Bilan des leçons 7 à 12	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。		
テキスト	Entre les lignes (manuel de compréhension et d'expression écrites) – Livre 1		
参考文献	特になし		
評価方法	定期試験 40%、宿題：40%、積極的な参加：20%		

09 年度以降	フランス語文章表現法 II	担当者	C. ラビニャス
講義目的、講義概要		授業計画	
Ce cours d'expression écrite a différents objectifs : 1. s'exprimer dans des situations réelles et concrètes 2. comprendre et analyser des documents écrits 3. apprendre à construire une argumentation 4. revoir la grammaire, enrichir son vocabulaire 5. Approfondir les connaissances culturelles En observant différents types d'écrits, vous apprendrez à rédiger des textes plus élaborés qu'au semestre précédent. Vous produirez des textes descriptifs, argumentatifs, littéraires, imaginaires, etc. - etc.		1. Faire une description physique 2. Faire une description psychologique 3. Raconter un événement passé (1) 4. Raconter un événement passé (2) 5. Rédiger une lettre formelle (1) 6. Rédiger une lettre formelle (2) 7. Bilan des leçons 1 à 6 8. Rédiger un texte argumentatif (1) 9. Faire une comparaison 10. Rédiger un texte argumentatif (2) 11. Exprimer son opinion 12. Rédiger un texte imaginaire (1) 13. Rédiger un texte imaginaire (2) 14. Bilan des leçons 7 à 12	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。		
テキスト	Entre les lignes (manuel de compréhension et d'expression écrites) – Livre 2		
参考文献	特になし		
評価方法	定期試験 40%、宿題：40%、積極的な参加：20%		

09 年度以降	フランス語文章表現法 I	担当者	D. ベルテ
講義目的、講義概要		授業計画	
Le but de ce cours est de fournir les compétences nécessaires pour décrire son environnement personnel. Il donnera la capacité de communiquer dans les situations de la vie quotidienne, lors d'un séjour en France par exemple. Par ailleurs, les objectifs d'écriture visés se réfèrent aux descriptifs du Cadre Européen Commun de Référence. Ce cours prépare donc aussi à la production écrite du niveau B1 du DELF. Le déroulement de ce cours se compose de quatre étapes : découverte et analyse de documents écrits relatifs au thème traité, pratique indépendante et/ou collective, pratique personnelle renforcée (devoirs) et petit test.		1. Se présenter 2. Présenter quelqu'un 3. Répondre à une lettre 4. Présenter une O.N.G. 1 (informations principales) 5. Présenter une O.N.G. 2 (domaine et objectifs) 6. Présenter une O.N.G. 3 (qualités requises) 7. Raconter un souvenir 1 (événements passés) 8. Raconter un souvenir 2 (changements passés) 9. Raconter un souvenir 3 (habitudes et circonstances passées) 10. Restituer des propos 1 (poser des questions) 11. Restituer des propos 2 (décrire un alibi) 12. Restituer des propos 3 (rapporter des paroles) 13. Exposer des problèmes 14. Se plaindre	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Ce cours nécessite une participation active, à la fois en classe (analyse de techniques, écriture collaborative) et à la maison (devoirs).		
テキスト	Documents distribués en classe. Apporter son dictionnaire.		
参考文献	特になし。		
評価方法	contrôle continu : 70 %, devoirs 20 %, participation 10 %		

09 年度以降	フランス語文章表現法Ⅱ	担当者	D. ベルテ
講義目的、講義概要		授業計画	
Ce cours poursuit les objectifs du premier semestre. Nous verrons en outre des thèmes plus détaillés et liés à la vie professionnelle. Nous aborderons aussi des techniques plus orientées vers le niveau B2. Le déroulement sera le même qu'au premier semestre.		1. Ecrire son opinion 1 (expressions de l'opinion) 2. Ecrire son opinion 2 (organiser ses idées et faire un plan) 3. Ecrire son opinion 3 (utiliser des connecteurs) 4. Réaliser une enquête 1 (exprimer des proportions) 5. Réaliser une enquête 2 (analyser des données) 6. Réaliser une enquête 3 (écrire un rapport d'enquête) 7. Ecrire une lettre de souhaits 1 (expressions du souhait) 8. Ecrire une lettre de souhaits 2 (écrire une lettre formelle) 9. Ecrire une lettre de souhaits 3 (réagir à une lettre) 10. Rédiger un texte imaginaire 1 (définir un cadre) 11. Rédiger un texte imaginaire 2 (définir des personnages) 12. Rédiger un texte imaginaire 3 (écrire une histoire) 13. Ecrire une lettre de plainte 1 (exposer un problème) 14. Ecrire une lettre de plainte 2 (faire réagir)	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Ce cours nécessite une participation active, à la fois en classe (analyse de techniques, écriture collaborative) et à la maison (devoirs).		
テキスト	Documents distribués en classe. Apporter son dictionnaire.		
参考文献	特になし。		
評価方法	contrôle continu : 70 %, devoirs 20 %, participation 10 %		

09 年度以降	フランス語文章表現法Ⅰ	担当者	C. パジェス
講義目的、講義概要		授業計画	
Ce cours d'expression écrite a pour objectif l'amélioration des compétences lexicales, syntaxiques et stylistiques. Pour ce faire, nous ferons en classe des exercices de rédactions comme : rédiger des courriels, des lettres, des compositions sur des thèmes variés (littérature, cinéma, société, etc.). この文章表現クラスは、フランス語による文書作成を目的としています。手紙の書き方、文章作成をはじめとし、電子メールや郵便物を書く際に非常に役立つ表現などを学びます。また、文学・映画・社会問題など、さまざまなテーマに沿った文章作成も行います。 *講義内容は必要に応じて変更することがあります。		次の内容を春学期で扱います。(変更あり) 1. Introduction au cours / programme 2. Introduction du sujet de composition 3. Réflexion / explication / rédaction 4. Corrigé et commentaires 5. Introduction du sujet de composition 6. Réflexion / explication / rédaction 7. Corrigé et commentaires 8. Introduction du sujet de composition 9. Réflexion / explication / rédaction 10. Corrigé et commentaires 11. Introduction du sujet de composition 12. Réflexion / explication / rédaction 13. Corrigé et commentaires 14. Composition finale	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にテキストを読んでおいてください。授業後は勉強したことを見直しておいてください。		
テキスト	『Écrire en français (フランス語で書く)』、著者 : Jean-Luc Azra, ISBN : 978-4-905343-09-7		
参考文献	特になし。		
評価方法	平常点 70%、授業への参加態度 30%		

09 年度以降	フランス語文章表現法Ⅱ	担当者	C. パジェス
講義目的、講義概要		授業計画	
Ce cours d'expression écrite a pour objectif l'amélioration des compétences lexicales, syntaxiques et stylistiques. Pour ce faire, nous ferons en classe des exercices de rédactions comme : rédiger des courriels, des lettres, des compositions sur des thèmes variés (littérature, cinéma, société, etc.). この文章表現クラスは、フランス語による文書作成を目的としています。手紙の書き方、文章作成をはじめとし、電子メールや郵便物を書く際に非常に役立つ表現などを学びます。また、文学・映画・社会問題など、さまざまなテーマに沿った文章作成も行います。 *講義内容は必要に応じて変更することがあります。		次の内容を秋学期で扱います。(変更あり) 1. Introduction au cours / programme 2. Introduction du sujet de composition 3. Réflexion / explication / rédaction 4. Corrigé et commentaires 5. Introduction du sujet de composition 6. Réflexion / explication / rédaction 7. Corrigé et commentaires 8. Introduction du sujet de composition 9. Réflexion / explication / rédaction 10. Corrigé et commentaires 11. Introduction du sujet de composition 12. Réflexion / explication / rédaction 13. Corrigé et commentaires 14. Composition finale	
到達目標	フランス語の文法、語彙、表現の基礎知識を応用して、豊富な文章表現ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にテキストを読んでおいてください。授業後は勉強したことを見直しておいてください。		
テキスト	『Écrire en français (フランス語で書く)』、著者 : Jean-Luc Azra, ISBN : 978-4-905343-09-7		
参考文献	特になし。		
評価方法	平常点 70%、授業への参加態度 30%		

09 年度以降	フランス語会話 I	担当者	F. —A. メール
講義目的、講義概要		授業計画	
日常の平易な短い会話を通して、一年目、二年目で学んだ基礎事項を実際の場面で使用し、フランス語でコミュニケーションすることを目指します。この授業を履修し勉強すれば、フランス語で簡単な会話ができるようになります。テキスト名：Par Kenji Kitayama et Frank-Arnaud Mehl, Paris seizième., 駿河台出版社, 2008 Pour ce cours de troisieme annee, nous allons utiliser ce que vous avez appris en première et deuxième année dans des conversations de la vie quotidienne.		1. Se présenter, présenter quelqu'un 自己紹介他己紹介 2. Les chiffres, l'heure, les prix. Jeux de rôle 3. Parler de la famille. 4. Pr. interrogatifs 疑問代名詞 questions 質問を聞く 5. Entretien et évaluation 6. Le temps/la date/donner un RV 日付や曜日を言う 7. 代名動詞. Parler de ses loisirs 8. 直接法複合と否定形 9. Conversations à deux sur le week-end passé 10. 近い未来と否定形 Parler de ses projets 11. Conversations à deux sur le week-end prochain 12. Jeux de rôle. Révisions 復習. 13. Vidéo 14. Entretien et évaluation.	
到達目標	フランス語会話力を習得し、現代社会の様々な事柄について詳細な意見ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：予習・事後：復習		
テキスト	テキスト名：Par Kenji Kitayama et Frank-Arnaud Mehl, Paris Seizième., 駿河台出版社, 2008		
参考文献	特になし。		
評価方法	評 価 方 法：授業への出席と参加度にもとづく平常点と、期末試験により、総合評価します。授業の内容上、出席は必須です。		

09 年度以降	フランス語会話Ⅱ	担当者	F. — A. メール
講義目的、講義概要		授業計画	
日常の平易な短い会話を通して、一年目、二年目で学んだ基礎事項を実際の場面で使用し、フランス語でコミュニケーションすることを目指します。この授業を履修し勉強すれば、フランス語で簡単な会話ができるようになります。テキスト名：Par Kenji Kitayama et Frank-Arnaud Mehl, Paris Seizième., 駿河台出版社, 2008 Pour ce cours de troisieme annee, nous allons utiliser ce que vous avez appris en première et deuxième année dans des conversations de la vie quotidienne.		1. Parler de ses vacances au passé 複合過去形の復習 2. L'imparfait 半過去形 3. L'imparfait et le passé composé 複合過去・半過去形 4. Exercices pratiques, jeux de rôle 5. Entretien et évaluation 6. Raconter une histoire 1 物語を語る 7. Exercices pratiques, jeux de rôle 8. Vidéo et discussion 9. Raconter une histoire 2 物語を語る 10. Les pronoms relatifs QUI et QUE 関係代名詞 11. Résumer une histoire 1 物語をまとめる 12. Résumer une histoire 2 物語をまとめる 13. Vidéo 14. Entretien et évaluation.	
到達目標	フランス語会話力を習得し、現代社会の様々な事柄について詳細な意見ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：予習・事後：復習		
テキスト	テキスト名：Par Kenji Kitayama et Frank-Arnaud Mehl, Paris seizième., 駿河台出版社, 2008		
参考文献	特になし。		
評価方法	評 価 方 法：授業への出席と参加度にもとづく平常点と、期末試験により、総合評価します。授業の内容上、出席は必須です。		

09 年度以降	フランス語会話 I	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
Objectif : Prendre la parole en français d'une manière aussi décontractée que possible. Contenu : Dans un premier temps nous échangerons les nouvelles de la semaine en petits groupes. Ensuite nous travaillerons à partir d'articles de presse ou bien de nouvelles de la radio française. Ce matériel sera le point de départ de notre cours de conversation. Ce cours s'adresse aux étudiants qui aiment parler, qui jouissent du plaisir de la conversation aussi bien en français qu'en japonais et qui sont décidés à participer activement à toutes les activités proposées.		1. Présentation du cours 2. La musique dans notre vie 3. La musique que j'aime 4. La chanson dans notre vie 5. La chanson que j'aime 6. La place du cinéma dans notre vie 7. Les films que j'aime 8. Le français qui bouge 9. Les niveaux de langue en français 10. Les médias 11. Les fausses nouvelles 12. Les loisirs 13. Partir en vacances 14. Bilan	
到達目標	フランス語会話力を習得し、現代社会の様々な事柄について詳細な意見ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Chercher des nouvelles et revoir les expressions apprises pendant le cours.		
テキスト	Photocopies		
参考文献	特になし。		
評価方法	Je souhaite que les étudiants participent au cours le plus souvent possible. Le contrôle consistera à faire un petit exposé au cours du semestre.		

09 年度以降	フランス語会話Ⅱ	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
Objectif : Prendre la parole en français d'une manière aussi décontractée que possible. Contenu : Dans un premier temps nous échangerons les nouvelles de la semaine en petits groupes. Ensuite nous travaillerons à partir d'articles de presse ou bien de nouvelles de la radio française. Ce matériel sera le point de départ de notre cours de conversation. Ce cours s'adresse aux étudiants qui aiment parler, qui jouissent du plaisir de la conversation aussi bien en français qu'en japonais et qui sont décidés à participer activement à toutes les activités proposées.		1. Mise en train 2. Le logement 3. Habiter dans une grande ville, 4. La maison 5. Les repas 6. Qu'est-ce qu'on met dans son assiette? 7. Qui fait la cuisine à la maison? 8. Qui fait les courses? Où? Comment? 9. L'industrie agroalimentaire 10. Nourrir toute la planète 11. L'école de mes enfants 12. Apprendre. Comment? 13. Internet et apprentissage 14. Pourquoi parler plusieurs langues étrangères?	
到達目標	フランス語会話力を習得し、現代社会の様々な事柄について詳細な意見ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Chercher des nouvelles et revoir les expressions apprises pendant le cours.		
テキスト	Photocopies		
参考文献	特になし。		
評価方法	Je souhaite que les étudiants participent au cours le plus souvent possible. Le contrôle consistera à faire un petit exposé au cours du semestre.		

09 年度以降	フランス語会話 I	担当者	A. ラモン
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>Objectifs :</u> Approfondir ses connaissances lexicales et pragmatiques pour s'exprimer plus aisément sur des aspects centraux de la vie quotidienne. S'exprimer avec l'aide des structures apprises en cours, mais aussi utiliser les connaissances déjà acquises pour communiquer librement et spontanément. <u>Déroulement :</u> Discussion et réactivation du vocabulaire et des expressions déjà connues. Enrichissement et exploitation : activités, projets en rapport avec le thème. Selon les thèmes, échanges de points de vue en groupes ou avec la classe.		1. Parler d'habitudes présentes et passées. 2. Suite 3. Raconter une anecdote, un accident. 4. Suite 5. Détailler les ingrédients et les étapes d'une recette de cuisine. 6. Suite 7. Analyser une publicité, produire une publicité. 8. Suite. 9. Résoudre un conflit. 10. Suite 11. Présenter un film ou un livre. 12. Suite 13. Discuter de sujets de société contemporains. 14. Suite	
到達目標	フランス語会話力を習得し、現代社会の様々な事柄について詳細な意見ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Il est <u>indispensable</u> que les étudiants apprennent le vocabulaire et les structures vus en classe durant la séance précédente. A partir de la séance suivante, ils ne doivent plus regarder leurs notes. Éventuellement, devoirs à préparer à la maison.		
テキスト	Documents distribués en cours mais les étudiants prennent surtout des notes de manière indépendante.		
参考文献	特になし		
評価方法	Contrôle continu basé sur la participation en cours. J'attends des étudiants une participation <u>active</u> , <u>spontanée</u> et <u>sur la durée</u> . L'entraide sera valorisée, le manque d'implication et la passivité seront sanctionnés.		

09 年度以降	フランス語会話Ⅱ	担当者	A. ラモン
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>Objectifs :</u> Approfondir ses connaissances lexicales et pragmatiques pour s'exprimer plus aisément sur des aspects centraux de la vie quotidienne. S'exprimer avec l'aide des structures apprises en cours, mais aussi utiliser les connaissances déjà acquises pour communiquer librement et spontanément. <u>Déroulement :</u> Discussion et réactivation du vocabulaire et des expressions déjà connues. Enrichissement et exploitation : activités, projets en rapport avec le thème. Selon les thèmes, échanges de points de vue en groupes ou avec la classe.		1. Décrire des objets du quotidien. 2. Suite. 3. Décrire une personne. 4. Suite. 5. Raconter une rencontre. 6. Suite. 7. Parler de sa maison, de son quartier, de son voisinage. 8. Suite. 9. Présenter un pays, une région, une ville. 10. Suite. 11. Se renseigner sur les attraits d'une ville ou d'une région. 12. Suite. 13. Parler de ses vacances passées et futures. 14. Suite	
到達目標	フランス語会話力を習得し、現代社会の様々な事柄について詳細な意見ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Il est <u>indispensable</u> que les étudiants apprennent le vocabulaire et les structures vus en classe durant la séance précédente. A partir de la séance suivante, ils ne doivent plus regarder leurs notes. Éventuellement, devoirs à préparer à la maison.		
テキスト	Documents distribués en cours mais les étudiants prennent surtout des notes de manière indépendante.		
参考文献	特になし		
評価方法	Contrôle continu basé sur la participation en cours. J'attends des étudiants une participation <u>active</u> , <u>spontanée</u> et <u>sur la durée</u> . L'entraide sera valorisée, le manque d'implication et la passivité seront sanctionnés.		

09 年度以降	フランス語会話 I	担当者	G. ヴェスイエール
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業の目的は、フランスやフランス語圏の国々に関連する話題について、自らの意見をわかりやすいフランス語で組み立てて述べられるようになることです。 受講者の希望に沿って、主に時事問題に関する新聞記事や動画を毎回取り上げ、大まかな内容の確認をした後、思ったことや感じたことをできるだけ語学的に妥協せず、述べられるようにします。その際生じる文法的や語彙的な問題について解説し、生きたフランス語の習得を目指します。授業計画に挙げているテーマ一覧は一例に過ぎませんので、変更の可能性があります。 この授業は基本的にフランス語で進めるので、モチベーションの高い受講者を想定しています。		1. ガイダンス、授業の概要説明 2. 食文化 3. 学校生活 4. 芸術 5. 男女格差 6. メディア 7. 人種差別 8. 若者と社会 9. 宗教と信仰 10. ネット社会 11. 経済格差 12. 地政学 13. 政治 14. まとめ	
到達目標	フランス語会話力を習得し、現代社会の様々な事柄について詳細な意見ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	知らない語彙を調べる等、毎週の予習は欠かせないこと。		
テキスト	プリント等を配布します。		
参考文献	授業内で指示。		
評価方法	平常点 50%（積極的な参加と授業内課題）と期末試験 50%		

09 年度以降	フランス語会話Ⅱ	担当者	G. ヴェスイエール
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業の目的は、フランスやフランス語圏の国々に関連する話題について、自らの意見をわかりやすいフランス語で組み立てて述べられるようになることです。 受講者の希望に沿って、主に時事問題に関する新聞記事や動画を毎回取り上げ、大まかな内容の確認をした後、思ったことや感じたことをできるだけ語学的に妥協せず、述べられるようにします。その際生じる文法的や語彙的な問題について解説し、生きたフランス語の習得を目指します。授業計画に挙げているテーマ一覧は一例に過ぎませんので、変更の可能性があります。 この授業は基本的にフランス語で進めるので、モチベーションの高い受講者を想定しています。		1. ガイダンス、授業の概要説明 2. 食文化 3. 学校生活 4. 芸術 5. 男女格差 6. メディア 7. 人種差別 8. 若者と社会 9. 宗教と信仰 10. ネット社会 11. 経済格差 12. 地政学 13. 政治 14. まとめ	
到達目標	フランス語会話力を習得し、現代社会の様々な事柄について詳細な意見ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	知らない語彙を調べる等、毎週の予習は欠かせないこと。		
テキスト	プリント等を配布します。		
参考文献	授業内で指示。		
評価方法	平常点 50%（積極的な参加と授業内課題）と期末試験 50%		

09 年度以降	フランス語会話 I	担当者	P h . ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>Objectif :</u> Faire parler en français sur le thème des relations interpersonnelles, sous l'angle global (sociologique) et sous l'angle de l'expérience personnelle (psychologique). <u>Méthode :</u> Discussion en petits groupes, puis élargissement à l'ensemble de la classe; un thème par cours. Le thème est introduit par 1) un ensemble de questions préparés au préalable par l'enseignant; 2) une vidéo, des images, un texte très court, etc.		1. Présentation du thème général et de la méthode 2. Apprendre à se connaître (entre les étudiants de la classe) 3. Facebook et twitter. 4. Le débat : comme dire et défendre son opinion 5. Enfants et parents 6. Frère et sœur 7. Faire un exposé : comment convaincre 8. Bande ou groupe de jeunes 9. Relations de voisinage 10. La solidarité dans les catastrophes naturelles 11. Étudiants et professeurs : la relation pédagogique 12. La concurrence : éléments positifs, éléments négatifs 13. Les liens tissés pendant les vacances 14. Conclusions : retour sur l'ensemble des thèmes abordés au cours du semestre.	
到達目標	フランス語会話力を習得し、現代社会の様々な事柄について詳細な意見ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Recherche sur Internet sur le thème du cours ; révision du nouveau vocabulaire appris en classe.		
テキスト	Photocopies		
参考文献	Dictionnaire français-français ; sites internet des journaux français		
評価方法	Deux petits exposés individuels seront notés.		

09 年度以降	フランス語会話Ⅱ	担当者	P h . ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
Objectif et méthode : voir ce qui a été indiqué au premier semestre.		1. Présentation du thème général et de la méthode. 2. Comment s'informer : télévision, radio, journaux, Internet 3. Lire un livre, aller au théâtre. 4. Comment regarder un film. 5. Relations interpersonnelles au travail 6. La solidarité entre générations 7. Comment communiquer 8. Vie de couple (entre jeunes) 9. Vie de couple (mari et femme), ou vie de célibataire. 10. Partager un repas 11. Le sport : gagner ou participer ; maintien de la santé 12. Relations avec les animaux 13. Le tourisme : richesse ou appauvrissement des relations avec les étrangers 14. Conclusions : retour sur l'ensemble des thèmes abordés au cours du semestre.	
到達目標	フランス語会話力を習得し、現代社会の様々な事柄について詳細な意見ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Recherche sur Internet sur le thème du cours ; révision du nouveau vocabulaire appris en classe.		
テキスト	Photocopies		
参考文献	Dictionnaire français-français ; sites internet des journaux français		
評価方法	Deux petits exposés individuels seront notés.		

09 年度以降	ビジネスフランス語 I	担当者	C. パジェス
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 ビジネスのあらゆるシチュエーションにおいて、口頭及び文書でコミュニケーションできる力を身につけることを目標とします。 講義概要 この授業では、ビジネスにおける様々なシチュエーション（ビジネスレターやメモの作成、電話での会話、アポイントメントの取り方など）を設定し、会話や文章作成の練習を行いながら、商業フランス語を学習します。		1. Introduction au cours / Programme 2. La formation 3. Les diplômes 4. Exploitation / Evaluation 5. Rechercher un emploi 6. Candidature 7. Exploitation / Evaluation 8. Les pratiques de recrutement 9. Lettre de motivation 10. Entretien d'embauche 11. Exploitation / Evaluation 12. Les contrats de travail 13. Professions et métiers 14. Exploitation / Evaluation * 講義内容は必要に応じて変更することがあります。	
到達目標	基本的なフランス語表現力を習得し、ビジネスで活用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にプリントを読んでおいてください。授業後は勉強したことを見直しておいてください。		
テキスト	プリント 配布。		
参考文献	特になし。		
評価方法	平常点 70%、授業への参加態度 30%		

09 年度以降	ビジネスフランス語Ⅱ	担当者	C. パジェス
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 ビジネスのあらゆるシチュエーションにおいて、口頭及び文書でコミュニケーションできる力を身につけることを目標とします。 講義概要 この授業では、ビジネスにおける様々なシチュエーション（ビジネスレターやメモの作成、電話での会話、アポイントメントの取り方など）を設定し、会話や文章作成の練習を行いながら、商業フランス語を学習します。		1. Introduction au cours / Programme 2. Organiser un déplacement 3. Réserver un billet d'avion / de train / une chambre d'hôtel 4. Exploitation / Evaluation 5. Organiser son emploi du temps 6. Prendre contact par téléphone 7. Courrier et courriel 8. Exploitation / Evaluation 9. Passer commande 10. Importer et exporter 11. Exploitation / Evaluation 12. Découvrez l'entreprise 13. Fonctions dans l'entreprise 14. Exploitation / Evaluation * 講義内容は必要に応じて変更することがあります。	
到達目標	基本的なフランス語表現力を習得し、ビジネスで活用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にプリントを読んでおいてください。授業後は勉強したことを見直しておいてください。		
テキスト	プリント 配布。		
参考文献	特になし。		
評価方法	平常点 70%、授業への参加態度 30%		

09 年度以降	上級フランス語 I	担当者	井上 美穂
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業の目的は、ニュース、ホームページ、新聞記事を教材として時事フランス語を学び、フランス語圏に関する知識を得ることです。具体的には、①ネット上にあるフランスのテレビ局のニュースをつかって聞き取り練習を行う、②フランス語で作られているホームページで情報を検索する、③ネット上にある新聞記事の読解を行う、という3種類の練習を行います。①②③は、同じテーマで選ばれます。この授業はTCF280点程度以上を取得した学生を対象としていますが、対象外で履修を希望する方は初回の授業で相談にいらして下さい。2019年のニュースを予測することはできませんので、参考として右の欄では2018年春学期に扱ったニュースを紹介します。		第1回：復活祭のチョコレート、大量生産が手作りか 第2回：国鉄がストライキ 第3回：シリア情勢 第4回：エアフランスがストライキ 第5回：メーデーのデモが暴徒化 第6回：5月1日のすずらん 第7回：カンヌ映画祭 第8回：英雄となったマリ人と、マクロン大統領 第9回：テニス全仏オープン 第10回：地球温暖化 第11回：サッカーW杯でビデオ判定が導入される 第12回：世界一観光客が来る国フランス 第13回：難民問題とEU 第14回：ツールドフランス	
到達目標	フランス語で発信される情報について、その内容を的確に把握し、さらにその詳しい情報に自らアクセスできるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習は必要ありません。学習した内容を復習しながら、知識を積み上げて下さい。		
テキスト	教員が作成し、その都度授業で配布します。		
参考文献	特になし。		
評価方法	試験期間に行われるテストの得点で評価を行います。90 点以上が AA、80 点以上が A、70 点以上が B、60 点以上が C、60 点未満は不可になります。		

09 年度以降	上級フランス語Ⅱ	担当者	井上 美穂
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業の目的は、ニュース、ホームページ、新聞記事を教材として時事フランス語を学び、フランス語圏に関する知識を得ることです。具体的には、①ネット上にあるフランスのテレビ局のニュースをつかって聞き取り練習を行う、②フランス語で作られているホームページで情報を検索する、③ネット上にある新聞記事の読解を行う、という3種類の練習を行います。①②③は、同じテーマで選ばれます。この授業はTCF280点程度以上を取得した学生を対象としていますが、対象外で履修を希望する方は初回の授業で相談にいらして下さい。2019年のニュースを予測することはできませんので、参考として右の欄では2018年秋学期に扱ったニュースを紹介します。		第1回：ルーブル美術館 第2回：ブレグジットBrexitとEU 第3回：マクロン大統領 仏領サンマルタンを訪問 第4回：フランス人はボンボンが大好き 第5回：ベルギーのイスラム政党 第6回：アステリクスとオベリクス 第7回：チュニジアでテロ 第8回：米粉のパン 第9回：カルロス・ゴーン逮捕 第10回：黄色いベストの運動 シャンゼリゼで破壊行為 第11回：トリュフ 第12回：ストラスブールのマルシェドノエルでテロ 第13回：心のレストラン 第14回：菓子ガレット・デ・ロワ	
到達目標	フランス語で発信される情報について、その内容を的確に把握し、さらにその詳しい情報に自らアクセスできるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習は必要ありません。学習した内容を復習しながら、知識を積み上げて下さい。		
テキスト	教員が作成し、その都度授業で配布します。		
参考文献	特になし。		
評価方法	試験期間に行われるテストの得点で評価を行います。90 点以上が AA、80 点以上が A、70 点以上が B、60 点以上が C、60 点未満は不可になります。		

09 年度以降	フランス語学論 I	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：形の変化の面（形態論）、構文の面（統語論）、発音の面（音声学・音韻論）、意味と構文との係わりの面（意味論）から、フランス語の仕組みを解明する。毎回の授業では、その授業でテーマとなる項目について現代フランス語における原則、制約を確認しながら、仕組みを解明していく。なお、大部分は過去 2 年間の講義内容とは異なるので、最長、3 年 6 学期間重複履修しても、内容が重なることはほとんどない。 受講者に求めること：フランス語そのものに興味を持ち、授業中には、随時、各自の意見を求めるので、常に考える姿勢を持っていて欲しい。他人の迷惑となるので私語については厳しく注意する。受講予定者は必ず第 1 回目の授業に出席すること。出席回数が規定回数に達しなければ、定期試験が満点でも評価対象としない。毎回出席をとる（遅刻 2 回で欠席 1 回とする）。就職活動等で欠席する場合には、授業開始前に欠席連絡をすれば欠席としてカウントしないが、卒業再試験は行わないので注意すること。		第1回： ガイダンス、フランス語学という分野 第2回： 比較に関する諸問題 第3回： 所有形容詞は「所有」を表すのか？ 第4回： なぜ過去分詞の一致は起こるのか？ 第5回： なぜ代名動詞の助動詞は être なのか？ 第6回： 単純未来形は「未来」を表しているのか？ 第7回： なぜ être の活用形は不規則なのか？ 第8回： 接続法の用法 第9回： 接続法とは何か？ 第10回： avoir は何を「持つ」のか？ 第11回： être は何を表しているのか？ 第12回： il / elle は何を表しているのか？ 第13回： il est / c'est はどう違うのか？ 第14回： まとめ 受講生からとりあげて欲しいテーマがあれば、できるだけそれを取りあげる。	
到達目標	フランス語学の様々な分野に関して必要な専門知識を習得し、分析および論証ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	初級文法の内容を確認し、その応用的知識の獲得を目指す。毎回の授業は授業終了後、ビデオ配信する。		
テキスト	プリントを使用。		
参考文献	参考文献は適宜指示する。		
評価方法	規定回数以上出席した者に対して、平常点、リアクションペーパー、論述形式の試験により評価する。出席規定回数を下回った者は、 <u>学年・学期を問わず</u> 評価しない。原則として卒業再試験は行わない。		

09 年度以降	フランス語学論Ⅱ	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：形の変化の面（形態論）、構文の面（統語論）、発音の面（音声学・音韻論）、意味と構文との係わりの面（意味論）から、フランス語の仕組みを解明する。毎回の授業では、その授業でテーマとなる項目について現代フランス語における原則、制約を確認しながら、仕組みを解明していく。なお、大部分は過去２年間の講義内容とは異なるので、最長、３年６学期間重複履修しても、内容が重なることはほとんどない。 受講者に求めること：フランス語そのものに興味を持ち、授業中には、随時、各自の意見を求めるので、常に考える姿勢を持っていて欲しい。他人の迷惑となるので私語については厳しく注意する。受講予定者は必ず第１回目の授業に出席すること。出席回数が規定回数に達しなければ、定期試験が満点でも評価対象としない。毎回出席をとる（遅刻２回で欠席１回とする）。就職活動等で欠席する場合には、授業開始前に欠席連絡をすれば欠席としてカウントしないが、卒業再試験は行わないので注意すること。		第1回： ガイダンス 第2回： 綴り字と発音の関係 第3回： 発音の変化 第4回： なぜ beau には bel という第二形があるのか？ 第5回： ce sont は c'est の複数形なのか？ 第6回： 強調構文は何を強調しているのか？ 第7回： 直接話法と間接話法は同じか？ 第8回： queの機能は何か？ 第9回： 知覚構文、voici / voilàの本質的な意味は何か？ 第10回： 使役構文と他動詞構文の違いは何か？ 第11回： 前置詞àは何を表しているのか 第12回： なぜallerの活用形は不規則なのか？ 第13回： フランス語の方言 第14回： まとめ 受講生からとりあげて欲しいテーマがあれば、できるだけそれを取りあげる。	
到達目標	フランス語学の様々な分野に関して必要な専門知識を習得し、分析および論証ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	初級文法の内容を確認し、その応用的知識の獲得を目指す。毎回の授業は授業終了後、ビデオ配信する。		
テキスト	プリントを使用。		
参考文献	参考文献は適宜指示する。		
評価方法	規定回数以上出席した者に対して、平常点、リアクションペーパー、論述形式の試験により評価する。出席規定回数を下回った者は、 <u>学年・学期を問わず</u> 評価しない。原則として卒業再試験は行わない。		

09 年度以降	フランス語文章理論 I	担当者	木田 剛
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> 文章、すなわち「テキスト」は、いわゆる文法と呼ばれるものを越えた言語外の情報を考慮しながら成り立っている。日本語にも言外の意味があるように、フランス語にも類似したものがああり、また違いもある。このような社会活動の中に現れることばの様を理論的にかつ実践的に捉えてみるのが目的である。 <講義概要> 授業では、題材としてフランスのマスメディアに現れる異なるテーマを取り上げて、生のフランス語に慣れる訓練を行う。これまで学習した文法項目の復習や新しい語彙の習得も積極的に行いながら、文章の形と文章の伝えんとする意味の関係が探れるよう努め、フランス語の総合力の向上を目指す。学期末には発表する時間を設け、どれくらいテキスト解釈力がついたかを試す。		1. 授業ガイダンス 2. テキスト 1：エネルギー問題（仮） 3. テキスト 2：失業問題（仮） 4. テキスト 3：市民デモ（仮） 5. テキスト 4：学校教育（仮） 6. テキスト 5：増税（仮） 7. テキスト 6：移民問題（仮） 8. テキスト 7：観光資源（仮） 9. テキスト 8：都市問題（仮） 10. テキスト 9：文化遺産（仮） 11. 発表日 1 12. 発表日 2 13. 発表日 3 14. まとめ	
到達目標	フランス語の細かい文法知識、文章理論を習得し、状況に応じた文章作成ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に準備を求めることは少ないが、事後に授業で扱った内容をまとめて発表・レポートの準備を進める。		
テキスト	特になし。		
参考文献	曾我祐典『つたえる文法』（白水社）、東郷雄二『あらわす文法（中級のフランス語）』（白水社）		
評価方法	平常点（授業中の積極性、取り組み等）を 40%、発表を 30%、レポートを 30%の配分を目処に評価する。		

09 年度以降	フランス語文章理論Ⅱ	担当者	木田 剛
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> 春学期と同様に、この講義では文章、すなわち「テキスト」を理論的かつ実践的に捉えてみることを目的とする。授業ではフランス語のマスメディアに現れる文章の形態と文章の伝えんとする意味の関係を探る。 <講義概要> 春学期との相違点は、秋学期では異なる種類のテキストを取り上げること。春学期同様に、これまで学習した文法項目の復習や新しい語彙の習得も積極的に行い、春学期とは異なる方法でフランス語の総合力の向上を目指す。在仏20年の講師とともに、フランスのメディア情報に隠されている社会や文化の諸相を探りながら、多様なテキストの形態を理解するように努める。身についたテキスト解釈力を試すために、学期末に受講生各自が独自に選んだテキストについて発表する。		1. 授業オリエンテーション 2. テキスト1：ヘッドライン（仮） 3. テキスト2：記事内容（仮） 4. テキスト3：スポーツ覧（仮） 5. テキスト4：本の紹介（仮） 6. テキスト5：天気予報（仮） 7. テキスト6：相場・株式市況（仮） 8. テキスト7：交通情報（仮） 9. テキスト8：インタビュー（仮） 10. テキスト9：ディベート（仮） 11. 発表日1 12. 発表日2 13. 発表日3 14. まとめ	
到達目標	フランス語の細かい文法知識、文章理論を習得し、状況に応じた文章作成ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に準備を求めることは少ないが、事後に授業で扱った内容をまとめて発表・レポートの準備を進める。		
テキスト	特になし。		
参考文献	曾我祐典『つたえる文法』（白水社）、東郷雄二『あらわす文法（中級のフランス語）』（白水社）		
評価方法	平常点（授業中の積極性、取り組み等）を40%、発表を30%、レポートを30%の配分を目処に評価する。		

09 年度以降	フランス語言語教育論 I	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> この授業では、フランス語教育を中心に外国語教育について、「学ぶ立場」と「教える立場」の両方からアプローチしながら考えます。「学ぶ立場」からでは見えない外国語学習（教育）を「教える立場」から眺めることで、自分自身にとってのより効果的な外国語学習法を模索することを目的としています。 <講義概要> 今学期は自分にあった学習方法を、学習ストラテジーの理論と動詞の活用形を記憶する実践を通して考えます。毎回、授業の初めに聴解練習（compréhension orale）と音読練習（シャドーイング）を行います。授業は、講義やグループ作業などを中心に進めます。 <u>この授業の履修を希望する学生は</u> <u>必ず1回目の授業から出席してください。</u>		1. ガイダンスと自分自身の学習方法 2. Stratégies d'apprentissage の概略 3. 学習ストラテジーの分類 4. 学習ストラテジーの特徴 5. Bon apprenant とは何か 6. 記憶するためのテクニック 7. 実践 —動詞の活用（現在形）の復習— 8. 実践 —動詞の時制の復習— 9. 実践 —動詞の活用の覚え方を探る— 10. 動詞の活用を使った activité 作成 11. 各グループで作成した activité の発表 12. グループ作業と発表の総括 13. 記憶のための学習ストラテジー 14. まとめ	
到達目標	「教える側」と「学ぶ側」との両方から、言語教育一般、とりわけ、フランス語教育に関する専門知識を習得し、実践できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に配布されるプリントを読んで内容を把握しておき、授業後は講義内容をノートにまとめる。フランス語の基本的な動詞 50 個程度の活用と時制を復習し、授業後はしっかり定着させる。		
テキスト	1 年生の時に使用していた文法の教科書。その他、必要に応じてプリントを配布する。		
参考文献	中村啓佑、長谷川富子（1996）：『フランス語をどのように教えるか』 駿河台出版社		
評価方法	授業のまとめ（ノート）10%、グループ作業と発表 30%、学期末試験 60%		

09 年度以降	フランス語言語教育論 II	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> この授業では、フランス語教育を中心に外国語教育について、「学ぶ立場」と「教える立場」の両方からアプローチしながら考えます。「学ぶ立場」からでは見えない外国語学習（教育）を「教える立場」から眺めることで、自分自身にとってのより効果的な外国語学習法を模索することを目的としています。 <講義概要> 今学期は documents authentiques を使った学習活動について考えながら自身の学習を振り返って見ましょう。 また毎回授業の初めに聴解練習と音読練習を行います。授業は、講義やグループ作業などを中心に進めます。 <u>この授業の履修を希望する学生は</u> <u>必ず1回目の授業から出席してください。</u>		1. Introduction 2. 教科書の種類 —「文法」「総合」「講読」「構文」— 3. 教材の役割と授業 4. Documents authentiques (D.A.) の概要 5. 「読む」ための documents authentiques 6. 「書く」ための documents authentiques 7. D.A.を使った「読む」「書く」activité 作成 8. 「読む」「書く」activités のグループ発表 9. 「聴く」ための documents authentiques 10. 「話す」ための documents authentiques 11. D.A. を使った「聴く」「話す」activité 作成 12. 「聴く」「話す」activités のグループ発表 13. D.A.を使ったactivités 作成と発表の総括 14. まとめ	
到達目標	「教える側」と「学ぶ側」との両方から、言語教育一般、とりわけ、フランス語教育に関する専門知識を習得し、実践できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に配布されるプリントを読み内容を把握しておく。また講義内容をノートにまとめる。documents authentiques に使用できそうなものを探し、活用方法を探る。		
テキスト	「総合」の授業で使用した教科書。その他、必要に応じてプリントを配布する。		
参考文献	中村啓佑、長谷川富子（1996）：『フランス語をどのように教えるか』 駿河台出版社		
評価方法	授業のまとめ（ノート） 10%、グループ作業と発表 30%、 学期末試験 60%		

09 年度以降	マスメディアのフランス語 I	担当者	野澤 丈二
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 これまでに学んできたフランス語の能力やフランス（語圏）に関する知識を土台として、さまざまなメディアで扱われているフランス語に触れていきます。内容を正確に把握するだけでなく、ある特定のテーマやジャンルが、それぞれのメディアのなかで、どのような文脈・意図・方法によって編集されたのかを理解し、批判的に読み解くことを目指します。 【講義概要】 春学期は、「日本」をキーワードに授業を進めます。毎回、個別のメディアを取り上げ、「日本」に関してどのような情報やイメージが伝えられてきたのかを検討します。インターネットやSNSなど、最新のメディアから始め、徐々に時間を遡っていく形式をとります。		1. イントロダクション 2. インターネット 3. 新聞 4. テレビとラジオ 5. 漫画（バンド・デシネ） 6. 学術書 7. 映画 8. 小説 9. 外交文書 10. 旅行記（19-20 世紀） 11. 百科全書（18 世紀） 12. 宣教師や商人の記録（16-17 世紀） 13. 発表 14. まとめ ※ 各回のテーマと順番は変更になる可能性があります	
到達目標	フランス語圏のマスメディアを通じて、フランス語表現やメディア文化を分析し、批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	フランスのメディアで扱われている日本の話題に関心を持ち、普段から目を配る。		
テキスト	特定の教科書は使用しません。必要に応じて、授業の際に資料を配布します。		
参考文献	特になし。		
評価方法	平常授業における発表や提出物など（45%）、期末レポート（55%）によって総合的に評価します。		

09 年度以降	マスメディアのフランス語Ⅱ	担当者	野澤 丈二
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 これまでに学んできたフランス語の能力やフランス（語圏）に関する知識を土台として、さまざまなメディアで扱われているフランス語に触れていきます。内容を正確に把握するだけでなく、ある特定のテーマやジャンルが、それぞれのメディアのなかで、どのような文脈・意図・方法によって編集されたのかを理解し、批判的に読み解くことを目指します。 【講義概要】 秋学期は、「食」をキーワードに授業を進めます。毎回、個別のメディアを取り上げ、フランスが「食」に関してどのような情報やイメージを伝えてきたのかを検討します。徐々に時間を遡っていく形式をとり、料理書やレストラン・ガイドなど、「食」ならではのメディアも扱います。		1. イントロダクション 2. インターネット 3. 外交文書 4. テレビとラジオ 5. 漫画（バンド・デシネ） 6. 映画 7. 新聞 8. 料理書 9. ガイド本 10. 美食論（19 世紀） 11. 百科全書（18 世紀） 12. エチケツ集（18 世紀） 13. 発表 14. まとめ ※ 各回のテーマと順番は変更になる可能性があります	
到達目標	フランス語圏のマスメディアを通じて、フランス語表現やメディア文化を分析し、批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	フランスのメディアで扱われている食の話題に関心を持ち、普段から目を配る。		
テキスト	特定の教科書は使用しません。必要に応じて、授業の際に資料を配布します。		
参考文献	特になし。		
評価方法	平常授業における発表や提出物など（45%）、期末レポート（55%）によって総合的に評価します。		

09 年度以降	フランス語コミュニケーション各論Ⅰ	担当者	堀 晋也
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、EUの言語教育の主要なテーマであり、近年日本の外国語教育でも導入が進められている複言語主義（Plurilingualisme）に基づく言語教育、異文化間教育について扱います。これらは、相互理解および人・モノの移動の促進を目的とする言語教育です。この授業を通して、外国語学習にはスキルの養成以外の意義もあることを知っていただくことが目的となります。 春学期はヨーロッパの言語状況と言語教育政策、複言語教育と異文化間教育の概要、複言語教育の実践について見ていきます。 フランス語で書かれたテキストを読み進めていきますが、受講者にはその全訳ではなくポイントとなる箇所の要約とそこで触れられている内容に関するディスカッションを行っていただきます。		1. 講義の概要 2. ヨーロッパの言語状況 3. EU の言語教育政策 4. EU 加盟各国の言語教育政策 5. 言語イデオロギー 6. 経済に関する言語イデオロギー 7. 言語政策実施における社会面の問題 8. 言語政策実施における言語面の問題 9. 複言語教育・異文化間教育の定義 10. 複言語教育・異文化間教育の構成要素 11. 複言語主義の普及 12. 複言語教育の実践1：カリキュラム開発 13. 複言語教育の実践2：教室での活動 14. まとめ	
到達目標	フランス語学の各論に関して専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：要約を求める箇所（事前に通知）の下調べ 事後：ディスカッションのポイントの整理		
テキスト	授業で配布します。		
参考文献	特になし。		
評価方法	平常点（要約の発表とディスカッション）50%、レポート 50%		

09 年度以降	フランス語コミュニケーション各論Ⅱ	担当者	堀 晋也
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、EUの言語教育の主要なテーマであり、近年日本の外国語教育でも導入が進められている複言語主義（Plurilingualism）に基づく言語教育、異文化間教育について扱います。これらは、相互理解および人・モノの移動の促進を目的とする言語教育です。この授業を通して、外国語学習にはスキルの養成以外の意義もあることを知っていただくことが目的となります。 秋学期は異文化間教育の原理、複言語教育・異文化間教育を言語教育に導入する際の様々な問題について見ていきます。 フランス語で書かれたテキストを読み進めていきますが、受講者にはその全訳ではなくポイントとなる箇所の要約とそこで触れられている内容に関するディスカッションを行っていただきます。		1. 講義の概要 2. 異文化間教育とは何か 1：イントロダクション 3. 異文化間教育とは何か 2：他者との接触とは？ 4. 異文化間教育とは何か 3：ステレオタイプと偏見 5. 異文化間教育とは何か 4：3つの中心主義 6. 異文化間教育とは何か 4：異文化間教育の原則 7. 複言語・異文化間教育の目的と意義 8. 言語教育への導入 1：レベル・ストラテジー 9. 言語教育への導入 2：学習者要因（言語・文化的背景） 10. 言語教育への導入 3：教材 11. 言語教育への導入 4：評価 12. 言語教育への導入 5：教員養成 13. 言語教育への導入 6：社会的ニーズの分析 14. まとめ	
到達目標	フランス語学の各論に関して専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：要約を求める箇所（事前に通知）の下調べ 事後：ディスカッションのポイントの整理		
テキスト	授業で配布します。		
参考文献	特になし。		
評価方法	平常点（要約の発表とディスカッション）50%，レポート 50%		

09 年度以降	フランス語コミュニケーション各論 I	担当者	木田 剛
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> コミュニケーションは様々な形で様々な場所に存在し、その場の社会的・文化的な制約を受けている。講義ではグループ議論や発表、共同作業等を通して、マネージメント能力、協働スキル、発言力、創造力、情報リテラシーなどを涵養しつつ、公共空間にあるフランス語でのコミュニケーションの諸相に対する気付く力を養成する。 <講義概要> 扱うテーマは言語景観、つまり公共空間にみられる言語で形成されている状況（前半）と広告に現れる言語（後半）である。講義はPBL（Project-based learning）形式（ワークショップ）で行われ、受講生各自が収集したデータを持ち寄り、他の受講生を共有しながら、与えられたテーマに沿って議論を行って、傾向や様々な規則性を見出していく。学期末には学修成果をまとめた発表を行う。		1. 授業オリエンテーション 2. 言語景観ワークショップ：フィールドワーク計画 3. 言語景観ワークショップ：前フィールドワーク 4. 言語景観ワークショップ：本フィールドワーク戦略 5. 言語景観ワークショップ：本フィールドワーク 6. 言語景観ワークショップ：データ比較・検証 7. 言語景観ワークショップ：収集データの特性 8. まとめ 9. 広告言語ワークショップ：データの概要 10. 広告言語ワークショップ：言語的特徴 11. 広告言語ワークショップ：視覚的特徴 12. 広告言語ワークショップ：談話的特徴 13. 広告言語ワークショップ：その他の特徴 14. まとめ	
到達目標	フランス語学の各論に関して専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にはデータを収集して他者と共有をする準備を行い、事後には行われた議論や気付きをまとめる。		
テキスト	フランスの雑誌（Elle, Madame Figaro, Marie Claire, Côté Sud など）、ネット上の広告ビデオ。		
参考文献	リンチ『都市のイメージ』（岩波書店）、バルト『モード論集』（ちくま学芸文庫）など。		
評価方法	平常点（授業中の積極性、課題への取り組み等）を 50%、レポートを 50%の配分を目処に評価する。		

09 年度以降	フランス語コミュニケーション各論Ⅱ	担当者	木田 剛
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> 目的は春学期と同様、公共空間に見られるフランス語でのコミュニケーションの諸相をPBL形式の授業で扱いながら、マネージメント能力、協働スキル、発言力、創造力、情報リテラシーなどを涵養する。 <講義概要> 扱うテーマは政治談話、つまり公共空間に発せられる政治家による演説や発言である。まず、これらに見られる談話的な特徴や意味を分析した後、関連する意見やコメントを公共空間（インターネット、マスメディア等）で見つける。受講生は収集したデータを持ち寄り、他の受講生を共有しながら議論を行い、現実のコミュニケーションの諸問題を実践的に見て行く。学期末には学修成果をまとめた発表を行う。		1. 授業オリエンテーション 2. 政治談話の種類 3. 政治談話の言語的内容と意味 4. 政治談話にテキスト構造 5. 政治談話の視覚的特性（表情やジェスチャー） 6. 政治談話の音声的特徴（イントネーション） 7. 政治談話の含意 8. 政治談話のレトリック 9. 政治談話ワークショップ：マスメディア（種類） 10. 政治談話ワークショップ：マスメディア（内容） 11. 政治談話ワークショップ：ネット空間（種類） 12. 政治談話ワークショップ：ネット空間（内容） 13. 政治談話ワークショップ：議論 14. まとめ	
到達目標	フランス語学の各論に関して専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にはデータを収集して他者と共有をする準備を行い、事後には行われた議論や気づきをまとめる。		
テキスト	特になし。		
参考文献	楊他「政治演説の含意と談話ストラテジー」、松田他「非常事態における政治談話ストラテジー」		
評価方法	平常点（授業中の積極性、課題への取り組み等）を 50%、レポートを 50%の配分を目処に評価する。		

09 年度以降	フランス語コミュニケーション講読 I	担当者	横地 卓哉
講義目的、講義概要		授業計画	
テキストとしては戯曲をとりあげ、登場人物間、登場人物と観客の間、作者（および演出家・役者など）と観客の間のコミュニケーションを成立させるためにどのような仕組み・仕掛けが工夫されているのか、考えるきっかけにします。 舞台化が想定された作品をコミュニケーションの手段としてとらえるわけですが、音声化することの重要性は共通することがらですから、声に出してテキストをよむことにも力を入れます。 事前にテキストに目をとおり、ある程度理解したうえで授業に臨むことはもちろん最低限の条件・大前提ですが、授業中に意見を交換しながらみんなで一緒に考えることを大切にしたいと思います。 第 1 回目の授業で、授業を進めていくうえで前提となる受講者の力を知るために、小テストをおこないます。		1. ガイダンス・小テスト 2. Nathalie SARRAUTE, <i>Le Silence</i>, pp.28~30 3. pp.31~37 4. pp.37~43 5. pp.44~51 6. pp.52~58 7. pp.58~64 (Folio/Théâtre) 8. Yasmina REZA, <i>«Art»</i>, pp.13~19 9. pp.19~24 10. pp.25~30 11. pp.30~35 12. pp.36~41 13. pp.42~47 (Folio) 14. まとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランス語学に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を目をとおりおいてください。事後学修（課題・小テストの準備を含む）については授業中に指示します。		
テキスト	担当教員が用意します。		
参考文献	授業中に紹介します。		
評価方法	第 1 回目の授業時の小テスト 10%、小テスト・課題・レポート等 60%、授業への参加度 30% 4 年生に対する特別の配慮は一切しないので、承知の上で登録・受講すること		

09 年度以降	フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	担当者	横地 卓哉
講義目的、講義概要		授業計画	
テキストとしては戯曲をとりあげ、登場人物間、登場人物と観客の間、作者（および演出家・役者など）と観客の間のコミュニケーションを成立させるためにどのような仕組み・仕掛けが工夫されているのか、考えるきっかけにします。 舞台化が想定された作品をコミュニケーションの手段としてとらえるわけですが、音声化することの重要性は共通することがらですから、声に出してテキストをよむことにも力を入れます。 事前にテキストに目をとおり、ある程度理解したうえで授業に臨むことはもちろん最低限の条件・大前提ですが、授業中に意見を交換しながらみんなで一緒に考えることを大切にしたいと思います。 第1回目の授業で、授業を進めていくうえで前提となる受講者の力を知るために、小テストをおこないます。		1. ガイダンス・小テスト 2. Nathalie SARRAUTE, <i>Pour un oui ou pour un non</i>, pp.24~27 3. pp.27~30 4. pp.31~35 5. pp.35~38 6. pp.39~42 7. pp.43~46 8. pp.46~50 (Folio/Théâtre) 9. Yasmina REZA, <i>«Art»</i>, p.47までの復習・解説 10. pp.47~57 11. pp.57~63 12. pp.63~79 13. pp.79~88 (Folio) 14. p.88以降の紹介・まとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランス語学に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を目をとおりおいてください。事後学修（課題・小テストの準備を含む）については授業中に指示します。		
テキスト	担当教員が用意します。		
参考文献	授業中に紹介します。		
評価方法	第1回目の授業時の小テスト10%、小テスト・課題・レポート等60%、授業への参加度30% 4年生に対する特別の配慮は一切しないので、承知の上で登録・受講すること		

09 年度以降	フランス語コミュニケーション講読 I	担当者	堀 晋也
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、フランス語によるインタラクションについて言語学の観点から検討していきます。語学の授業で学習した会話文のなかでどのような原理が働いているかを考える機会とするのが目的となります。 春学期はインタラクションの構造および構成要素、発話行為、話し言葉特有の現象を扱います。 フランス語で書かれたテキストを読み進めていきますが、受講者にはその全訳ではなくポイントとなる箇所の要約とそこで触れられている内容に関するディスカッションを行っていただきます。		1. 講義の概要 2. インタラクションにおける表現方法の種類 3. インタラクションの構造と構成要素 4. 発話行為 1：質問 5. 発話行為 2：依頼 6. 発話行為 3：主張 7. 発話行為 4：あいさつ、お礼、謝罪 8. 発話行為とジェスチャー 9. 発話に関する諸側面 1：発音 10. 発話に関する諸側面 2：形態素 11. 発話に関する諸側面 3：統語 12. 発話に関する諸側面 4：ストラテジー 13. 発話に関する諸側面 5：ディスコースマーカ 14. まとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランス語学に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：要約を求める箇所（事前に通知）の下調べ 事後：ディスカッションのポイントの整理		
テキスト	授業で配布します。		
参考文献	特になし。		
評価方法	平常点（要約の発表とディスカッション）50%、レポート 50%		

09 年度以降	フランス語コミュニケーション購読Ⅱ	担当者	堀 晋也
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、フランス語によるインタラクションについて言語学の観点から検討していきます。語学の授業で学習した会話文のなかでどのような原理が働いているかを考える機会とするのが目的となります。 秋学期はインタラクションが展開される場面ごとの特性、慣習、言語文化の影響を扱います。 フランス語で書かれたテキストを読み進めていきますが、受講者にはその全訳ではなくポイントとなる箇所の要約とそこで触れられている内容に関するディスカッションを行っていただきます。		1. 講義の概要 2. インタラクションの目的と参加者の役割 3. インタラクションの場面の分類 4. 場面ごとの特性 1：私的なやりとり 5. 場面ごとの特性 2：仕事におけるやりとり 6. 場面ごとの特性 3：病院でのやりとり 7. 場面ごとの特性 4：買い物でのやりとり 8. 場面ごとの特性 5：討論・ディスカッション 9. 慣習 1：サービスを提供する／受ける 10. 慣習 2：セールス・勧誘／拒否 11. 言語文化の影響 1：フランス語と英語の比較 12. 言語文化の影響 2：フランス語とイタリア語の比較 13. 言語文化の影響 3：フランス語とアラビア語の比較 14. まとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランス語学に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：要約を求める箇所（事前に通知）の下調べ 事後：ディスカッションのポイントの整理		
テキスト	授業で配布します。		
参考文献	特になし。		
評価方法	平常点（要約の発表とディスカッション）50%，レポート 50%		

09 年度以降	フランス語コミュニケーション講読 I	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：辞書があればどんな文章でも読めるようなフランス語読解力を養成する。 講義概要：フランス語の文章を理解するために不可欠な様々な表現・構文を、様々な文体の1・2行程度の文章を、文法事項を確認しながら、とにかく丁寧に読んでいく。仏検準2級・2級程度の文章を扱う。 その他：毎回ランダムに<u>全員</u>を指名。予習していなかったり、指名されてから訳し始めた場合などは減点。指名された時に他人の訳を読むような不正行為をした人はFとする。就職活動で欠席する場合には、授業前に欠席連絡をし、訳文を指定時刻までにメールで提出すれば減点しない（未提出なら減点）。試験は応用問題。初回の授業で2回目以降の教材を配布するので、受講予定者は必ず第1回目の授業に出席すること（2回目から全員指名する。初回に出席できない場合には必ず1週目の間に連絡してプリントを取りに来ること）。単語テストを毎回冒頭に実施する。他人の迷惑となるので私語については厳しく注意する。		第1回： ガイダンス、授業の進め方、予習方法の説明 第2回： 主語の識別 第3回： 否定の基本 第4回： ni、ne...que、tout と否定 第5回： 副詞の位置と部分否定 第6回： 二重否定、ne のみの否定、虚辞の ne 第7回： 強調構文 第8回： 伝聞・推量構文 第9回： 仮定文 第10回： ここまでのまとめ 第11回： bien queなど 第12回： quoi queなど 第13回： 対立譲歩構文のまとめ 第14回： 春学期のまとめ 文章自体は全て昨年度とは別、扱う文章は文学作品、新聞・雑誌記事、ブログ、料理のレシピ、仏検の過去問題等で、1つの作品を読んでいくという形式ではない。	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランス語学に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	前週に解説した構文を確認しながら課題文を訳す。毎回の授業は授業終了後、ビデオ配信する。		
テキスト	プリントを使用。		
参考文献	参考文献は適宜指示する。		
評価方法	規定回数以上出席した者に対して、毎回の単語小テスト＋発表内容、定期試験により評価する。出席規定回数を下回った者は、 <u>学年・学期を問わず</u> 評価しない。原則として卒業再試験は行わない。		

09 年度以降	フランス語コミュニケーション講読 II	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：辞書があればどんな文章でも読めるようなフランス語読解力を養成する。 講義概要：フランス語の文章を理解するために不可欠な様々な表現・構文を、様々な文体の1・2行程度の文章を、文法事項を確認しながら、とにかく丁寧に読んでいく。仏検準2級・2級程度の文章を扱う。 その他：毎回ランダムに<u>全員</u>を指名。予習していなかったり、指名されてから訳し始めた場合などは減点。指名された時に他人の訳を読むような不正行為をした人はFとする。就職活動で欠席する場合には、授業前に欠席連絡をし、訳文を指定時刻までにメールで提出すれば減点しない（未提出なら減点）。試験は応用問題。初回の授業で2回目以降の教材を配布するので、受講予定者は必ず第1回目の授業に出席すること（2回目から全員指名する。初回に出席できない場合には必ず1週目の間に連絡してプリントを取りに来ること）。単語テストを毎回冒頭に実施する。他人の迷惑となるので私語については厳しく注意する。		第1回： ガイダンス、授業の進め方、予習方法の説明 第2回： 基本的な対立譲歩構文の復習 第3回： 様々な対立譲歩構文 第4回： 応用的な対立譲歩構文 第5回： 使役構文 第6回： 放任構文 第7回： 知覚構文 第8回： 目的構文 第9回： 結果構文 第10回： 時の構文 pendant que など 第11回： 時の構文 après que など 第12回： 時の構文 avant que など 第13回： ここまでのまとめ 第14回： 秋学期のまとめ 文章自体は全て昨年度とは別、扱う文章は文学作品、新聞・雑誌記事、ブログ、料理のレシピ、仏検の過去問題等で、1つの作品を読んでいくという形式ではない。	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランス語学に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	前週に解説した構文を確認しながら課題文を訳す。毎回の授業は授業終了後、ビデオ配信する。		
テキスト	プリントを使用。		
参考文献	参考文献は適宜指示する。		
評価方法	規定回数以上出席した者に対して、毎回の単語小テスト＋発表内容、定期試験により評価する。出席規定回数を下回った者は、 <u>学年・学期を問わず</u> 評価しない。原則として卒業再試験は行わない。		

09 年度以降	フランス語コミュニケーション講読 I	担当者	木田 剛
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> 一般のフランス語で書かれた文章の講読を通じて、含まれる内容を理解しながら、個人的な見解を示せるようになることが目的である。 <講義概要> 講読の教材として、事前にことばとコミュニケーションの諸問題を扱うフランス語の文章を配布し、講義では教材の理解を中心に行う。授業前には教材を一通り読んで、わからない部分を見出しておくことが望ましい。講読を通して、これまでの学習してきた、語彙、表現、構文、文法項目などを復習しながら、未習のフランス語の知識を習得していく。また、扱われる内容について個人的な見解を持てるようになりたい。学期末には、扱ったテーマの中から選んだ内容についてレポートを作成する。		1. 授業オリエンテーション 2. 思考とことば 3. ことばの起源 4. ことばの原型 5. 言語の進化 6. 言語障害 7. 子供の言語獲得 8. バイリンガリズムの功罪 9. ことばと意味 10. 比喩の役割 11. 説得することば 12. 新語の誕生 13. ことばの脳 14. まとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランス語学に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に文章を読んで理解できないことを確認し、事後には学習項目の整理を行う。		
テキスト	プリント配布。		
参考文献	特になし。		
評価方法	平常点（授業中の積極性、課題への取り組み等）を 50%、レポートを 50%の配分を目処に評価する。		

09 年度以降	フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	担当者	木田 剛
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> 春学期同様、一般のフランス語で書かれた文章の講読を通じて、含まれる内容を理解しながら、個人的な見解を示せるようになることが目的である。春学期に比べてより安定したフランス語の定着を目指す。 <講義概要> 講読の教材として、事前にことばとコミュニケーションの諸問題を扱うフランス語の文章を配布し、講義では教材の理解を中心に行う。授業前には教材を一通り見て、わからない部分を見出しておくことが望ましい。講読を通して、これまでの学習してきた、語彙、表現、構文、文法項目などを随時復習しながら、未習のフランス語の知識が理解できるようにする。また、扱われる内容について個人的な見解を持ちたい。学期末には、扱ったテーマの中から選んだ内容についてレポートを作成する。		1. 授業オリエンテーション 2. 言語とは：識者の見方 3. ことばの謎 4. ボディーランゲージ 5. 生物学と言語 6. 植物のことば 7. 動物のことば 8. イメージの解釈 9. グラフィックの位置付け 10. アカデミー・フランセーズ 11. バベル塔と言語 12. 自動翻訳と外国語 13. 科学と詩 14. まとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランス語学に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に文章を読んで理解できないことを確認し、事後には学習項目の整理を行う。		
テキスト	プリント配布。		
参考文献	特になし。		
評価方法	平常点（授業中の積極性、課題への取り組み等）を 50%、レポートを 50%の配分を目処に評価する。		

09 年度以降	フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	担当者	井上 美穂
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業の目的は、フランス語圏でおきている時事の話題についての新聞記事を、辞書を使って読めるようになることです。授業は、次のように展開する予定です。①新聞記事を配布します。②記事には5問程度の問題がついていきますので、その回答を各自がワード文書に書きます。③みなさんの回答をセンターモニターに写し、全員でその回答を見ながら検討を行います。2019年のニュースは予測できませんので、参考までに2018年の他の授業で扱った話題を右の欄に載せます。		第1回：復活祭のチョコレート、大量生産が手作りか 第2回：国鉄がストライキ 第3回：シリア情勢 第4回：エアフランスがストライキ 第5回：メーデーのデモが暴徒化 第6回：5月1日のすずらん 第7回：カンヌ映画祭 第8回：英雄となったマリ人と、マクロン大統領 第9回：テニス全仏オープン 第10回：地球温暖化 第11回：サッカーW杯でビデオ判定が導入される 第12回：世界一観光客が来る国フランス 第13回：難民問題とEU 第14回：ツールドフランス	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランス語学に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習は必要ありません。学習した内容を復習しながら、知識を積み上げて下さい。		
テキスト	教員が作成し、その都度授業で配布します。		
参考文献	特になし。		
評価方法	試験期間に行われるテストの得点で評価を行います。90 点以上が AA、80 点以上が A、70 点以上が B、60 点以上が C、60 点未満は不可になります。		

09 年度以降	フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	担当者	井上 美穂
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業の目的は、フランス語圏でおきている時事の話題についての新聞記事を、辞書を使って読めるようになることです。授業は、次のように展開する予定です。①新聞記事を配布します。②記事には5問程度の問題がついていきますので、その回答を各自がワード文書に書きます。③みなさんの回答をセンターモニターに写し、全員でその回答を見ながら検討を行います。2019年のニュースは予測できませんので、参考までに2018年の他の授業で扱った話題を右の欄に載せます。		第1回：ルーブル美術館 第2回：ブレグジット Brexit と EU 第3回：マクロン大統領 仏領サンマルタンを訪問 第4回：フランス人はボンボンが大好き 第5回：ベルギーのイスラム政党 第6回：アステリクスとオベリクス 第7回：チュニジアでテロ 第8回：米粉のパン 第9回：カルロス・ゴーン逮捕 第10回：黄色いベストの運動 シャンゼリゼで破壊行為 第11回：トリュフ 第12回：ストラスブールのマルシェ・ド・ノエルでテロ 第13回：心のレストラン 第14回：菓子ガレット・デ・ロワ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランス語学に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習は必要ありません。学習した内容を復習しながら、知識を積み上げて下さい。		
テキスト	教員が作成し、その都度授業で配布します。		
参考文献	特になし。		
評価方法	試験期間に行われるテストの得点で評価を行います。90 点以上が AA、80 点以上が A、70 点以上が B、60 点以上が C、60 点未満は不可になります。		

09 年度以降	フランスの美術 I	担当者	阿部 明日香
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： ギリシア神話やキリスト教に関連する主題は、西洋絵画において中心的な地位を占めてきました。この講義ではこうした「物語画」の代表的な主題を取り上げ、それらの「読み方」を学ぶことでフランス美術に親しんでゆきます。また、近代フランスの歴史的文化的社会的コンテクストをふまえた上で、同時代の事件や日常生活を描いた絵画について理解を深めます。 講義概要： 毎回ひとつのテーマを取り上げ、画像や映像を用いて複数の作品を比較検討していきます。受講生の皆さんには毎回コメントペーパーを書いて提出してもらいます。コメントの内容を次回の授業で取り上げ、さらに解説を加える場合もあります。		1. イントロダクション 2. ギリシア神話の主題1: アポロ 3. ギリシア神話の主題2: ディアナ 4. ギリシア神話の主題3: ウェヌス 5. ギリシア神話の主題4: プシケとアモル 6. ギリシア神話の主題5: パリスの審判 7. ギリシア神話の主題6: アキレウス 8. 旧約聖書の主題 9. 新約聖書の主題 10. 同時代の事件を描く1: ナポレオンの戴冠 11. 同時代の事件を描く2: 7月革命 12. 日常生活を描く:農民画 13. 日常生活を描く:近代都市パリ 14. まとめ	
到達目標	時代的背景を捉えながら、代表的な芸術家や作品など、フランスの美術に関する専門知識を習得し、鑑賞のうえ批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で指示された参考文献を読む。美術館、画集などで作品に親しむ。		
テキスト	プリントを配布します。		
参考文献	授業中に適宜紹介します。		
評価方法	学期末試験（80%）、毎回のコメントペーパー（10%）、美術館レポート（10%） ただし「美術館見学レポート」を提出することが試験を受ける条件となります。		

09 年度以降	フランスの美術 II	担当者	阿部 明日香
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 毎回一つのキーワードを起点とし、美術作品を批判的に読み解いてゆくことで、絵画をはじめとする表象文化が提起する問題について理解を深めます。 講義をとおして、フランスの美術にとどまらず、身の回りのさまざまな事象についても、自ら分析する力を養うことを目的とします。 講義概要： 画像や映像を用いて作品を見ながら解説していきます。受講生の皆さんには毎回コメントペーパーを書いて提出してもらいます。コメントの内容を次回の授業で取り上げ、さらに解説を加える場合もあります。		1. イントロダクション 2. 権力と美術 1：権力に奉仕するものとしての美術 3. 権力と美術 2：反権力としての美術 4. オリジナリティと規範 1：マネ 5. オリジナリティと規範 2：印象派 6. オリエンタリズム 7. オリエンタリズムの現在 8. ジャポニスム 9. ジェンダー1：女性はどうのように描かれてきたか 10. ジェンダー2：「なぜ女性の大芸術家はいないのか」 11. プリミティヴィスム 12. ケ・ブランリー美術館をめぐる 13. 「美術館」というシステム 14. まとめ	
到達目標	時代的背景を捉えながら、代表的な芸術家や作品など、フランスの美術に関する専門知識を習得し、鑑賞のうえ批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で指示された参考文献を読む。美術館、画集などで作品に親しむ。		
テキスト	プリントを配布します。		
参考文献	参考文献は授業中に適宜紹介します。		
評価方法	学期末試験（80%）、毎回のコメントペーパー（10%）、美術館レポート（10%） ただし「美術館見学レポート」を提出することが試験を受ける条件となります。		

09 年度以降	フランスの音楽 I	担当者	松橋 麻利
講義目的、講義概要		授業計画	
目的：春学期は、17世紀バロック時代から19世紀ロマン派までの西洋音楽の主に器楽を通史的に見ていきます。その流れのなかでフランスの作曲家としては19世紀に登場するベルリオーズがどのような貢献をしたのかを確認し理解しておくこともポイントです。 概要：講義は可能なかぎり音楽を聴き、映像などを見ながら進めます。各音楽を真剣に聴き自分の受け止め方を意識するようにしてください。音楽の規則に踏み込んだ話をすることもありますので、「楽典」（月曜日3限）の授業を履修することも有効です。		1. ガイダンス、およびバロック時代（1600-1750）の理念と器楽 1：鍵盤音楽 2. バロック時代の器楽 2：鍵盤音楽と室内楽 3. バロック時代の器楽 3：管弦楽 4. バロック時代の器楽 4：管弦楽 5. 18 世紀古典派 1：古典派の理念とモーツァルトのピアノ・ソナタ 6. 18 世紀古典派 2：モーツァルトの交響曲 7. 中間試験；18 世紀古典派 3：ベートーヴェンのピアノ・ソナタ 8. 18 世紀古典派 4：ベートーヴェンの交響曲 9. 18 世紀古典派 5：フランスの交響曲 10. 19 世紀ロマン派 1：ロマン派の理念とヴェーバー 11. 19 世紀ロマン派 2：ベルリオーズ 12. 19 世紀ロマン派 3：リスト 13. 19 世紀ロマン派 4：国民楽派 14. まとめと期末試験	
到達目標	ヨーロッパ芸術音楽の歴史や国民性の違いなど、フランスの音楽に関する専門知識を習得し、鑑賞のうえ批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布プリントと紹介する参考文献を読み、授業中に触れる音楽作品を積極的に聴くこと。		
テキスト	プリント。		
参考文献	ガイダンス時に紹介。		
評価方法	試験 100%（中間と期末の平均）。受験資格：試験対象期間の 2/3 以上の出席		

09 年度以降	フランスの音楽Ⅱ	担当者	松橋 麻利
講義目的、講義概要		授業計画	
目的：秋学期は、19世紀ドイツ・ロマン派と19世紀後半以降のフランスの中心的な作曲家の主にピアノ曲を対照させて見ます。それによってフランス音楽の特質をより深く理解することが目的です。 概要：講義は可能なかぎり音楽を聴き、映像などを見ながら進めます。各音楽を真剣に聴き自分の受け止め方を意識するようにしてください。音楽の規則に踏み込んだ話をすることもありますので、「楽典」（月曜日3限）の授業を履修することも有効です。		1. ガイダンス、および 19 世紀ロマン派のピアノ曲 1：シューベルト、シューマン 2. ロマン派のピアノ曲 2：シューマン、ショパン 3. ロマン派のピアノ曲 3：ショパン、ブラームス 4. ロマン派の管弦楽曲 1：シューベルト、メンデルスゾーン 5. ロマン派の管弦楽曲 2：シューマン、ブラームス 6. ヴァーグナーの楽劇（1） 7. 中間試験；ヴァーグナーの楽劇（2） 8. 19 世紀後半以降のフランスのピアノ曲 1：フォーレ 1 9. 同期のフランスのピアノ曲 2：フォーレ 2 10. 同期のフランスのピアノ曲 3：ドビュッシー1 11. 同期のフランスのピアノ曲 4：ドビュッシー2 12. 同期のフランスのピアノ曲 5：ラヴェル 1 13. 同期のフランスのピアノ曲 6：ラヴェル 2 14. まとめと期末試験	
到達目標	ヨーロッパ芸術音楽の歴史や国民性の違いなど、フランスの音楽に関する専門知識を習得し、鑑賞のうえ批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布プリントと紹介する参考文献を読み、授業中に触れる音楽作品を積極的に聴くこと。		
テキスト	プリント。		
参考文献	ガイダンス時に紹介。		
評価方法	試験 100%（中間と期末の平均）。受験資格：試験対象期間の 2/3 以上の出席		

09 年度以降	フランスの舞台芸術Ⅰ	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
今年度は「フランス・バレエの歴史」をテーマとして扱います。春学期は「宮廷バレエー宮廷舞踏からオペラ・バレエへ」と題し、16 世紀から 18 世紀にかけてのフランスにおける宮廷バレエの成立からその発展的解消までの歴史を講義します。宮廷バレエはフランスの宮廷社会が生み出した独特の芸術様式で、その形式は、絶対王政の進展とともに独自の政治的・社会的・文化的意味を担って発展してきました。それは、ダンス・音楽・舞台装置・衣裳・歌・朗誦などが組み合わされた総合的なスペクタクルであり、19 世紀以降の寡黙な近代バレエ、ロマンチック・バレエとはかなり内容、性質、テクニク等が異なります。 受講者の理解を助けるために、映像、音声等も活用します。 ただ教室に座っていれば単位がもらえんと思っっているような人は受講無用です。評価は厳しいので、単位目当てだけの人は履修を控えたほうが賢明でしょう。積極的な授業参加の意欲の持ち主を歓迎します。授業の質は受講者の質によっても左右されます。 なお、授業計画は一応の目安に過ぎず、必ずしも予定通り進行するものではないことをお断りしておきます。		1. 春学期授業概要の説明 2. 宮廷舞踏の誕生（16 世紀） 3. 宮廷舞踏から宮廷バレエへ（イタリアの影響） 4. 『王妃の演劇的バレエ』 5. 宮廷バレエの身体技法 6. ルイ 13 世期のバレエ概観 7. ルイ 14 世期のバレエ概観 8. 『夜のバレエ』他 9. 宮廷祝祭とバレエ 10. モリエールのコメディ・バレエ 11. 『町人貴族』 12. オペラ・バレエの誕生 13. 18 世紀のバレエ概観 14. ジャン＝フィリップ・ラモー、ノヴェール	
到達目標	フランス舞台芸術と時代・社会・文化との影響関係など、フランスの舞台芸術に関する専門知識を習得し、鑑賞のうえ批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業時に指示する。		
テキスト	なし。		
参考文献	授業時に紹介。		
評価方法	レポート 100%（ただし 3 分の 2 以上出席しなかった場合には自動的に F または F G 評価とする）		

09 年度以降	フランスの舞台芸術Ⅱ	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
継続受講が望ましく、秋学期からの受講者に対する配慮は特に行いません。 秋学期は、19 世紀以降の近代バレエの歴史をたどります。宮廷バレエのダンサーは男性中心でしたが、19 世紀にバレエは女性中心となり、バレエ・リュスの衝撃を経て、20 世紀に再び男性がバレエの世界に戻ってきます。近代バレエの歴史を理解する上で欠かせないフランスとロシアが果たした役割についても扱い、19、20 世紀におけるバレエ史上のスターたちについてもフランス関係を中心に紹介します。ただし、この授業では、あくまで文化的な観点からバレエを考察し、その歴史的な意味を探ります。単にバレエが好きだから等の理由でこの授業を選択しても、期待したような内容の話を聞くことはできないでしょう。 受講者の理解を助けるために、映像、音声等も活用します。 ただ教室に座っていれば単位がもらえんと思っっているような人は受講無用です。評価は厳しいので、単位目当てだけの人は履修を控えたほうが賢明でしょう。積極的な授業参加の意欲の持ち主を歓迎します。授業の質は受講者の質によっても左右されます。 なお、授業計画は一応の目安に過ぎず、必ずしも予定通り進行するものではないことをお断りしておきます。		1. 秋学期授業概要の説明 2. ロマンチック・バレエの誕生 3. 『ラ・シルフィード』 4. 『ジゼル』 5. ロマンティックからクラシックへ 6. 『コッペリア』他 7. フランスからロシアへ 8. 『白鳥の湖』 9. 『眠れる森の美女』 10. ロシアから再びフランスへーバレエ・リュス 11. バレエ・リュスの作品 12. 20 世紀のバレエ概観 13. モーリス・ベジャール 14. オペラ座バレエ団	
到達目標	フランス舞台芸術と時代・社会・文化との影響関係など、フランスの舞台芸術に関する専門知識を習得し、鑑賞のうえ批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業時に指示する。		
テキスト	なし。		
参考文献	授業時に紹介。		
評価方法	レポート 100%（ただし 3 分の 2 以上出席しなかった場合には自動的に F または F G 評価とする）		

09 年度以降	フランス文学史 I	担当者	筒井 伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
主に 20 世紀フランス文学の歴史を遡りながら見ていくが、その際「文学史」の様々なジャンル・流派・時代特徴を概念的に通覧するだけでなく、個別の代表的な文学作品の抜粋を実際に受講生自身がフランス語原文で読み日本語に翻訳する作業を通してそれぞれの作家の特徴を感じ取る。従って「講読」の授業同様に仏和辞典（ポケット版や1年生用初級仏和辞典は不可）必要。		1. ガイダンス、ノーベル文学賞とフランス文学 2. 21 世紀のノーベル文学賞：ル・クレジオ 3. ル・クレジオ『モンド』 4. ル・クレジオ <i>Lullaby</i> p.7-8：地中海 5. ル・クレジオ <i>Lullaby</i> p.9-11：コスモポリタン 6. 21 世紀のノーベル文学賞：パトリック・モディアノ 7. モディアノ <i>La Seine</i> p.13-14：Boulogne-Billancourt と Charenton 8. モディアノ <i>La Seine</i> p.14：Cours Albert 1 ^{er} 9. モディアノ <i>La Seine</i> p.14-15：Cours Marivaux 10. モディアノ <i>La Seine</i> ：ナチス占領下のパリ 11. 18 世紀の恋愛喜劇：マリヴォー 12. マリヴォー <i>Le Jeu de l'amour et du hazard</i> 1 幕 13. マリヴォー <i>Le Jeu de l'amour et du hazard</i> 3 幕 14. まとめ	
到達目標	フランス文学における時代区分、代表的な作家、作品、ジャンルなど、フランス文学史に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：フランス語テキストの予習。事後：授業での知識の整理。		
テキスト	プリント。		
参考文献	『はじめて学ぶフランス文学史』（ミネルヴァ書房）、『フランス文学案内』（岩波文庫）		
評価方法	期末試験（60%）、平常点および授業への参加度（40%）。ただし 3 分の 2 以上出席しなかった場合は F または FG 評価とする。		

09 年度以降	フランス文学史Ⅱ	担当者	筒井 伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
主に 20 世紀フランス文学の歴史を遡りながら見ていくが、その際「文学史」の様々なジャンル・流派・時代特徴を概念的に通覧するだけでなく、個別の代表的な文学作品の抜粋を実際に受講生自身がフランス語原文で読み日本語に翻訳する作業を通してそれぞれの作家の特徴を感じ取る。従って「講読」の授業同様に仏和辞典（ポケット版や1年生用初級仏和辞典は不可）が必要。 春学期からの継続受講が望ましく、秋学期だけの受講者に対する配慮は特に行わない。		1. ガイダンス、20 世紀戦後の実験文学 2. Oulipo とは：文学と数学—遊戯 3. Oulipo とは：『ヒルベルトによる文学の諸基礎』 4. クノー <i>L'Exercice du style</i> «Notation» 他 5. クノー <i>L'Exercice du style</i> «Rétrograde» 他 6. クノー <i>L'Exercice du style</i> «Comédie» 他 7. クノー <i>Zazie dans le métro</i> 8. Oulipo の作家：ジョルジュ・ペレック 9. ペレック <i>Tentative d'épuisement</i>：place Saint-Sulpice 10. ペレック <i>Tentative d'épuisement</i> p.9-10 11. ペレック <i>Tentative d'épuisement</i> p.11-12 12. 20 世紀の女流作家：マルグリット・デュラス 13. デュラス <i>L'Amant</i> 14. まとめ	
到達目標	フランス文学における時代区分、代表的な作家、作品、ジャンルなど、フランス文学史に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：フランス語テキストの予習。事後：授業での知識の整理。		
テキスト	プリント。		
参考文献	『はじめて学ぶフランス文学史』（ミネルヴァ書房）、『フランス文学案内』（岩波文庫）		
評価方法	期末試験（60%）、平常点および授業への参加度（40%）。ただし 3 分の 2 以上出席しなかった場合は F または FG 評価とする。		

13 年度以降 12 年度以前	フランスの文学Ⅰ フランス語圏の文学Ⅰ	担当者	森井 良
講義目的、講義概要		授業計画	
「小説」というジャンルをとおして、二十世紀文学の潮流、とりわけフランスを中心とした世界文学の流れを実際のテキストとともに見ていきましょう。その流れが世紀を超えた現在に投げかける問いとインパクトについても検討するつもりです。そこでは、個々の作家の「語り」や「エクリチュール」（≒書き方）の特質だけでなく、彼らが作品のうちに反映させた社会動向や知的潮流も問題になることでしょう。 特定の作家を軸に授業計画の章立てをしましたが、なるべくリンクを飛ばして横断的に論じていきたいと思っています。日本文学やフランス以外の海外文学についても適宜言及するつもりです。受講生のみなさんも積極的に発言してかきまわしてください。みんなで授業を○可塑的／×過疎的にしていきましょう。		1. オリエンテーション 2. 近代小説の語り①：スタンダール／バルザック 3. 近代小説の語り②：ゾラ／フローベール 4. メタ・フィクション①：ジッド 5. メタ・フィクション②：ジッド 6. 「書く私」の語り①：プーセント 7. 「書く私」の語り②：プーセント 8. 語りの破壊①：セリヌ 9. 語りの破壊②：ブルトン 10. エクリチュールの0度①：カミュ 11. エクリチュールの0度②：カミュ 12. 語りと視点①：サルトル 13. 語りと視点②：ジュネ 14. まとめ	
到達目標	フランス語圏の文学を構成する作家、作品、ジャンルについて専門知識を習得し、当時の時代背景、社会情勢をふまえ鑑賞のうえ批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義形式ですが、場合によっては訳読をやってきてもらうこともあります。		
テキスト	プリントを配布します。		
参考文献	ドミニク・ラバテ／三ツ堀広一郎訳『二十世紀フランス小説』（白水社、文庫クセジュ）		
評価方法	レポート 60%、平常点（出席、授業への参加度） 40%		

13 年度以降 12 年度以前	フランスの文学Ⅱ フランス語圏の文学Ⅱ	担当者	森井 良
講義目的、講義概要		授業計画	
前期にひきつづき二十世紀から現在までの小説表現史を実際のテキストとともに見ていきます。		1. オリエンテーション 2. 「ヌーヴォー・ロマン」の試み①：ビュートル 3. 「ヌーヴォー・ロマン」の試み②：サロート／ソレルス 4. 描写と反復①：ロブ＝グリエ 5. 描写と反復②：ロブ＝グリエ 6. 「異邦」のエクリチュール①：デュラス 7. 「異邦」のエクリチュール②：デュラス 8. 外国語で書く：アゴタ・クリストフ 9. キャノンの書き換え①：クレオール作家たち 10. キャノンの書き換え②：クレオール作家たち 11. ミステリの探求：モディアーノ／ルメートル 12. ある作家の可能性①：ウエルベック 13. ある作家の可能性②：ウエルベック 14. まとめ	
到達目標	フランス語圏の文学を構成する作家、作品、ジャンルについて専門知識を習得し、当時の時代背景、社会情勢をふまえ鑑賞のうえ批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義形式ですが、場合によっては訳読をやってきてもらうこともあります。		
テキスト	プリントを配布します。		
参考文献	ドミニク・ラバテ／三ツ堀広一郎訳『二十世紀フランス小説』（白水社、文庫クセジュ）		
評価方法	レポート 60%、平常点（出席、授業への参加度） 40%		

09 年度以降	フランス芸術文化各論 I	担当者	福井 憲彦
講義目的、講義概要		授業計画	
目的：フランス文化史の基本を、王政が基礎を本格的に固め出す16世紀からたどりなおすことによって、同時代だけでなく後世の近現代フランス文学や芸術を理解してゆく基盤を、学生諸君のなかに固めてもらいたい。 概要：春学期には、主に16世紀に焦点を合わせてみる。通常、ルネサンスや宗教改革は、もっぱら近代的な文化要素の出発点と言われてきたが、果たしてそのような理解で済むのであろうか。なぜこの世紀に、魔女狩りが猖獗をきわめ、同胞が血で血を洗う「宗教戦争」という内戦が生じたのか。基礎的な事項に関する講義を踏まえて、それぞれの頭で考えてみて欲しい。授業の基本は講義形式であるが、随時質疑応答や意見交換を交えたい。毎回授業の最後にコメントや質問のペーパーを出してもらおう。授業計画の進行は、理解状況を踏まえて変更がありうる。		1. 授業方式の説明。プリント配付するので、履修者は1回目から出席のこと。フランスの地理的条件等の確認。 2. 年表を見ながら歴史的推移を概観（16～17世紀） 3. イタリア戦争という転機：「近世」の開始 4. フランスで没したダヴィンチとルネサンスの導入 5. フランス語への言語統一政策と国家統合の開始 6. フランス・ユマニスムと「印刷革命」 7. フランスにおける宗教改革と対抗宗教改革 8. 中間のまとめ 9. フランス人コーヴァンがカルヴァンとなる 10. 魔女狩りの嵐と主権国家論の併存する時代 11. 農村の習俗と民衆の信心（民衆文化と支配階層） 12. カトリックとガリカニスム（フランス教会自律主義） 13. アンリ 4 世の寛容政策と王の暗殺 14. 全体のまとめ	
到達目標	フランス芸術文化を各論し、特定のテーマや作品に関する専門知識を習得し、分析・鑑賞のうえ批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各自が正確に理解するには、プリントで配付する年表を参照しながら講義内容を復習すること。それが、次回への予習にもつながる。		
テキスト	なし。		
参考文献	世界歴史大系『フランス史 2』山川出版社、第二章、第三章。他、授業で指示。		
評価方法	授業におけるコメントペーパー等の評価（40％）と最終試験（60％）		

09 年度以降	フランス芸術文化各論Ⅱ	担当者	福井 憲彦
講義目的、講義概要		授業計画	
目的：フランス文化史の基本を、春学期につづいて、秋には17～18世紀に焦点を合わせて、捉えてみる。 概要：秋学期には主として17、18世紀の、いわゆる絶対王政期に焦点を合わせる。この時代については、ともするとルイ14世時代のヴェルサイユに代表される宮廷文化にもっぱら目が行きがちかもしれないが、それはあくまで一面である。広い意味での文化のあり方は、社会階層や統治のあり方とも連動しつつ、はるかに多様な諸文化間のやり取りとして理解できる。授業形式については、春学期と同様なので、上記参照。		1. 授業方式の説明。秋学期用年表の配付と春学期の講義概要（16世紀）の説明。 2. 年表を見ながら歴史的推移を概観（17世紀） 3. 年表を見ながら歴史的推移を概観（18世紀） 4. 新旧キリスト教の対立と「国家理性」 5. デカルト・フランス・ヨーロッパ 6. エリート文化と民衆文化 7. 王権下でのアカデミーの設立展開 8. 中間のまとめ 9. 宮廷文化またはバロックと古典主義 10. 都市文化と書物・印刷物の発展 11. サロンと学芸推進の役割 12. 百科全書と博物誌 13. 啓蒙の発想と世論・公論の台頭 14. 全体のまとめ	
到達目標	フランス芸術文化を各論し、特定のテーマや作品に関する専門知識を習得し、分析・鑑賞のうえ批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各自が正確に理解するには、プリントで配付する年表を参照しながら講義内容を復習すること。それが、次回への予習にもつながる。		
テキスト	なし。		
参考文献	世界歴史大系『フランス史 2』山川出版社、第四章から第七章。他、授業で指示。		
評価方法	授業におけるコメントペーパー等の評価（40%）と最終試験（60%）		

09 年度以降	フランス芸術文化講読 I	担当者	福井 憲彦
講義目的、講義概要		授業計画	
目的：21世紀のフランス社会を見ていると、さまざまな場において女性の活躍する姿が目に見える。しかしこのような状態になったのは、それほど昔のことではない。文筆活動や芸術創作の場においても同様である。フェミニズムと言われる思想や運動が登場した19世紀欧米世界とその中でのフランスの位置について、それを概観したフランス語テキストを読むことに挑戦してもらう。 概要：はじめに全体的な時代背景についての講義を私からしたのちに、フランス語のテキストを履修学生が輪読する形式をとる。まず、フランスの学生向けレベルの概説書の該当箇所数ページを、皆で読んでみる。そのあと、第二次大戦直後のボーヴォワール『第二の性』刊行を社会がどう受け止めたかを整理しているフランス語文献を、輪読してみる。授業計画は、履修者の力を見ながら合わせて進めるので、変更がありえる。		1. テキスト配付と授業方式の説明。時代背景に関する概説を始めるので、履修者は1回目から出席するように。 2. 時代背景に関する概説（履修者の予習期間） 3. テキスト輪読開始（冒頭部分から少しづつ） 4. 輪読の継続（良妻賢母教育を巡って） 5. 輪読の継続（女性労働について） 6. 輪読の継続（活躍した女性たち） 7. 輪読の継続（「フランケンシュタイン」の創作者） 8. 輪読の継続（セギュール夫人の著作活動） 9. 輪読の継続（広がる女性活躍の場） 10. 輪読の継続（初期のフェミニストたち） 11. 第2テキスト輪読開始（『第二の性』への反応） 12. 第2テキスト輪読開始（男中心だった文壇からの反発） 13. 第2テキスト輪読開始（サルトルたちによる援護） 14. 第2テキスト輪読開始（その後の世界各地での受け止め方）	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキスト輪読は毎回授業の場で担当を決めて順にしてもらいますので、予習は毎回不可欠。はじめは辞書を引くのも少し大変かもしれませんが、努力すれば間違いなく力は伸びます。		
テキスト	2種類のテキストは、授業の場でコピーを配付。		
参考文献	適宜、授業中に指示します。		
評価方法	授業における音読・訳し方（理解の仕方）等の評価 50%、最終試験の評価 50%		

09 年度以降	フランス芸術文化講読Ⅱ	担当者	福井 憲彦
講義目的、講義概要		授業計画	
目的：19世紀前半のフランスにおいて、たいへん特異な生涯を送った女性作家にして社会活動家、フロラ・トリスタンについて、簡潔に紹介し解説しているミシェル・ヴィノックという現代フランスの歴史家にして文筆家の文章を皆で読みあわせ、普通のフランス語テキストを読むという経験をしてもらう。 概要：テキストは、特に学習用に書かれたものではないので、初め難しく感じるかもしれないが、著者ヴィノックはフランスの一般読者向けに平易に、概観をあたえる文章を書くことにかけては素晴らしい力を示してきた学者で、その文体は明瞭。フランス語の文章で、フロラの数奇な、決して幸せとは言えない、まるで小説のような人生について読み、それを崩れぬ姿勢で生き抜いた女性の生涯を通して、人間と社会、文化について考えてみたい。ちなみにフロラ・トリスタンは、画家ゴーギャンの祖母でもあった。		1. テキストと授業方式の説明。時代背景に関する概説を開始するので、履修者は1回目から出席するように。 2. 時代背景に関する概説（履修者の予習期間） 3. テキスト輪読開始（冒頭部分から少しづつ） 4. 輪読の継続（フロラの著作） 5. 輪読の継続（フロラの生まれについて） 6. 輪読の継続（フロラの結婚） 7. 輪読の継続（夫との不幸な関係） 8. 前半の振り返り 9. 輪読の継続（ペルー旅行記） 10. 輪読の継続（パリの文壇との関わり） 11. 輪読の継続（ロンドン体験と社会活動） 12. 輪読の継続（労働者の団結を説く理論家フロラ） 13. 輪読の継続（フランス巡歴するフロラと突然の死去） 14. 全体の振り返りとまとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキスト輪読は毎回授業の場で担当を決めて順にしてもらいますので、予習は毎回不可欠。辞書を引き、構文を押さえて適切な訳語を考え、日本語らしい表現を文章にしてみる予習をすること。		
テキスト	テキストは、授業の場でコピーを配付。		
参考文献	フロラ・トリスタンの著作『ペルー旅行記』『ロンドン散策』『メフィス』は翻訳あり。		
評価方法	授業における音読・訳し方（理解の仕方）等の評価 50%、最終試験の評価 50%		

09 年度以降	フランス芸術文化講読 I	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
インターネット時代にまず要求される語学力は文章読解力でしょう。それだけでなく、フランス語をちゃんと話したり書いたりできるようになりたかったら、しっかりと読むことから始めないといけません。文字情報は音声情報よりもずっと豊かなものだからです。この授業では、話したり書いたりするときにも役に立つ知識を、いかに読みながら獲得するかという観点から、きちんとした読解力を身につけるための基礎訓練を行います。 今年度は、インド生まれで『ジャングル・ブック』で名声を博し、世界各地を放浪したことでも知られる作家 Rudyard Kipling (1865-1931) が動物を題材にして奇妙なエピソードを散りばめた短編集 « Histoires comme ça » (1902) を読みます。文章は平易ですが、結構馴染みのない単語が出てくるので、しっかりと予習をすることが必要です。進度は目安です。		1. 授業概要の説明、テキストの紹介 2. La Baleine et son gosier (p.17-p.19) 3. La Baleine et son gosier (p.20-p.21) 4. La Baleine et son gosier (p.22-p.23) 5. L'Enfant d'Éléphant (p.31-p.32) 6. L'Enfant d'Éléphant (p.33-p.34) 7. L'Enfant d'Éléphant (p.35-p.36) 8. L'Enfant d'Éléphant (p.37-p.38) 9. L'Enfant d'Éléphant (p.39-p.40) 10. L'Enfant d'Éléphant (p.41-p.42) 11. L'Enfant d'Éléphant (p.43-p.44) 12. L'Enfant d'Éléphant (p.45-p.46) 13. L'Enfant d'Éléphant (p.47-p.48) 14. 春学期のまとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指示された箇所を事前に精読しておいてください。		
テキスト	プリントで配付		
参考文献	なし		
評価方法	定期試験 50%、平常点 50% (ただし 3 分の 2 以上出席しなかった場合には自動的に F または F G 評価とする)		

09 年度以降	フランス芸術文化講読Ⅱ	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ。継続受講が望ましく、秋学期からの受講者に対する配慮は特に行いません。 秋学期も継続してRudyard Kiplingの「Histoires comme ça」を読みます。進度は目安です。		1. 授業概要の説明、テキストの紹介 2. Le Rhinocéros et sa peau (p.25-p.26) 3. Le Rhinocéros et sa peau (p.27-p.29) 4. Le Chat qui s'en va tout seul (p.67-p.69) 5. Le Chat qui s'en va tout seul (p.70-p.71) 6. Le Chat qui s'en va tout seul (p.72-p.73) 7. Le Chat qui s'en va tout seul (p.74-p.75) 8. Le Chat qui s'en va tout seul (p.76-p.77) 9. Le Chat qui s'en va tout seul (p.78-p.79) 10. Le Chat qui s'en va tout seul (p.80-p.81) 11. Le Chat qui s'en va tout seul (p.82-p.83) 12. Le Chat qui s'en va tout seul (p.84-p.85) 13. Le Chat qui s'en va tout seul (p.86-p.87) 14. 秋学期のまとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指示された箇所を事前に精読しておいてください。		
テキスト	プリントで配付		
参考文献	なし		
評価方法	定期試験 50%、平常点 50%（ただし 3 分の 2 以上出席しなかった場合には自動的に F または F G 評価とする）		

09 年度以降	フランス芸術文化講読 I	担当者	阿部 明日香
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 美術について論じたフランス語のテキストを読むことで、美術に関する語彙を学び、読解力を養うことを目的とします。同時に、美術に関わる諸問題について理解を深めます。 講義概要： 印象派の画家オーギュスト・ルノワールの息子ジャン（フランスを代表する映画監督）が書いた父の伝記（Jean Renoir, <i>Pierre-Auguste Renoir, mon père</i>, Gallimard, 1981）は、画家の人物や日常生活、制作などについて生き生きとした語り口で私たちに伝えてくれます。このテキストの抜粋を読み、ルノワールの素顔の一端にふれてみましょう。なかには驚くようなエピソードも・・・。 *授業は輪読形式で進めます。必ず予習して、自分なりの訳をつくってから授業にのぞんでください。必ず辞書を持参すること。		1. テキスト配布＋イントロダクション 2. 講読 p.241 3. 講読 p.242 4. 講読 p.243 5. 講読 p.244 6. 講読 p.245 7. 講読 p.246 8. 講読 p.247 9. 講読 p.248 10. 講読 p.249 11. 講読 p.250 12. 講読 p.251 13. 講読 p.252 14. まとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	辞書を丹念に引き、構文を理解した上で自分なりの訳をつくって授業に臨むこと。授業で扱った箇所を読み返す。		
テキスト	プリントを配布します。		
参考文献	授業中に適宜指示します。		
評価方法	平常点（毎回の訳読）30%、学期末試験 70% 授業中に課題を出す可能性もあります。		

09 年度以降	フランス芸術文化講読Ⅱ	担当者	阿部 明日香
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 美術について論じたフランス語のテキストを読むことで、美術に関する語彙を学び、読解力を養うことを目的とします。同時に、美術に関わる諸問題について理解を深めます。 講義概要： Alain Jaubert, <i>Lumière de l'image</i>, Gallimard 2008より、マネが描いたベルト・モリゾの肖像画について書かれた章を読んでいます。いわゆる「良家の子女」でありながら、前衛画家のグループの一員として印象派展に参加したベルトと彼女に魅了されモデルにしたマネ。二人の関係とは・・・。 *授業は輪読形式で進めます。必ず予習して、自分なりの訳をつくってから授業にのぞんでください。必ず辞書を持参すること。		1. テキスト配布＋イントロダクション 2. 講読 p.227 3. 講読 p.228 4. 講読 p.229 5. 講読 p.230 6. 講読 p.231 7. 講読 p.232 8. 講読 p.233 9. 講読 p.234 10. 講読 p.235 11. 講読 p.236 12. 講読 p.237 13. 講読 p.238 14. まとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	辞書を丹念に引き、構文を理解した上で自分なりの訳をつくって授業に臨むこと。 授業で扱った箇所を読み返す。		
テキスト	プリントを配布します。		
参考文献	授業中に適宜指示します。		
評価方法	平常点（毎回の訳読）30%、学期末試験 70% 授業中に課題を出す可能性もあります。		

09 年度以降	フランス芸術文化購読Ⅰ	担当者	森井 良
講義目的、講義概要		授業計画	
本授業で取り上げるのはフランスの「シャンソン」です。この語はジャンルとして言われることもあります。そもそもは一般名詞で「歌」という意味。なので口承文芸としての「詩」から現代の歌謡曲、文学作品のような歌(chanson à texte)からアイドルのうたうポップス、はてはフォーク、ロック、ラップ……までも含みうる総称的カテゴリーと言えるでしょう。授業で扱うのはむしろ現代の音楽としての「シャンソン」ですが、これまた上に挙げた様々なジャンルだけでなく、汲めども尽きぬ多種多様な歌い手と主題をたたえたマトリックスの様相を呈しています。 そんななかから選りすぐりの歌手をテーマ別に紹介しつつ、彼らの歌を「テキスト」として読み解いてみようという本授業の試みです。日本語の訳詞では読み取れないニュアンスや文脈を、原文の精読をつうじて掴まえていきましょう。		1. オリエンテーション 2. 「シャンソン」をうたう①：訳詞の問題 3. 「シャンソン」をうたう②：ジルベール・ベコー 4. 「歌姫」をうたう①：エディット・ピアフ 5. 「歌姫」をうたう②：ザーズ 6. 「アイドル」をうたう①：シルヴィ・ヴァルタン 7. 「アイドル」をうたう②：フランス・ギャル 8. 「私」をうたう①：フランソワーズ・アルディ 9. 「私」をうたう②：ミシェル・ベルジェ 10. 「男」をうたう①：ジョニー・アリデイ 11. 「男」をうたう②：ミシェル・ポルナレフ 12. 「エロ」をうたう①：セルジュ・ゲンズブール 13. 「エロ」をうたう②：ジェーン・ヴァーキン 14. まとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	訳読は授業内だけでなく、課題としてやってきてもらうこともあります。		
テキスト	プリントを配布します。オーディオ・映像資料も適宜使用します。		
参考文献	向風三郎『ポップフランセーズ名曲 101 徹底ガイド』（音楽出版社）		
評価方法	レポート 60%、平常点（出席、訳読、授業への参加度） 40%		

09 年度以降	フランス芸術文化購読Ⅱ	担当者	森井 良
講義目的、講義概要		授業計画	
前期にひきつづきフランスの「シャンソン」を五感で味わっていきましょう。後期はさらにディープな世界へ。		1. オリエンテーション 2. 「カルメン」をうたう：三つの「カルメン」 3. 「情念」をうたう①：バルバラ 4. 「情念」をうたう②：パトリシア・カース 5. 「社会」をうたう①：ジョルジュ・ブラッサンス 6. 「社会」をうたう②：ミシェル・サルドゥー 7. 「LGBT」をうたう①：シャルル・アズナヴール 8. 「LGBT」をうたう②：ララ・ファビアン 9. 「ヤミ」をうたう：ダミア／セルジュ・ラマ／ダリダ 10. 「コミック」をうたう①：シャルル・トレネ 11. 「コミック」をうたう②：ジャック・ブレル 12. 「現代」をうたう①：ラファエル 13. 「現代」をうたう②：ストロマエ 14. まとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	訳読は授業内だけでなく、課題としてやってきてもらうこともあります。		
テキスト	プリントを配布します。オーディオ・映像資料も適宜使用します。		
参考文献	向風三郎『ポップフランセーズ名曲 101 徹底ガイド』（音楽出版社）		
評価方法	レポート 60%、平常点（出席、訳読、授業への参加度） 40%		

09 年度以降	フランス芸術文化講読 I	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
Objectif : Découvrir le plaisir de la lecture à une ou plusieurs voix. Contenu : Nous lisons ensemble <i>Le Tablier Bleu</i> de Martine Laffon. Ce texte nous raconte avec une très grande poésie la vie de Louise, une vie bien ordinaire et bien solitaire. Une fois que les pages lues ensemble auront été comprises, nous attacherons beaucoup d'importance à la lecture à haute voix. Dans un deuxième temps, les participants de ce cours choisiront, parmi les livres faciles à lire, celui qu'ils liront tout seuls pendant les vacances d'été. ATTENTION ! Nous continuerons la lecture du Tablier bleu pendant le deuxième semestre.		1. Présentation du cours 2. Présentation du livre Le Tablier Bleu 3. Lecture des pages 8 et 10 4. Lecture des pages 11 et 12 5. Lecture des pages 14 et 15 6. Lecture des pages 16 et 18 7. Lecture des pages 19 et 20 8. Lecture des pages 22 et 23 9. Lecture des pages 24 et 26 10. Lecture des pages 27 et 28 11. Lecture des pages 30 et 31 12. Lecture des pages 32, 33 et 34 13. Lecture des pages 35 et 36 14. Lecture à voix haute du Tablier Bleu	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Lire à haute voix les pages étudiées en cours.		
テキスト	Photocopies.		
参考文献	Un dictionnaire FRANÇAIS.		
評価方法	Présence aux cours. Un rapport à remettre à la fin du semestre.		

09 年度以降	フランス芸術文化講読Ⅱ	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
Objectif : Découvrir le plaisir de la lecture à une ou plusieurs voix. Contenu : Nous continuerons la lecture du livre <i>Le tablier bleu</i>. Se reporter à ce qui a été écrit dans la case du premier semestre. Nous consacrerons une partie du cours aux échanges portant sur le livre que chaque étudiant aura lu ou commencé à lire, tout seul, pendant les vacances. Pour cette deuxième partie du cours, nous travaillerons en petits groupes. IMPORTANT : Les étudiants qui s'inscrivent à ce cours en avril sont invités à suivre le cours pendant le second semestre. Cependant, les nouveaux étudiants sont aussi les bienvenus.		1. Présentation et rappel des objectifs du cours 2. Résumé des pages lues au premier semestre 3. Lecture des pages 38 et 40 4. Lecture des pages 42 et 43 5. Lecture des pages 44 et 46 6. Lecture des pages 47 et 48 7. Lecture des pages 50 et 51 8. Lecture des pages 52 et 54 9. Lecture des pages 55 et 56 10. Lecture des pages 58 et 59 11. Lecture des pages 60 et 62 12. Lecture des pages 63 et 64 13. Exposés sur les livres 1 et 2 14. Exposés sur les livres 3 et 4	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Lire à haute voix les pages étudiées en cours.		
テキスト	Photocopies.		
参考文献	Un dictionnaire FRANÇAIS.		
評価方法	Présence aux cours. Un exposé à faire en groupe. Un rapport à remettre à la fin du semestre.		

09 年度以降	フランス芸術文化講読 I	担当者	G. ヴェスイエール
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業の目的は、フランス語で書かれた歌の歌詞や詩の熟読を通して、読解力と思考力をつけることです。いわゆる訳読は基本的にはせず、授業は主にフランス語で進めます。対象とする作品は、フランスに留まらず、あらゆるフランス語圏の国々に焦点を当て、必要なときには日本語訳を用いて読んでいきます。 歴史的背景、文法項目や詩法について解説するのはもちろんとして、読者・聴き手である私たちがそれらの作品を読んで何を考え、何を感じるのか、ということを常に意識しながらテキストの解釈を全員で共有することを重視します。そのため、積極的な参加が不可欠な授業です。 受講者の要望も取り入れて授業を組み立てるつもりですので、授業計画に変更の可能性があります。履修希望者は、春学期・秋学期の継続受講をすることが望ましいです。		1. ガイダンス、授業の概要説明 2. 歌を歌うという行為の意味とは 3. 講読 1（例：Abd Al Malik） 4. 講読 2（例：Stromae） 5. 講読 3（例：Camille） 6. 講読 4（例：Jeanne Cherhal） 7. 講読 5（例：Benjamin Biolay） 8. 講読 6（例：Matthieu Chédid） 9. 講読 7（例：Bénabar） 10. 講読 8（例：Damien Saez） 11. 講読 9（例：Mano Solo） 12. 講読 10（例：Bernard Lavilliers） 13. 講読 11（例：Gilles Vigneault） 14. まとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習、音読の練習は欠かせないこと。		
テキスト	プリント等を配布します。		
参考文献	授業内で指示。		
評価方法	平常点 50%（積極的な参加と授業内課題）と期末試験 50%		

09 年度以降	フランス芸術文化講読Ⅱ	担当者	G. ヴェスイエール
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業の目的は、フランス語で書かれた歌の歌詞や詩の熟読を通して、読解力と思考力をつけることです。いわゆる訳読は基本的にはせず、授業は主にフランス語で進めます。対象とする作品は、フランスに留まらず、あらゆるフランス語圏の国々に焦点を当て、必要なときには日本語訳を用いて読んでいきます。 歴史的背景、文法項目や詩法について解説するのはもちろんとして、読者・聴き手である私たちがそれらの作品を読んで何を考え、何を感じるのか、ということを常に意識しながらテキストの解釈を全員で共有することを重視します。そのため、積極的な参加が不可欠な授業です。 受講者の要望も取り入れて授業を組み立てるつもりですので、授業計画に変更の可能性があります。履修希望者は、春学期・秋学期の継続受講をすることが望ましいです。		1. ガイダンス、授業の概要説明 2. 歌を歌うという行為の意味とは 3. 講読 1（例：Renaud） 4. 講読 2（例：Jean-Jacques Goldman） 5. 講読 3（例：Alain Souchon et Laurent Voulzy） 6. 講読 4（例：Johnny Halliday） 7. 講読 5（例：Charles Aznavour） 8. 講読 6（例：Edith Piaf） 9. 講読 7（例：Serge Gainsbourg） 10. 講読 8（例：Barbara） 11. 講読 9（例：Jacques Brel） 12. 講読 10（例：Georges Brassens） 13. 講読 11（例：Léo Ferré） 14. まとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習、音読の練習は欠かせないこと。		
テキスト	プリント等を配布します。		
参考文献	授業内で指示。		
評価方法	平常点 50%（積極的な参加と授業内課題）と期末試験 50%		

09 年度以降	フランス芸術文化講読 I	担当者	筒井 伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
19世紀後半の大衆小説家 Jules Verneが自分の著作とした中編小説 <i>Les révoltés de la Bounty</i> を読む（翻訳は存在しない）。初級・中級の文法・語彙知識を活用して正確に仏文を理解することを目指すので、受講者は全員予習が必須である。 仏和辞書についての注意：学習者用の辞書（Dico、プチ・ロワイヤル、クラウン、ジュネスなど）では語彙が足りない。新スタンダード仏和辞典やロワイヤル仏和中辞典、小学館ロベール「仏和大辞典」などの中・大辞典が必要である。自分で持っていない場合は、図書館で予習すること。		1. ガイダンス。Jules Verneの解説 2. 講読：L'abandon p.9 3. 講読：L'abandon p.10 4. 講読：L'abandon p.11 5. 講読：L'abandon p.12 6. 講読：L'abandon p.13 7. 講読：L'abandon p.14 8. 講読：L'abandon p.15 9. 講読：L'abandon p.16 10. 講読：L'abandon p.17 11. 講読：L'abandon p.18-19 12. 講読：Les abandonnés p.20 13. 講読：Les abandonnés p.21 14. 講読：Les abandonnés p.22	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：フランス語テキストの予習。事後：授業での知識の整理。		
テキスト	Jules Verne, <i>Les révoltés de la Bounty</i> , coll. Folio Junior, Gallimard, 2010. ISBN 9782070630189		
参考文献	なし。		
評価方法	期末試験（60%）、平常点および授業への参加度（40%）。ただし 3 分の 2 以上出席しなかった場合は F または FG 評価とする。		

09 年度以降	フランス芸術文化講読Ⅱ	担当者	筒井 伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
19世紀後半の大衆小説家 Jules Verneが自分の著作とした中編小説 <i>Les révoltés de la Bounty</i> を読む（翻訳は存在しない）。初級・中級の文法・語彙知識を活用して正確に仏文を理解することを目指すので、受講者は全員予習が必須である。 仏和辞書についての注意：学習者用の辞書（Dico、プチ・ロワイヤル、クラウン、ジュネスなど）では語彙が足りない。新スタンダード仏和辞典やロワイヤル仏和中辞典、小学館ロベール「仏和大辞典」などの中・大辞典が必要である。自分で持っていない場合は、図書館で予習すること。 春学期からの継続受講が望ましく、秋学期だけの受講者に対する配慮は行わない。 なお、<i>Les révoltés de la Bounty</i> を読み終わった場合は、テキストの後半にある、<i>Un drame au Mexique</i> の冒頭を読む（翻訳は存在しない）。		1. ガイダンス。帆船の航海の説明 2. 講読：Les abandonnés p.23 3. 講読：Les abandonnés p.24 4. 講読：Les abandonnés p.25 5. 講読：Les abandonnés p.26 6. 講読：Les abandonnés p.27-28 7. 講読：Les abandonnés p.29-30 8. 講読：Les révoltés p.31-32 9. 講読：Les révoltés p.33-34 10. 講読：Les révoltés p.35-36 11. 講読：Les révoltés p.37-38 12. 講読：Les révoltés p.39-40 13. 講読：Les révoltés p.41-42 14. 講読：Un drame au Mexique	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読・フランス芸術作品の鑑賞を通じて、フランス芸術文化に関する専門知識を習得し、テキスト・作品を研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：フランス語テキストの予習。事後：授業での知識の整理。		
テキスト	Jules Verne, <i>Les révoltés de la Bounty</i> , coll. Folio Junior, Gallimard, 2010. ISBN 9782070630189		
参考文献	なし。		
評価方法	期末試験（60%）、平常点および授業への参加度（40%）。ただし 3 分の 2 以上出席しなかった場合は F または FG 評価とする。		

09 年度以降	フランス地域論 I	担当者	尾玉 剛士
講義目的、講義概要		授業計画	
フランスの諸地域の歴史・言語・文化、そしていくつかの都市による「まちづくり」の取り組みについて学びます。 日本では、人口減少が進むなかで地域経済の維持・活性化が課題となっています。フランスの場合、国内の各地域が独自の言語や文化、特産品をアピールしながら魅力を競い合っています。この授業ではフランスの諸地域・諸都市の取り組みから学べることを探っていきます。 講義の目的は以下の3点です。①フランスの地方制度の概要を理解する。②フランス国内の各地域に目を向けることで、歴史・言語・文化の豊かさと多様性に感動する。③パリ、ストラスブール、アンジェなどの都市における「暮らしやすいまちづくり」のための取り組みについて学ぶ。 「暮らしやすい地域」、「魅力的な地域」について考えるきっかけになれば幸いです。		1. ガイダンス 地域に着目する理由 2. フランスの地方制度 3. フランスの地方分権化 4. 地域の諸相① パリとその周辺 5. 地域の諸相② アルザス、ロレーヌ 6. 地域の諸相③ ノルマンディー、ブルターニュ 7. 中間まとめ&地域の諸相④ 言語の多様性 8. 地域の諸相⑤ アキテーヌ 9. 地域の諸相⑥ プロヴァンス 10. まちづくり① 地域活性化 11. まちづくり② 都市交通政策 12. まちづくり③ 商店街 13. まちづくり④ コンパクトシティ 14. まとめ	
到達目標	フランス各地域における制度、現象、問題、社会・文化の特性など、フランス地域に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、配布資料のなかでキーポイントを整理するので、何が本質的な論点なのかよく復習して次回に備えてください。		
テキスト	指定しない。		
参考文献	『フランスの地方都市にはなぜシャッター通りがないのか』学芸出版社、2016 年。その他授業中に紹介。		
評価方法	平常点（授業への参加度）30%、中間テスト 20%、期末テスト 50%。テストの無断欠席は 0 点扱い。やむを得ない事情により欠席する場合、必ず事前に連絡すること。		

09 年度以降	フランス地域論Ⅱ	担当者	尾玉 剛士
講義目的、講義概要		授業計画	
今学期はフランスの地域社会が直面する課題の中でも、移民を中心とする社会の外部からやって来た人々との「共生」の問題について考えます。 フランスは移民や難民の受け入れに大きな実績を有している国です。いわゆる“移民問題”を考えるにあたって国レベルの政策や統計を知ることはもちろん重要ですが、大都市の郊外など特定の地域に移民が集中しがちであるとか、経済衰退地域では移民排斥主義が広まりやすいなどといった意味で、「地域」という視点からも研究する必要があります。 この講義では、フランスと移民に関する概論から始め、地域社会が直面してきた課題、そして共生を実現するための地域レベルでの様々な取り組みについて学んでいきます。		1. ガイダンス フランスの地域社会と移民 2. フランスの移民政策① 「国民」と「外国人」 3. フランスの移民政策② 19世紀から第二次世界大戦まで 4. フランスの移民政策③ 第二次世界大戦後 5. 国境付近の地域と移民 6. 経済衰退地域と移民 7. 中間まとめ 8. 地域社会と移民① イスラム・スカーフ事件 9. 地域社会と移民② 学校教育（パリ郊外の事例） 10. 地域社会と移民③ 失業問題と対策（パリ郊外の事例） 11. フランスと難民 12. 地域社会と難民（パリ郊外とカレーの事例） 13. 地域社会とジプシー（南仏の事例） 14. まとめ	
到達目標	フランス各地域における制度、現象、問題、社会・文化の特性など、フランス地域に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、配布資料のなかでキーポイントを整理するので、何が本質的な論点なのかよく復習して次回に備えてください。		
テキスト	指定しない。		
参考文献	渡辺和行『エトランジェのフランス史』山川出版社、2007 年。その他授業中に紹介。		
評価方法	平常点（授業への参加度）30％、中間テスト 20％、期末テスト 50％。テストの無断欠席は 0 点扱い。やむを得ない事情により欠席する場合、必ず事前に連絡すること。		

09 年度以降	フランスの歴史 I	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス史の概説講義です。古代、中世、近世の各時代およびフランス革命について概観します。 フランス史の基礎知識を習得すると同時に、フランス社会の歴史的特質について理解を深めることを目的とする授業です。		1. 授業ガイダンス 2. 古代1：ケルト時代 3. 古代2：ガロ＝ローマ時代 4. 中世1：初期中世 5. 中世2：盛期中世 6. 中世3：後期中世 7. 古代・中世まとめ 8. 近世1：16世紀 9. 近世2：17世紀 10. 近世3：18世紀 11. 近世まとめ 12. フランス革命1：概観 13. フランス革命2：1789年 14. 全体のまとめ	
到達目標	フランス史の各時代の基本テーマ、フランスの歴史的特質など、フランスの歴史に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で指示する参考文献を読むことや、配布するプリントを整理するようにしてください。		
テキスト	プリント配布。		
参考文献	授業で指示します。		
評価方法	2 回のテストの成績（100％）をもとに評価します。		

09 年度以降	フランスの歴史Ⅱ	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス史の概説講義です。前半はフランス19世紀史を概観します。後半は「フランス史の諸問題」と題して、より具体的なテーマを取り上げます。2019年度はジャンヌ・ダルクを取り上げる予定です。		1. 授業ガイダンス 2. 19世紀（1）産業化の問題1（概観） 3. 19世紀（2）産業化の問題2（都市化・交通革命） 4. 19世紀（3）政治改革1（概観） 5. 19世紀（4）政治改革2（共和制の定着） 6. 19世紀（5）国民統合について 7. 19世紀（6）まとめ 8. フランス史の諸問題（1）百年戦争について 9. フランス史の諸問題（2）ジャンヌの生涯 10. フランス史の諸問題（3）処刑裁判について 11. フランス史の諸問題（4）ジャンヌ像の変容：16－18世紀 12. フランス史の諸問題（5）ジャンヌ像の変容：19－20世紀 13. フランス史の諸問題（6）ジャンヌ研究の現状 14. 全体のまとめ	
到達目標	フランス史の各時代の基本テーマ、フランスの歴史的特質など、フランスの歴史に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で指示する参考文献を読むことや、配布するプリントを整理するようにしてください。		
テキスト	プリント配布。		
参考文献	授業で指示します。		
評価方法	2回のテストの成績（100％）をもとに評価します。		

09 年度以降	フランスの政治経済 I	担当者	尾玉 剛士
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、国際比較の視点から現代フランスの政治システムの特徴を理解するとともに、フランスのみならず日本を含めた民主主義諸国の政治動向を見る目を養うことを目的とします。 はじめにフランス革命以降のフランス政治史の大きな流れを整理します。続いて現在の議会や官僚制などの制度の特徴を解説した上で、政治的リーダーシップの行使や街頭デモを含めた実際の政治のダイナミズムへと焦点を合わせていきます。 政治システムの検討にあたっては、国際比較（とくに日本とフランスの比較）の視点に立つことで、現代の民主主義諸国の政治のあり方について知的に考察できるようになることを目指します。		1. 講義目的・概要・評価方法の説明 2. フランス政治史① フランス革命から第二帝政まで 3. フランス政治史② 第三共和制から第四共和制まで 4. フランス政治史③ 第五共和制 5. 現代フランスの政治システムの概要 6. 議会 7. 官僚制 8. 選挙制度 9. 政党システム① 歴史的な特徴 10. 政党システム② 最近の動向 11. 政治的リーダーシップ 12. 政策決定過程 13. 社会運動 14. まとめ	
到達目標	フランスの政治経済の全体像、および、フランスの政治経済の現状や特質など、フランスの政治経済に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、配布資料のなかでキーポイントを整理するので、何が本質的な論点なのかよく復習して次回に備えてください。		
テキスト	指定しない。		
参考文献	大山礼子『フランスの政治制度（改訂版）』東信堂、2013 年。その他授業中に紹介。		
評価方法	平常点（授業への参加度）30%、小テスト 10%×2、期末テスト 50%。テストの無断欠席は 0 点扱い。やむを得ない事情により欠席する場合、必ず事前に連絡すること。		

09 年度以降	フランスの政治経済Ⅱ	担当者	尾玉 剛士
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、年金や医療保険などのフランスの社会保障制度と最近の改革動向を日本と比較しながら学びます。 フランスは北欧諸国と並ぶ巨大な福祉国家であり、年金や医療保険などの社会保障制度の改革は最も重要な政治課題の一つと言っても過言ではありません。日本でも、少子高齢化、雇用や家族の不安定化などを背景として社会保障改革が喫緊の課題になっています。 そこでこの講義では、まず社会保障とは何を目的とした制度なのかを明らかにします。次に年金や医療保険などの個々の社会保障制度の基本的な仕組みと、日仏における改革の動向について解説します。講義と試験を通じて、年金や消費税などのあり方について自分なりの意見を形成できるようになることを目指します。		1. 講義目的・概要・評価方法の説明 2. フランスの社会保障システム 3. フランスの経済・人口・社会の動向 4. 年金① 基本原理 5. 年金② 改革動向 6. 中間まとめ&医療保険① 基本原理 7. 医療保険② 国際比較 8. 医療保険③ 改革動向 9. 高齢者介護 10. 雇用政策（失業・非正規雇用対策） 11. 最低所得保障（生活保護） 12. 家族政策（子ども手当・保育サービス） 13. 社会保障財政 14. まとめ	
到達目標	フランスの政治経済の全体像、および、フランスの政治経済の現状や特質など、フランスの政治経済に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、配布資料のなかでキーポイントを整理するので、何が本質的な論点なのかよく復習して次回に備えてください。		
テキスト	指定しない。		
参考文献	土田武史編『社会保障論』成文堂、2015 年。その他授業中に紹介。		
評価方法	平常点（授業への参加度）30％、中間テスト 20％、期末テスト 50％。テストの無断欠席は 0 点扱い。やむを得ない事情により欠席する場合、必ず事前に連絡すること。		

09 年度以降	フランスの政治経済Ⅰ	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、フランスの経済についての専門的な知識の習得を目的とする。 学期の前半では、第3共和政期から現代までのフランスの経済の変遷を歴史的に辿る。学期の後半では、フランスの産業構造の特徴をセクターごとに確認した後に、いくつかのトピックを取り上げて、現代のフランスが抱える経済問題について検討していきたい。		1. フランス経済のイメージと実態 2. 第2次工業化 3. 世界恐慌とフランス 4. 第2次大戦とフランス経済 5. 戦後復興、国有化、計画化 6. 国際競争にどう立ち向かうか？ 7. 石油危機と栄光の30年の終焉 8. 産業構造（第1次産業） 9. 産業構造（第2次産業） 10. 産業構造（第3次産業） 11. インフレ 12. 移民問題 13. 失業問題 14. まとめ	
到達目標	フランスの政治経済の全体像、および、フランスの政治経済の現状や特質など、フランスの政治経済に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業内で挙げるキーワードについて事前に調べてくること。授業で学んだ内容を自分の言葉で論理的に説明できるようにすること。		
テキスト	テキストは用いない。		
参考文献	剣持久木編『よくわかるフランス近現代史』ミネルヴァ書房、2018 年。		
評価方法	テストと課題提出（70%）、授業への参加度（30%）		

09 年度以降	フランスの政治経済Ⅱ	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
戦後のフランスにとってヨーロッパ統合は国益追求の重要な手段だと見なされてきた。それゆえフランスは、統合の主導権を握ることを目指し、今日まで統合の進展において常に重要な役割を担ってきた。 本講義では、第2次世界大戦以前から今日のEUに至るまでの過程において、様々なヨーロッパ統合構想にフランスがどのように関わってきたかを学んだうえで、現在のEUにおけるフランスの役割について考えていきたい。		1. なぜ地域統合を行うのか？ 2. ヨーロッパ構想の出現から第1次大戦まで 3. 戦間期のヨーロッパ構想 4. 第2次大戦期のヨーロッパ構想 5. 戦後復興と経済近代化 6. シューマン・プランとECSC 7. フランスはヨーロッパ統合に何を求めたのか？ 8. EECの設立に向けて 9. ドゴールとEEC 10. ドゴールとイギリス 11. 1970年代のフランスとヨーロッパ統合 12. ミッテラン時代のヨーロッパ政策 13. EU誕生から今日まで 14. まとめ	
到達目標	フランスの政治経済の全体像、および、フランスの政治経済の現状や特質など、フランスの政治経済に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業内で挙げるキーワードについて事前に調べてくること。授業で学んだ内容を自分の言葉で論理的に説明できるようにすること。		
テキスト	テキストは用いない。		
参考文献	吉田徹編『ヨーロッパ統合とフランス』法律文化社、2012 年。		
評価方法	テストと課題提出（70%）、授業への参加度（30%）		

09 年度以降	フランス現代思想 I	担当者	根木 昭英
講義目的、講義概要		授業計画	
「フランス思想」というと、われわれの日常からはかけ離れた営みだと感じられるかもしれませんが。思想に関わるテキストは、たしかに簡単なものではありません。しかし、その言葉を丁寧に読み取っていくならば、自明に見えた日常的価値観を揺さぶる多くの新鮮で切実な問いかけが、そこで発せられていることが分かるでしょう。 そのような視点のもと、本講では、現代フランスで活動した思想家と、彼らに影響を与えた哲学者たちについて、原典テキスト（邦訳）を読解しながら考察します。神をめぐる議論から、人間の認識能力や道徳的实践についての思索、さらには、自由主義や「権力」、ジェンダーの批判的検討にいたる多様な論点を扱うことで、われわれの日常全般への反省的眼差しを養うことを目指します。 学科科目ではもっとも難しい講義のひとつになるはずですが。気概のあるみなさんの受講を希望します。		1. 導入 2. デカルト：普遍的懐疑とコギト 3. デカルト：神の存在証明 4. デカルト：自然学 5. パスカルと信仰の問題 6. カントの認識論：「超越論的感性論」について 7. カントの認識論：「超越論的分析論」について 8. カントの認識論：「超越論的弁証論」について 9. カントの道徳論 10. フーコーの考古学：『言葉と物』を読む 11. フーコーの考古学：『知の考古学』を読む 12. フーコーの系譜学：『監獄の誕生』を読む 13. 後期フーコーの思想：自由主義と「生政治」 14. 期末テスト・解説	
到達目標	フランス現代思想の流れや問題点、高度な語彙を用いた抽象的表現など、フランス現代思想に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の授業で指示する文献について予習してください。要点の復習を行ってください。		
テキスト	レジュメを配布します。		
参考文献	毎回の講義のなかで紹介していきます。		
評価方法	期末テスト：60%、コメントペーパー、発言などを通じた授業への貢献度：40%		

09 年度以降	フランス現代思想Ⅱ	担当者	根木 昭英
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じく、おもにフランスで活動した思想家たちについて考察を進めます（春学期履修は前提ではありません）。		1. 導入 2. サルトルの実存主義 3. サルトル『文学とは何か』を読む 4. 「眼差し」－ サルトルの他者論 5. ボーヴォワール『第二の性』を読む：「事実と神話」 6. ボーヴォワール『第二の性』を読む：「体験」 7. ボーヴォワール思想の現代的射程 8. モースの『贈与論』 9. レヴィ＝ストロース『親族の基本構造』を読む 10. レヴィ＝ストロース『野生の思考』を読む 11. ブルデューの文化社会学：「文化資本」の概念 12. ブルデューの文化社会学：「差別化＝卓越化」の機制 13. ブルデューの文化社会学と日本社会 14. 期末テスト・解説	
到達目標	フランス現代思想の流れや問題点、高度な語彙を用いた抽象的表現など、フランス現代思想に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の授業で指示する文献について予習してください。要点の復習を行ってください。		
テキスト	レジュメを配布します。		
参考文献	毎回の講義のなかで紹介していきます。		
評価方法	期末テスト：60%、コメントペーパー、発言などを通じた授業への貢献度：40%		

13 年度以降 12 年度以前	フランス語圏の現代社会Ⅰ 現代フランス論Ⅰ	担当者	根木 昭英
講義目的、講義概要		授業計画	
「フランス」は、多くのひとびとの抱くイメージに違わぬ華やかな魅力を備えています。しかし同時に、植民地主義的拡張とその行き詰まり、地域統合の実験やグローバル化などを経験しつつ形成されたその社会は、民族・文化・宗教などあらゆる側面において多様化し、それによって引き起こされる諸困難に直面してもいます。 本講では以上の認識から出発して、地理・制度・政治経済・文化などさまざまな側面から、複雑化する現代フランス社会（および旧植民地を中心とするフランス語圏社会）を考察します。フランス現地のニュースに触れるとともに、その理解に必要となる諸論点（「共和国」の理念、「統合」やポピュリズム、テロの問題など）について一通りの知識を身に付けることが目的です。 春学期には、おもに人々の暮らしと、その背景となる制度や文化について学びます。		1. 導入 2. 「共和国」の理念と憲法 3. 選挙制度のあり方と政治の現状 4. 「路上民主主義」の伝統 5. 労働をめぐる諸問題：失業問題について 6. 労働をめぐる諸問題：35時間労働制について 7. 映画から考えるフランス現代社会 8. 「家族」のあり方をめぐって：多様なカップル形態 9. 「家族」のあり方をめぐって：同性婚 10. 教育の問題とその周辺：中等教育まで 11. 教育の問題とその周辺：高等教育をめぐる問題 12. 「1968年」について 13. フランスメディアの現在 14. 期末テスト・解説	
到達目標	現代フランス社会の独自性や現在抱える諸問題など、フランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の授業で指示する文献について予習してください。要点の復習を行ってください。		
テキスト	レジュメを配布します。		
参考文献	毎回の講義のなかで紹介していきます。		
評価方法	期末テスト：60%、コメントペーパー、発言などを通じた授業への貢献度：40%		

13 年度以降 12 年度以前	フランス語圏の現代社会Ⅱ 現代フランス論Ⅱ	担当者	根木 昭英
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に引き続き、現代フランス語圏社会について学びます。秋学期には、社会の多様化に伴って共和国が直面している諸問題を中心に考察します（春学期履修は前提ではありません）。		1. 導入 2. 映画から考えるフランス現代社会 3. 植民地主義と「文明化」 4. ライシテ：「ライシテ」とは 5. ライシテ：スカーフ問題を考える 6. ライシテ：共和主義のナショナリズム化 7. 移民と統合の問題：「移民」とはだれか 8. 移民と統合の問題：移民史の観点から 9. 移民と統合の問題：ポピュリズムの台頭 10. 「共和制モデル」と「多文化主義、間文化主義」 11. フランスとユダヤ人 12. ヨーロッパ統合と共和国：EUの歴史・理念・制度 13. ヨーロッパ統合と共和国：EU懐疑主義の観点から 14. 期末テスト・解説	
到達目標	現代フランス社会の独自性や現在抱える諸問題など、フランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の授業で指示する文献について予習してください。要点の復習を行ってください。		
テキスト	レジュメを配布します。		
参考文献	毎回の講義のなかで紹介していきます。		
評価方法	期末テスト：60%、コメントペーパー、発言などを通じた授業への貢献度：40%		

09 年度以降	フランス現代社会各論 I	担当者	福井 憲彦
講義目的、講義概要		授業計画	
目的：政治・経済・文化のあり方を巡って、現在のフランス社会にまで通底してくる20世紀フランスの歴史的展開について、その基本的な認識を履修生が身につけられることを目標とする。 概要：春学期は、第1次大戦という重い経験から始まって、戦後の立ち直りに苦しんだ1920年代を中心に話すことを想定している。基本は講義形式であるが、随時質疑応答や意見交換を交えたい。毎回授業の最後にコメントや質問のペーパーを提出してもらおう。質問に対して、内容によっては次回の講義で回答を組み込む場合もある。授業計画の進行は、理解状況を踏まえて変更がありうる。		1. 授業方式の説明：プリントをもとに、フランスの地理的条件や人口推移について基本をおさえる。 2. 年表を見て30年代までの推移を概観(主に政治・経済) 3. 年表を見て30年代までの推移を概観(主に社会・文化) 4. 第1次大戦の勃発と長期化 5. 総力戦体制と「戦争文化」 6. 世界を巻き込んだ戦争の性格 7. 中間のまとめ 8. 戦後の国際情勢とブリアン外交 9. 20年代の第三共和政 10. 20年代：戦後社会の変貌 11. 20年代の多様な政治思想潮流 12. 「狂乱の」20年代芸術文化 13. 1931年パリ植民地博覧会の開催 14. 全体のまとめ	
到達目標	フランスあるいはフランス語圏の現代社会を各論し、特定諸問題に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	はじめに配付する年表を常に参照しつつ講義内容の復習確認をすること。それが、次回への予習にもつながる。講義を土台に学び考えたことを確実にするために、必ずそうした作業をしてほしい。		
テキスト	なし。		
参考文献	世界歴史大系『フランス史 3』山川出版社、第五章、第六章		
評価方法	授業におけるコメントペーパー等の評価（40％）と最終試験（60％）		

09 年度以降	フランス現代社会各論Ⅱ	担当者	福井 憲彦
講義目的、講義概要		授業計画	
目的：春学期と同じく、政治・経済・文化のあり方を巡って、現在のフランス社会にまで通底してくる20世紀フランスの歴史的展開について、その基本的な認識を履修生が身につけられることを目標とする。 概要：秋学期は、国内においても国際情勢においても重大な危機を経験した1930年代を中心に、レオン・ブルムFront populaire政権が崩壊するまでを扱う。政治・経済面で深刻な危機に遭遇した30年代は、しかし社会文化面では、ラジオ放送に代表されるようなメディアの変化、ヴァカンスの制度化やスポーツ振興に示されるような、生活状況の変容などの新たな可能性が開け始めた時代でもあったことをつかみたい。授業の方式は春学期の概要を参照。		1. 授業方式の説明と春学期の講義概要説明 2. 年表を見て30年代からヴィシー政権までの推移を概観（主に政治経済） 3. 年表を見て30年代からヴィシー政権までの推移を概観（主に社会・文化） 4. 変化する社会と広がる中間階層 5. 大衆文化と前衛芸術 6. 知識人の政治的役割 7. 中間のまとめ 8. 世界恐慌とフランスの経済危機 9. 政治危機と左右からの政治運動激化 10. 1934年2月4日事件と人民戦線の形成 11. 36年春夏の大衆運動とブルム内閣の社会政策 12. スペイン内戦とナチズム・ファシズムへの対応 13. 国内経済政策の失敗と対ナチ宥和政策の破綻 14. 全体のまとめ	
到達目標	フランスあるいはフランス語圏の現代社会を各論し、特定諸問題に関する専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配付する年表やプリントを常に参照して講義内容の復習確認をすること。それが、次回への予習にもつながる。講義を土台に学び考えたことを確実にするために、必ずそうした作業をして欲しい。		
テキスト	なし。		
参考文献	世界歴史大系『フランス史 3』山川出版社、第六章		
評価方法	授業におけるコメントペーパー等の評価（40%）と最終試験（60%）		

09 年度以降	フランス現代社会講読 I	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
フランスのミステリー漫画 (BD)、<i>Les Mystères de la Cinquième République</i> (Philippe Richelle, François Ravard) を通じて、第5共和政初期のフランスの内政問題について考えることを目的とします。 1959年 (ドゴールが大統領に就任した翌年)、パリ7区のバック通り (rue du Bac) で起きた殺人事件の真相を主人公のVerne警視が解明していきます。 文章自体はさほど長くはありませんが、BDを読むのは新聞などの文章を読むよりもはるかに難しいと思います。絵を見ただけではストーリーは理解できません。授業の際には辞書を必ず持ってきてください。辞書に出てこない言葉もたくさんあるため、下調べが必要になります。 事件の発端がわからなくなるので初回の授業には必ず出てください。初回からテキストを読み始めます。		1. Fin des années 60 2. Paris, automne 1959, 21 h 30 3. Brasserie “Le Pré Verre” 4. M. Serge Montoire 5. Rue de Babylone 6. Avenue de l’Opéra 7. Tablat, 1957 8. Hôtel du Nord 9. Chez Marie-Laure 10. Félicien Rolland 11. À Rouen 12. À Saint-Ouen 13. Rue Soufflot 14. まとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習をしたうえで授業に臨むこと。授業内で出される課題を提出すること。		
テキスト	Philippe Richelle, François Ravard, <i>Les Mystères de la Cinquième République 1</i> , Glénat, 2013.		
参考文献	参考文献は授業中に紹介します。		
評価方法	発表 (30%)、提出課題 (20%)、テスト (50%)		

09 年度以降	フランス現代社会講読Ⅱ	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
マクロン大統領やフランス政府などの公式ツイッターやインスタグラムから、毎回いくつかのツイートをピックアップし、フランスの政治、経済、社会のホットな話題について学んでいきましょう。さらに、ツイートの内容を補足する形で新聞記事なども適宜取り上げていきます。 この授業では、ツイッターやインスタグラムなどの短い文章を糸口にして新聞の長い文章に慣れるという作業を繰り返すことにより、社会科学系の文章の要旨を把握する力を鍛えていくことを目的とします。 授業の際には辞書を必ず持ってきてください。初回の授業からツイートを読み始めます。		1. 8月1日～14日のツイートより 2. 8月15日～28日のツイートより 3. 8月29日～9月11日のツイートより 4. 9月12日～25日のツイートより 5. 9月26日～10月10日のツイートより 6. 9月の新聞記事を読む 7. 10月11日～24日のツイートより 8. 10月25日～11月7日のツイートより 9. 11月8日～21日のツイートより 10. 11月22日～12月5日のツイートより 11. 10月の新聞記事を読む 12. 11月の新聞記事を読む 13. 12月6日～1月8日のツイートより 14. まとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	前週のツイートをチェックしたうえで授業に臨むこと。授業内で出される課題を提出すること。		
テキスト	必要に応じて新聞記事などを授業内で配布します。		
参考文献	参考文献は授業中に紹介します。		
評価方法	発表（30％）、提出課題（20％）、テスト（50％）		

09 年度以降	フランス現代社会講読 I	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス史の有名なエピソードやフレーズを集めて解説した下記の本から、百年戦争に関する 3 つの章を選んで読みます。また併せて他の補足資料を読む予定です。フランス語の読解力を向上させるとともに、フランス史の理解を深めることを目的とする授業です。		1. 授業ガイダンス 2. Pourquoi le trône de France a-t-il été interdit aux femmes ? 3. Trois brus : une malédiction pour le roi ! 4. La tour de Nesle : de pierre, d'encre et de fiction 5. まとめ 6. Père, gardez-vous à droite ! Père, gardez-vous à gauche ! 7. Le roi Jean II le bon fut-il un mauvais roi ? 8. Qui a peur du maire de Paris ? 9. まとめ 10. D'où viens-tu du Guesclin ? 11. Alain Corbin « Duguesclin » 12. Bernard Guenée « Du Guesclin et Froissart » 13. まとめ 14. 全体のまとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に各自でテキストを精読して授業に臨むようにしてください。また授業で配布する参考資料を授業後に整理するようにしてください。		
テキスト	Antoine Auger et Dimitri Casali, <i>Petites histoires de l'histoire de France</i> , Flammarion, 2007.		
参考文献	授業で指示する。		
評価方法	平常点（10％）とテスト（1 回）の成績（90％）を総合して評価します。		

09 年度以降	フランス現代社会講読Ⅱ	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス史の有名なエピソードやフレーズを集めて解説した下記の本から、フランス革命に関する3つの章を選んで読みます。また併せて他の補足資料を読む予定です。フランス語の読解力を向上させるとともに、フランス史の理解を深めることを目的とする授業です。		1. 授業ガイダンス 2. Le docteur Guillotin a-t-il inventé la guillotine ? 3. Michel Vovelle « La première République » 4. L'exécution de Louis XVI 5. まとめ 6. Un révolutionnaire poignardé dans sa baignoire ! 7. Marat, martyr de la Révolution 8. Charlotte Corday, icône contestée de la Révolution 9. まとめ 10. L'incroyable veillée d'Austerlitz 11. Napoléon, vainqueur de l'Europe 12. Napoléon conquiert l'Europe et la perd 13. まとめ 14. 全体のまとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に各自でテキストを精読して授業に臨むようにしてください。また授業で配布する参考資料を授業後に整理するようにしてください。		
テキスト	Antoine Auger et Dimitri Casali, <i>Petites histoires de l'histoire de France</i> , Flammarion, 2007.		
参考文献	授業で指示する。		
評価方法	平常点（10％）とテスト（1回）の成績（90％）を総合して評価します。		

09 年度以降	フランス現代社会講読 I	担当者	尾玉 剛士
講義目的、講義概要		授業計画	
フランスのラジオニュースを聞き、そのスクリプトを読み日本語訳します。講義目的はフランス語のニュース放送・ニュース記事を活用できるようになることです。 今学期はRFI (Radio France Internationale) がほぼ毎日更新している「Journal en français facile」の抜粋を用います。必ずしも日本では大きく報道されないものも含めて、10分間でフランスと世界のニュースがまとめられているため、使いこなせるようになると非常に便利です。 テキストの読み上げと翻訳を求めるため、予習は必須です。 多読・速読ではなく、テキストを文法的に正確に理解しながら読み進めていくというスタイルをとります。適宜、難解用語の解説を行います。		1. ガイダンスと担当の割り当て 2. フランスの政治 3. フランスの経済 4. フランスの教育 5. フランスにおける家族 6. フランスにおける消費生活 7. 中間まとめ 8. ヨーロッパの政治 9. アフリカの政治 10. 中近東の政治 11. 東アジアの政治 12. 日本の政治 13. 日本の経済 14. まとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、テキストの指定範囲を予習して、発音練習と翻訳を済ませておくことが求められます。復習時には、どのような問題がテストに出るのか想像しながら取り組むと効果的です。		
テキスト	RFI の「Journal en français facile」。配布＆大学ポータルサイトに掲載。		
参考文献	授業中に紹介。		
評価方法	平常点（授業への参加度）30%、中間テスト 30%、期末テスト 40%。テストの無断欠席は 0 点扱い。やむを得ない事情により欠席する場合、必ず事前に連絡すること。		

09 年度以降	フランス現代社会講読Ⅱ	担当者	尾玉 剛士
講義目的、講義概要		授業計画	
フランスのラジオニュースを聞き、そのスクリプトを読み日本語訳します。講義目的はフランス語のニュース放送・ニュース記事を活用できるようになることです。 今学期もRFI (Radio France Internationale)の« Journal en français facile »の抜粋から始めますが、受講者の様子を見ながら他のニュースサイトを用いていきます。 テキストの読み上げと翻訳を求めるため、予習は必須です。 多読・速読ではなく、テキストを文法的に正確に理解しながら読み進めていくというスタイルをとります。適宜、難解用語の解説を行います。		1. ガイダンスと担当の割り当て 2. フランスにおける移民・難民 3. フランスにおける雇用問題 4. フランスにおける貧困問題 5. フランスの交通事情 6. フランスの文化政策 7. 中間まとめ 8. フランスのヨーロッパ外交 9. フランスのアフリカ外交 10. 北米の政治 11. 北米の外交 12. 北米の経済 13. 南米の政治 14. まとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、テキストの指定範囲を予習して、発音練習と翻訳を済ませておくことが求められます。復習時には、どのような問題がテストに出るのか想像しながら取り組むと効果的です。		
テキスト	RFI の« Journal en français facile »。配布＆大学ポータルサイトに掲載。		
参考文献	授業中に紹介。		
評価方法	平常点（授業への参加度）30%、中間テスト 30%、期末テスト 40%。テストの無断欠席は 0 点扱い。やむを得ない事情により欠席する場合、必ず事前に連絡すること。		

09 年度以降	フランス現代社会講読 I	担当者	福井 憲彦
講義目的、講義概要		授業計画	
目的：現在フランスは、年間9000万人にも及ぶ来訪者を外国からひきつけている世界一の観光大国である。学生の皆さんの中には、将来広い範囲での旅行業や観光業に携わる人も出てくるに違いないと思うが、こうしたフランスの観光業が、どのように形成されたのか、知っておくことも無駄ではない。フランス観光百年史をフランス語で読んでみよう。著者グージョンは、長年リヨン観光局に在籍したその道のプロで、その話は具体的で分かりやすい。3年生には挑戦的かもしれないが、日常的なフランス語文献を読み取る力をつけるには、もってこいである。 概要：授業計画にあるように、百数十年前からの観光業発展の足取りを、まずはその出発点である19世紀末から読み始めてみる。輪読形式で日本語に訳出して、正確な読みの訓練をしよう。皆さんの実力を見ながら速度はフレキシブルに変更します。		1. テキスト配付と授業方式の説明。フランス観光業について現状説明するので、履修者は1回目から出席のこと。 2. テキストの説明と輪読開始（エッフェル塔の出現） 3. 輪読の継続（グルノーブルで始まった観光協会） 4. 輪読の継続（スイスに見習ってドーフィネ地方を売り出す） 5. 輪読の継続（ヴォージュでも始まっていた観光振興） 6. 輪読の継続（自転車ブームと都市間レースの流行） 7. 輪読の継続（自転車のTouring Club de France の組織化） 8. 前半の振り返り 9. 輪読の継続（フランス山岳協会C.A.F.の組織化） 10. 輪読の継続（スキーの導入と普及） 11. 輪読の継続（ゴムタイヤの改善と「ミシュラン坊主」の宣伝） 12. 輪読の継続（ミシュランガイド本と自動車時代の始まり） 13. 輪読の継続（泉水浴・海水浴と鉄道：健康ブームと観光） 14. 全体の振り返りとまとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	内容が難しいフランス語文章ではないので、辞書を引きながら構文を捉え、あらかじめ日本語の文章をノートに書いておく予習は義務です。復習と合わせ、自分自身で読み取る力をつけるための鍛練です。		
テキスト	Paul Goujon, <i>Cent ans de tourisme en France</i> , 1989 から部分的にコピーを用意します。		
参考文献	必要に応じて指示します。		
評価方法	授業における音読・訳し方（理解の仕方）等の評価 50%、最終試験の評価 50%		

09 年度以降	フランス現代社会講読Ⅱ	担当者	福井 憲彦
講義目的、講義概要		授業計画	
目的：春学期と同様なので、上を参照のこと。この秋学期には、フランスでコート・ダズールが脚光を浴びるようになり、大戦後には自動車の時代が到来し、エール・フランスという航空会社が形成され、さらに36年にはヴァカンスが制度化され、野外キャンピングやユースホステルが盛んになる時代が始まるまで、基本的な展開を読んでみます。 概要：春学期の講読をとっていなくても、履修に困難はありません。全般的な時代背景と春学期に読んだ内容についてなどは、最初に私から講義形式で説明します。読む速度などは、調整して変わる可能性があります。		1. テキスト配付と授業方式の説明。春学期の内容と秋テキストの時代背景解説。履修者は1回目から出席のこと。 2. テキストの説明と輪読開始（英国上流階級とニース） 3. 輪読の継続（海岸の魅力と鉄道旅行の流行） 4. 輪読の継続（オリエント・エクスプレスが走り出す） 5. 輪読の継続（政府観光局の設立） 6. 輪読の継続（ミシュランによる道路地図作成と標識の設置） 7. 輪読の継続（戦間期におけるエールフランスの設立） 8. 前半の振り返り 9. 輪読の継続（1930年代の全般的危機への対応） 10. 輪読の継続（レオン・ブルム内閣による余暇活動の重視） 11. 輪読の継続（ヴァカンスの制度化とスポーツ振興） 12. 輪読の継続（大衆ツーリズムの成立） 13. 輪読の継続（徒歩旅行やキャンプなど野外活動の活性化） 14. 全体の振り返りとまとめ	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	春学期同様、単語について辞書を引き、構文を捉えてあらかじめ日本語の文章をノートに書いておく予習は義務です。復習と合わせ、自分自身で読み取る力をつけるため、しっかりやれば力はつきます。		
テキスト	春学期と同じ <i>Cent ans de tourisme en France</i> から部分的にコピーを用意します。		
参考文献	必要に応じて指示します。		
評価方法	授業における音読・訳し方（理解の仕方）等の評価 50%、最終試験の評価 50%		

09 年度以降	フランス語現代社会講読 I	担当者	P h . ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
But du cours : Pouvoir lire et comprendre des textes d'actualité de nature politique, sociologique ou économique. Contenu : lecture d'articles de journaux, écrits ou publiés sur le web, ayant rapport à la francophonie, à la France d'outre-mer, surtout aux sociétés de l'océan Pacifique sud. Trois articles I , II et III. Méthode : Je donne, une semaine à l'avance, le texte et une série de questions à préparer. Pendant le cours : lecture, réponse aux questions, travail sur quelques points de grammaire, informations sur le point abordé dans le texte. Deux petits tests de vocabulaire en cours de route. Pas de traduction.		1. Présentation. 2. Lecture de la moitié de l'article I , contexte. 3. réponses aux questions sur cette 1^{ère} moitié. 4. Lecture de la 2^e moitié de l'article I , contexte. 5. Réponses aux questions sur cette 2^e moitié. 6. Lecture de la 1^{ère} moitié de l'article II , contexte. 7. Réponses aux questions cette partie de l'article II . 8. Lecture de la 2^e moitié, de l'article II , contexte. 9. Réponses aux questions sur cette 2^e moitié. 10. lecture de la 1^{ère} moitié de l'article III, ntexte. 11. Réponses aux questions sur la 1^{ère} partie de l'article III. 12. Lecture de la 2^e moitié de l'article III, contexte. 13. Réponses aux questions sur cette partie finale. 14. Conclusions générales.	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Recherche du vocabulaire, répondre aux questions, recherche sur internet ou autres moyens sur le thème évoqué par l'article en cours de lecture.		
テキスト	Photocopies.		
参考文献	Il est recommandé d'avoir un dictionnaire français-français, par exemple le <i>Larousse de poche</i> 2019.		
評価方法	Tests de vocabulaire (20%), examen semestriel de compréhension des textes (70%) et lecture à haute voix (10%).		

09 年度以降	フランス語現代社会講読Ⅱ	担当者	P h . ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
Voir les explications données ci-dessus pour le premier semestre. Les trois articles (A, B, C) seront choisis en fonction des résultats obtenus au 1 ^{er} semestre.		1. Présentation. 2. Lecture de la moitié de l' article A, contexte. 3. réponses aux questions sur cette 1^{ère} moitié de A. 4. Lecture de la 2^e moitié de l'article A, contexte. 5. Réponses aux questions sur cette 2^e partie. 6. Lecture de la 1^{ère} moitié de l'article B, contexte. 7. Réponses aux questions sur cette partie de l'article B. 8. Lecture de la 2^e moitié de l'article B, contexte. 9. Réponses aux questions sur ce qui a été lu. 10. lecture de la 1^{ère} moitié de l' article C, contexte. 11. Réponses aux questions sur cette partie de C. 12. Lecture de la 2^e moitié de l'article C, contexte. 13. Réponses aux questions sur la partie finale de C. 14. Conclusions générales.	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Recherche du vocabulaire, répondre aux questions, recherche sur internet ou autres moyens sur le thème évoqué par l'article en cours de lecture.		
テキスト	Photocopies.		
参考文献	Il est recommandé d'avoir un dictionnaire français-français, par exemple le <i>Larousse de poche</i> 2019.		
評価方法	Tests de vocabulaire (20%), examen semestriel de compréhension des textes (70%) et lecture à haute voix (10%).		

09 年度以降	フランス現代社会購読 I	担当者	根木 昭英
講義目的、講義概要		授業計画	
20世紀の批評家ロラン・バルトの <i>La Tour Eiffel</i> (『エッフェル塔』) (1964) を読みます。バルトは1950年代から60年代にかけ、ソシール言語学の影響のもと、日常的諸事象 (衣服・映画・雑誌記事等々) の背後に隠された記号体系を批判的に取り出す神話学的実践に取り組みました。本論は、こうした関心の一環をなすものです。 1889年の万博いらいパリに聳えるエッフェル塔は、まぎれもなく、この華の都の象徴です。しかし正確にいつて、この建造物が果たしている象徴的機能とはどのようなものなのでしょうか。バルトは本論において、形態、素材、技術、あるいはパリの歴史といったあらゆる角度から、エッフェル塔というこの特権的「記号」を解説していきます。 講義ではおもに、エッフェル塔が歴史的オブジェとしてもつ機能を考察した箇所を読みます。初回の授業で必要事項の説明を行うので、かならず出席してください。		1. 導入 2. 鉄の使用とその神話：「1000フィート」の塔 3. 鉄の使用とその神話：石から鉄へ 4. 鉄の使用とその神話：想像力の変容 5. 鉄の使用とその神話：進歩主義的歴史観 6. 輸送機関の理念：エッフェルと橋 7. 輸送機関の理念：重さの克服 8. 中間テスト・解説 9. 輸送機関の理念：デモクラシー 10. 機能美の観念：「造形」の問題 11. 機能美の観念：「無益な」事物 12. 機能美の観念：芸術と技術 13. 機能美の観念：風への抵抗 14. 期末テスト・解説	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業で購読する箇所について、毎回事前に予習しておいてください。要点の復習も行ってください。		
テキスト	開講時に指示します。		
参考文献	ロラン・バルト、『エッフェル塔』、宗左近・諸田和治訳、ちくま学芸文庫、2012 年		
評価方法	中間・期末テスト (フランス語＋購読内容)：60%、訳読などを通じた授業への貢献度：40%		

09 年度以降	フランス現代社会購読Ⅱ	担当者	根木 昭英
講義目的、講義概要		授業計画	
20 世紀の思想家、ミシェル・フーコーの講演録 <i>La Peinture de Manet</i> (『マネの絵画』) (2004) を読みます。 19 世紀の画家エドゥアール・マネは、第二帝政下の近代都市パリにおける「現代生活」を中心とした主題選択、そしてなによりも、画面構成における平面性や造形要素の自律性への志向、明るい色彩対比とはっきりとした筆触といった造形表現上の特質によって、ルネサンスいらいの西洋絵画に革新をもたらしました。フーコーのマネ論は、こうした一般的な絵画史理解を基本的には踏襲しつつも、とりわけキャンヴァス自体の空間的特性や照明、鑑賞者の位置といった観点から、画家の作品を分析してゆくものです。 講義では、フーコーがマネの革新性について考察している箇所と、マネの代表的作品を分析している箇所を取り上げます。初回の授業で必要事項の説明を行うので、かならず出席してください。		1. 導入 2. マネの革新性：印象派との関係 3. マネの革新性：20 世紀絵画との関係 4. マネの革新性：キャンヴァスの物質的特性 5. 《オランピア》：スキャンダル 6. 《オランピア》：《ウルビノのヴィーナス》から見る 7. 《オランピア》：裸体・照明・鑑賞者 8. 中間テスト・解説 9. 《バルコニー》：垂直線と水平線、奥行き 10. 《バルコニー》：照明 11. 《フォリー・ベルジェールのバー》：鏡 12. 《フォリー・ベルジェールのバー》：照明 13. 《フォリー・ベルジェールのバー》：三つの不可能性 14. 期末テスト・解説	
到達目標	専門的なフランス語テキストの講読を通じて、フランスあるいはフランス語圏の現代社会に関する専門知識を習得し、テキストを研究分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の授業で購読する箇所について、毎回事前に予習しておいてください。要点の復習も行ってください。		
テキスト	開講時に指示します。		
参考文献	ミシェル・フーコー、『マネの絵画』、阿部崇訳、筑摩書房、2006 年		
評価方法	中間・期末テスト（フランス語＋購読内容）：60%、訳読などを通じた授業への貢献度：40%		

交 流 文 化 論

13 年度以降	交流文化論（航空産業論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 我が国は人口減少、一方世界の人口は増え続けている。グローバル化の進展、さらに世界の人口増加で他の輸送手段の追従を許さない航空の重要性はますます高まっている。同時に近年注目を集めているLCC（低コスト航空会社）の拡大、多様化など、航空産業は大きな変革の過程にある。本講義では、航空の歴史、現状、未来についての基礎的な知識の習得を目的としている。 講義概要： 本講義では、航空輸送の各テーマに加え、航空輸送と航空機製造の連携の構造についての解説も行う。また、様々なビジネス理論の解説も行う。時間に余裕があれば航空産業におけるキャリアデザイン、就職活動の現状についても解説を行う。タイミングが合えば、航空関係者を招聘し特別講演を実施する。		1. オリエンテーション 2. 最近の航空産業の動きなど 3. 航空産業とキャリアデザイン 4. 航空とは何か 5. 航空の歴史 6. LCC（低コスト航空会社）が世界を変える 7. 航空事業の特性と運賃 8. 米国チャプター11（連邦破産法第 11 章） 9. JAL の破綻と復活 10. 規制緩和とオープンスカイ政策 11. 航空機製造ビジネス 12. 三菱リージョナルジェット（MRJ）飛翔 13. 空港 14. 国際航空法	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの丁寧な予習と復習の実施。		
テキスト	教科書：『最新・航空事業論（第2版）』（2016年12月、日本評論社）		
参考文献	『急変する世界下のエンプロイアビリティ-豊富な事例から導くキャリア形成のヒント』（丸善プラネット）		
評価方法	受講姿勢、ディスカッションでの発言など講義参画 30%、最終試験 70%。		

13 年度以降	交流文化論（ツーリズム特殊講義 （紛争事例から学ぶ旅行契約法入門））	担当者	花本 広志
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、旅行契約に関わる具体的な紛争事例の解決策を検討することを通じて、旅行契約に関わる法（主に民法）のあり様と基本的な考え方を学びます。全部で3つの紛争事例を課題として取り上げる予定ですが、各事例の解決に向けて、グループで活動しながら、課題の解決に必要な知識や技能、態度を協調的・自立的に学習していきます。最後に総仕上げとして、口頭発表会を開催して、各自（履修者数によってはグループごと）の学習成果を発表したうえ、それをレポートにまとめて提出します。 この授業を通じて、旅行契約において生じる法的問題のうち、少なくとも1つについて、法律学を学習したことのない人に対して、分かりやすく、自分の言葉で、簡潔に（口頭5分、文書2000字程度）、ただし法的思考の作法に従って解答することができるようになることを目指します（これがこの授業の獲得目標の一つになります）。 具体的な授業の進め方や成績評価の方法などについては、第1回のオリエンテーションで詳しく説明します。受講者のみなさんの主体的な参加が必須となる授業ですので、受講希望者は、可能な限り第1回目のオリエンテーションに出席して、どのような授業か理解したうえで履修してください。		1. オリエンテーション 2. PBL ガイダンスと練習 3. IRAC エクササイズ 4. 第1事例（その1）：事例を検討して学習課題を抽出。 5. 第1事例（その2）：学習事項を共有したうえで、事例を再度検討し、追加の学習課題を抽出。 6. 第1事例（その3）：学習事項を共有したうえで、解決策を検討。教員による解説・解題。 7. 第2事例（その1）：第1事例（その1）に同じ。 8. 第2事例（その2）：第1事例（その2）に同じ。 9. 第2事例（その3）：第1事例（その3）に同じ。 10. 第3事例（その1）：第1事例（その1）に同じ。 11. 第3事例（その2）：第1事例（その2）に同じ。 12. 第3事例（その3）：第1事例（その3）に同じ。 13. 口頭発表会 14. 最終レポートのピア評価、授業全体のまとめと振り返り *各事例の内容は、事例を検討する際の手がかりとなるので、授業当日までのお楽しみとします。	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業3回に2回の割合で「予習メモ」、各事例の検討後は、グループでの検討結果をまとめたメモ（グループメモ）の提出を求めます。全事例の検討後は、受講者各自が授業全体を通じて学習した成果を口頭で発表のうえ、レポートにまとめて提出します。		
テキスト	学習に必要な文献や資料は、原則として受講者自身が協力し合って調査・収集するものとします。		
参考文献	必要に応じて適宜、授業中に紹介します		
評価方法	①正当な事由のない欠席2回以内、②正当な事由のあるものを含め欠席4回以内、③宿題提出率70%以上、④口頭発表を行い、最終レポートを提出していること、⑤最終レポートのピア評価70点以上、⑥ラーニング・ポートフォリオ（受講者自身による学習成果のまとめ）の自己採点70点以上、のすべてを満たしていることを単位認定（C以上）の必要条件とします。その他、AA～Cの基準を含む成績評価方法について詳細は、第1回のオリエンテーションで説明します。		

13 年度以降	交流文化論（ツーリズム・マネジメント論）	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
現代ツーリズムの発展は、旅行にかかわる諸サービスを大量生産・消費可能な商品として提供するツーリズム／観光関連産業の発展抜きに語ることが出来ない。 本科目では、これまでツーリズム研究で蓄積されてきた理論的枠組みをいくつか紹介しながら、ツーリズムの現場における人間や空間、イメージの管理の在り方を理解する視点を身につけることを目標とする。それゆえ、本講義で扱うマネジメントの範囲は、ツーリズム産業の企業活動における問題解決や現実的課題には限定されない点に留意されたい。 講義では、まずツーリズム商品の基本的な特徴に留意しつつ、関連産業のしくみについて概説する。次に、ツーリズム商品のマネジメントにかかわる具体的な事例を取り上げ、現在のツーリズム産業が抱える課題について検討する。ゲストスピーカーによる授業となることもある。		1. ガイダンス 2. ツーリズム商品の特徵①：マーケティングからの視点 3. ツーリズム商品の特徵②：イメージとパフォーマンス 4. パッケージツアー①：マクドナルド化された旅行？ 5. パッケージツアー②：イメージをパッケージ化する 6. パッケージツアー③：身体化される団体旅行 7. パッケージツアー④：商品企画における「知識の管理」 8. 空間の管理とテーマ化 9. テーマ化された空間とハイブリッド消費 10. 感情労働 11. 舞台としての観光地 12. 生活とツーリズム 13. スピリチュアリティの商品化は可能か 14. 「ツーリズムの終焉」とツーリズム産業	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。		
テキスト	指定しない。		
参考文献	授業内で適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加／講義内小課題 30% 期末試験 70%		

13 年度以降	交流文化論（表象文化論）	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
日本の敗戦から70年以上が経ち、戦争について語られる機会も少なくなりました。この授業では、慰霊祭、メディアや学校、ミュージアムなどで、戦争がどのように表象されているかを調べ、記憶の継承や表象の可能性について、皆さんと議論していきます。 1945年、秋田県の花岡鉾山（現・大館市）で、中国から強制連行されていた人たちが蜂起し、鎮圧されて400人以上が犠牲になりました。蜂起のあった6月30日（今年は日曜日）に、現地慰霊祭にあわせ課外授業をおこないます。片道料金で夜行バス10000円、新幹線17000円ですが、往復割引やより安い便などもあるので、各自で調べてください。 やむを得ない事情で、大館・花岡での課外授業に参加できない受講生は、春の連休を利用して、『忘却された支配』で取り上げられている地方か、あるいは最低でも、靖国神社、女たちの戦争と平和資料館（wam）など都内周辺で各自フィールドワークをおこなうことが、単位取得の条件になります。		1. イン트로ダクション（3.1 事件 100 周年、平田オリザ『ソウル市民 1919』を観て考える） 2. 中国人強制連行の政策と思想 3. 花岡事件とは 4. 花岡事件と和解、記憶の継承 5. 強制を思い出す（宇部、北海道） 6. 骨と碑の戦後史（筑豊） 7. 追悼と謝罪の間（紀州） 8. 朝鮮人の特攻（万世・知覧） 9. 朝鮮ジェノサイド（四国） 10. 総督府官僚たち 11. 松代大本営（長野） 12. 沖縄（沖縄戦） 13. 沖縄（慰霊のかたち） 14. まとめのディスカッション	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストを必ず精読して予習し、背景となる歴史や社会状況についても調べ、問題点や質問事項を整理して授業に臨むこと。授業後は自分の意見をクラスのフェイスブック・グループに投稿し、ポートフォリオ作成の準備をする。		
テキスト	杉原達『中国人強制連行』（岩波新書、2002）、伊藤智永『忘却された支配：日本のなかの植民地朝鮮』（岩波、2016）		
参考文献	NHK 取材班、『NHK スペシャル 幻の外務省報告書—中国人強制連行の記録』（NHK 出版、1994）ほか。		
評価方法	毎週の予習復習、課外授業の成果を含めたポートフォリオを最終授業で提出（40%）、毎週のクラス・フェイスブックへの投稿（30%）、最終レポート（30%）。授業では毎週、積極的な発言が求められます。		

13 年度以降	交流文化論（開発文化論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
開発とは何か。何のために、誰に対して開発支援をするのか。この問いについて、現代の地球社会を考える重要な視座であるグローバルとローカルなものとの対抗・交渉から考えます。講義される事例は、担当教員の調査研究の成果であるメキシコ南部の先住民族に関するものが中心となりますが、アジア、アフリカなどその他の国・地域の事例も交え、普遍的な視点から、発展途上地域の開発問題について考察します。開発と貧困、ジェンダー、教育、宗教、先住民族の権利、構造的暴力と民衆、NGOや協力する者の立場といった話題を、現場の事例をみながら考えます。とりわけ、構造的暴力に翻弄される存在（農民、先住民、マイノリティ）の対抗的開発として活発化する、ローカルな文化や環境を重視した現代の内発的發展を展望していきます。		1. 開発とは何か、貧困とは何か 教科書 1 章 2. 近代化と文化変容（ビデオ『懐かしい未来』） 3. 貧者と共に生きる：フェアトレード誕生秘話 3 章 4. 教育・学び・文化 4 章、5 章 5. ジェンダーとフェミニズム 6 章 2（ビデオ『女の町ツチタン』） 6. 宗教と社会開発 NGO 7 章 2 7. ローカルメディアとアイデンティティ戦略 7 章 3 8. 開発ワーカーと異文化適応※教室内ワークショップ 9. 開発は自分たちの手で（ビデオ『グラミン銀行』予定） 10. 新自由主義・構造調整と農民の自己防衛 8 章 2 11. 巨大開発計画と地域住民・NGO 8 章 3 12. 日本の開発経験：生活改善運動と一村一品運動から 13. 貧者と人間の尊厳（ビデオ『S.サルガド（「アフリカ」等で知られる写真家）』） 14. まとめ、試験対策	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの熟読、授業ノートを踏まえたテキストの再読。		
テキスト	北野収『南部メキシコの内発的發展と NGO』勁草書房。※学内書店で各自購入してください。		
参考文献	北野収『国際協力の誕生 [改訂版]』創成社新書。		
評価方法	期末試験（60％）、学期中課題（ネパール村落開発、30％）、教室内ワークショップ貢献（10％）。		

13 年度以降	交流文化論（食の文化論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
食と農を題材にしたグローバリゼーション研究の授業です。食べ物とは私達にもっとも身近で不可欠なものです。人間、家族、コミュニティに密接不可分・地域固有な存在であった「食」が、近代～現代という歴史的過程で、ナショナル化さらにはグローバル化されていく過程を考え、そこで見落とされがちな問題を考えていきます。一方で、現代の世界は、「飢餓と飽食」が同時に進行するという危機的な状況にあります。私たちの住む日本では、食料の大半を海外から輸入しながら、食べ物の多くを廃棄しています。耕す土地はあるのに耕す人がいないため、耕地が放棄されています。農業は危機的な状況にあります。食べ物は人に幸せをもたらす一方で、それをめぐって国と国が対立し、憎しみ合うこともあります。こうした現象の背景として、政治、経済、文化など様々な要素が複雑に絡み合っています。このような現状を踏まえ、「食」を手がかりに、私たちの身の回りを点検し、地球社会のことを考えます。		1. 講義の概要 2. 食の文化を見る眼：文化とは何か 3. 食の地誌論（風土と食） ※ビデオ『人間は何を食べてきたか』 4. 私たちの食生活の変化：自給率問題を手がかりに 5. 遺伝資源は誰のものか（農民から国家、企業へ） 6. マクドナルド化と食生活：合理化と脱人間 7. ナショナリズムと食：伝統の形成と思い込み 8. 食卓と家族団らん：その意義をあらためて考える 9. コーヒーのグローバルヒストリー 10. フェアトレード：食と社会正義、倫理的消費 11. シビック・アグリカルチャー 12. イタリアのスローフード、日本のテイケイ、地産地消 13. ビデオ『未来の食卓』フランス映画（予定） 14. まとめと試験対策 ※ビデオ フランス映画『未来の食卓』	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	資料の通読、自分でとったノートの整理。		
テキスト	特に定めない。		
参考文献	トーマス・ライソン『シビック・アグリカルチャー：食と農を地域にとりもどす』農林統計出版。		
評価方法	期末試験 80%、学期中レポート（シビック・アグリカルチャー） 20%		

13 年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （グローバル化と子ども））	担当者	堀 芳枝
講義目的、講義概要		授業計画	
世界では約1億7000万人の子どもが児童労働に従事している。こうした子どもたちが抱える問題やその背景を理解すると同時に、グローバル化や私たちがどのようににかかわっているのかを理解する。また、問題を解決するために、国際機関やNGOの取り組みについて理解する。 この授業を通じて、世界の子どもの問題について単に「かわいそう」というだけでなく、社会科学的に理解し説明できるようになります。また、「子どもの権利条約」を理解して、現状を分析し、解決方法について考えることができるようになります。また、国際社会の規範の変容における国連の役割、国家・社会の規範や政策の変容プロセスを理解し、説明することができるようになります。		1. ガイダンス（概要と、予習・復習について） 2. アジアの児童労働 3. タイのストリート・チルドレン 4. 赤ちゃんの値段－国際養子縁組問題 5. ヒューマン・トラフィックの実態 6. ヒューマン・トラフィックの対応 7. 国際犯罪としてのヒューマン・トラフィック 8. 日本の子どもの貧困 9. 在日外国人の子どもの問題 10. アフリカの子ども兵士 11. イラク戦争と子どもたち 12. 国連の安全保障と子どもの保護 13. 子どもの権利の実現に向けての国連の役割 14. 今学期のまとめ（質疑応答など）	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された部分を事前に読んでおくこと、授業で示されるポイントに従って復習する。あるいは、授業で出された課題に取り組むこと。		
テキスト	テキスト 初瀬龍平・戸田真紀子・松田哲編『国際関係の中の子どもたち』（晃洋書房、2015 年）		
参考文献	授業で適宜紹介します。		
評価方法	大福帳 15%、期末試験 85%		

13 年度以降	交流文化論（トランスナショナル・メディア論）	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
メディアとは、人と人をつなげ、事実やメッセージを伝えるための透明な「パイプ」ではありません。ときに事実と異なる情報を伝え、あるいは「事実」そのものを作り出し、そして人と人を分断することもあります。ならば、いつ、どうして「メディア」は生まれ、どのような仕組みを持ち、いかなる機能を果たすようになったのでしょうか。そしてトランスナショナル・メディアとは、いかなる存在でしょうか。 この講義では、「国際報道」「国際宣伝」「国境を越えて流通するイメージや情報」を柱とするトランスナショナル・メディアの事例を歴史的に検討し、その特性を理解することを目的とします。たとえば中世の活版印刷術と新約聖書、近代の戦争報道と国際プロパガンダ、現代のインターネット・ジャーナリズムなどを多角的に分析します。 メディア研究の基礎から最新の議論を学ぶことで「メディア」の機能と仕組みを考え、トランスナショナル・メディアを「読み解く」だけでなく「使いこなす」ための批判的思考とリテラシーを習得することを目指します。		1. ガイダンス：「トランスナショナル」と「メディア」とは？ 2. メディアの源流①：メディアとしての「本」 3. メディアの源流②：宗教戦争とナショナルな想像力 4. 近代とメディア①：オラリティとリテラシーの転換 5. 近代とメディア②：「個人」の誕生と「国家」の変容 6. 近代とメディア③：「新聞」以前・以後 7. 近代とメディア④：ニューヨーク・タイムズの時代 8. 近代日本のメディア：なぜ一円札は福澤諭吉なのか？ 9. 20世紀とメディア①：広告、宣伝、プロパガンダ 10. 20世紀とメディア②：ヒッピーとニュー・ジャーナリズム 11. 20世紀とメディア③：“Media War” のリアリティ 12. 国際報道の現在形①：「ライブ」という問題 13. 国際報道の現在形②：ネット時代のメディア変容 14. まとめ：トランスナショナル・メディアとわたしたち	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めてください。		
テキスト	各回講義で適宜提示します。		
参考文献	各回講義で適宜提示します。		
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。		

13 年度以降	交流文化論（ツーリズム人類学）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
ツーリズムがそれを受け入れる社会にもたらす影響は、経済的側面のみならず、社会的・文化的・政治的側面など多岐にわたっています。それゆえツーリズムを学術的に考察する際の方法論も多様です。 本講義では、文化人類学という学問を手がかりに、ツーリズムを「文化」という側面から検討するための基礎的概念・考え方について学ぶことを目的としています。具体的には、1. ツーリズムを生み出す仕掛け、2. ツーリズムがもたらす影響、3. ツーリズムが作り出す文化、という3つの側面から講義を行い、ツーリズムを社会・文化現象として分析する際の基本的な視座の習得を目指します。同時に、ツーリズム研究に関連する現代人類学における主要な問題意識・諸概念についても理解を深めていきます。 受講に際しては、文化人類学の基礎知識は必ずしも必要ありませんが、授業内で紹介する文献資料の読解を各自行なうなど、予習・復習が不可欠となります。		- 趣旨説明 - 映画『海と大陸』 - グローバル化の中の民族文化 - マクドナルドの民族誌 - 観光と異文化理解 - 表象の政治学—情報資本主義と観光 - メディアと観光—「楽園」ハワイの文化史 - 文化装置としてのホテル - 世界遺産の窮状—カンボジアの事例 - ジェンダー論からみる客室乗務員の文化史 - セックス・ツーリズム—タイの事例 - エスニック・ツーリズム—タイの事例 - 先住民文化の商品化と著作権—北欧サーミの事例 「記憶の場」と観光—広島および西アフリカの事例	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	『観光学キーワード』『よくわかる観光社会学』『観光人類学』などで、観光研究についての基本的知識について理解を深めておくこと。		
テキスト	特に定めない。		
参考文献	『観光学キーワード』（有斐閣）、『よくわかる観光社会学』（ミネルヴァ書房）、『観光人類学』（新曜社）		
評価方法	授業毎の小レポート（30%）、期末レポート（70%）。ただし、4 回以上の欠席で単位認定の条件を失う。		

13 年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （東南アジアのナショナリズム、民主主義と平和））	担当者	堀 芳枝
講義目的、講義概要		授業計画	
2000年代に入り中国や東南アジアの成長はめざましい。中国はいまや世界第二位のGDPとなり、東アジアの平和のカギを握る存在となった。また、2015年に成立したASEAN共同体は6億人の巨大市場としても注目されている。また、インドもICT産業を牽引する国家である。みなさんは将来、出張先として、ビジネスパートナーとして中国、東南アジア、インドと向き合うことになる。したがって、この授業では、将来みなさんが向き合うことになるアジアの政治や社会—ナショナリズム、戦後の国民国家建設の歩み、そして紛争や平和の課題を理解し、日本との関係について、東南アジア地域研究の観点から考えることを目的とする。それはみなさんが将来、何らかの形でアジアと良い信頼関係を築き、東アジアの平和や安定を創り出す一端を担ってほしいからである。		1. ガイダンス（予習・復習）東南アジア地域の特徴 2. 近代以前の東南アジア 3. 帝国主義と植民地政策 4. 中国、ベトナム、インドのナショナリズム（民族運動） 5. 日本軍政と東南アジア 6. 冷戦と東南アジアの独立 7. 中国の文化大革命と改革開放 8. ベトナム戦争とアメリカ 9. ベトナム戦争とカンボジアのポルポト（大虐殺） 10. タイの国民国家—国王・軍・政治家・中間層 11. フィリピンの権威主義体制と民主化、NGO 12. インドネシアの権威主義体制とアジア通貨危機 13. マレーシア・シンガポールの国民統合と多文化主義 14. ASEANの地域統統合と今学期のまとめ	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストを事前に熟読すること、復習については授業の最後で述べるポイントに従って、テキストを振り返ること。		
テキスト	中野亜里・遠藤聡ほか『入門 東南アジア現代史（改訂版）』福村出版、2016 年。		
参考文献	授業で紹介します。		
評価方法	大福帳 15%、期末テスト 85%。		

13 年度以降	交流文化論（国際会議・イベント事業論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 2020年の東京での開催をひかえ、オリンピック、パラリンピックが大きな注目を集めている。本講義においては、オリンピック、パラリンピックはじめ、博覧会、国際会議、その他各種イベントの歴史、現状などについて学習する。 講義概要： オリンピック、パラリンピック、博覧会、国際会議などについて歴史的経緯、現状などを学習し、さらに、その具体的な仕組みや役割を理解する。最後は、東京オリンピック・パラリンピックに焦点をあて、“それをどのように成功させるか”、“どのようにして国や地域振興に生かすか” などについて、各自パワーポイントを使用しプレゼンテーションを行う。		1. オリエンテーション 2. イベント・コンベンションの歴史 3. イベント・コンベンションの意義 4. 国際博覧会 5. 2020年東京オリンピック・パラリンピック 6. 障害者スポーツとパラリンピックについて 7. 国際会議・イベントについての「ディスカッション」 8. 古代オリンピック 9. オリンピック商業主義の歴史 10. 商業主義の発展 11. プレゼンテーション：「2020年オリパラの成功」グループA 12. プレゼンテーション：「2020年オリパラの成功」グループB 13. プレゼンテーション：「2020年オリパラの成功」グループC 14. プレゼンテーション：「2020年オリパラの成功」グループD	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	新聞、関連文献などを事前に読むこと。配布した資料の復習。		
テキスト	適宜個別資料を配布する。		
参考文献	特に指定無し。		
評価方法	授業での発言、受講姿勢、講義参画 70%、プレゼンテーションとレポート 30%。		

13 年度以降	交流文化論（ツーリズム政策論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： ツーリズムにおける政策や課題を理解することを目的としている。ツーリズム政策は、国家の主要政策として世界各国で推進されてきたが、グローバル化が進展する今日その重要性がさらに高まっている。このような現状を踏まえながらマーケティングの視点も含め多様な視点からツーリズム政策を分析する。同時に、未来に向けての新たなツーリズム政策の考察を行う。 講義概要： ツーリズムは単にレジャー領域のものではなく、経済、文化などの社会活動に深く関わるものである。このようなツーリズム政策の各テーマについて、単に一方的な解説だけではなく、ディスカッション等を通して受講生自ら新たなツーリズム政策を提案するなどの試みを通して理解を深めていく。		1. オリエンテーション 2. ツーリズムの基本構造—定義など 3. ツーリズムの基本構造—経済の面からの分析 4. マーケティングとは何か？ 5. ツーリズム政策とマーケティング理論 6. ツーリズム政策の変遷 7. ツーリズム政策における我が国の課題 8. （ツーリズム政策に関する）ディスカッション 9. 世界のツーリズム政策（シンガポール） 10. 世界のツーリズム政策（北欧、ドイツ） 11. 世界のツーリズム政策（スイス） 12. 世界のツーリズム政策（フランス） 13. 日本各地のツーリズム政策（地域振興など） 14. ツーリズムとキャリアデザイン	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	新聞などメディアを通して、ツーリズムに関する情報を事前に予習しておくこと。		
テキスト	適宜個別資料を配布する。		
参考文献	『急変する世界下のエンプロイアビリティ・豊富な事例から導くキャリア形成のヒント』（丸善プラネット）		
評価方法	受講姿勢、ディスカッションでの発言など講義参画 30%、最終試験 70%。		

13 年度以降	交流文化論（ツーリズム文化論）	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
人間の地球規模での移動の一形態であるツーリズムは、必然的にそれに付随した「モノ」の移動をとまなう。本講義では、ツーリズムに関連したモノの移動の代表例として観光みやげを取り上げ考察する。おみやげという身近な存在を通じて、グローバルな人とモノの移動と文化をめぐる動態について考える視野を身につけることを目標とする。 講義では、まず日本における観光みやげの成立やその生産や流通、販売にかかわる産業の現状について紹介し、次にみやげものの存在を規定するいくつかの論理について概説する。その上で、ツーリズムを介したみやげというモノの移動が、文化の消費、移転、生産にいかにかかわっているのかについて具体的な事例をあげながら考察する。		1. ガイダンス 2. ツーリズムにおけるモノの文化的消費 3. おみやげとスーベニア 4. 観光みやげの近代 5. 「民芸品」をめぐるまなざし 6. 観光みやげと「ものがたり」 7. 観光みやげのギフト性 8. 観光みやげと真正性 9. 観光みやげの儀礼的倒錯性 10. こけしと木彫り熊 11. マトリョーシカのルーツ 12. マトリョーシカのルート 13. 民芸品としてのアジア雑貨 14. アジアン雑貨が創る旅	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。		
テキスト	指定しない。		
参考文献	授業内で適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加／講義内小課題 30% 期末試験 70%		

13 年度以降	交流文化論（地域開発論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
地域や町が発展するということはどういうことでしょうか。道路やビルを造ること、景観を整備すること、イベントにより集客を図り商店街を活性化させる等々いろいろな捉え方があります。本授業では、「地域づくり＝人々間のコミュニケーションの総和」として捉えます。草の根レベル、ミクロの視点から、地域づくりについて、日本と海外、都市と農村など地域や分野を横断的に取り扱い、そこにある普遍的な理論や問題を考えます。行政と市民の協働、外部者（よそ者）の関わり方、地域リーダー／キーパーソン、住民の参加のあり方について、人々がコミュニケーションする場と空間という観点から考察していきます。取り上げる事例は、生ゴミリサイクルによる地産地消、都市近郊での環境教育、NY のドッグランと防犯、インドネシアでの NGO 活動、ブラジルのスラム開発など多岐にわたります。		1. 地域の発展を理解するための視座（教科書 1 章） 2. 住民参加（participation）の意義と多義性（2 章） 3. 生ごみリサイクルにみる町づくり制度構築：山形県（3 章） 4. 地域づくり・環境教育におけるキーパーソン：兵庫県（4 章） 5. つながりを育む仕組み（ビデオ『坂本龍一・地域通貨の未来』） 6. 共益から公益の創出へ：NY と東京のドッグラン（10 章） 7. スラムとコミュニティ開発：ブラジル（ビデオ） 8. 地域づくりと外部者のまなざし：島根県（7 章） 9. 参加型開発：熊本の事例（教室内ワークショップ） 10. 開発とコミュニケーション：インドネシア NGO 支援（11 章） 11. 百年先を考えたまちづくり（ビデオ『湯布院癒しの里の百年戦争』『ドイツの持続可能な村づくり』） 12. アクセシブル観光・ユニバーサル交流：北海道、山梨、岩手等の事例（8 章） 13. ソーシャルキャピタル・社会関係資本 14. まとめ、試験対策	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの熟読、授業ノートを踏まえたテキストの再読。		
テキスト	北野収編『共生時代の地域づくり論』農林統計出版 ※学内書店で各自購入のこと。		
参考文献	適宜、授業内で提示する。		
評価方法	期末試験（60%）、学期中課題（30%）、教室内ワークショップ貢献（10%）。		

13 年度以降	交流文化論（トランスナショナル社会学）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
グローバル化時代の現代社会を考える手がかりとして、①国民国家・国境の存在を相対化することによって初めて見えてくる人々や文化の <u>越境現象の実際を知る</u> こと、②それを踏まえたより踏み込んだ意味での「共生」概念の <u>可能性を考える</u> こと、③国際的視点のみならず民際的視点も併せ持った複眼的な視点から、文化・社会・政治における <u>諸現象を考えられるようになる</u> こと、の3点を目的とします。グローバル化に伴う社会構造の変動に規定された様々な越境現象の実情と、当事者のアイデンティティ・民族・国家の相関関係について考察します。関連する理論・言説について講義するとともに、ディアスポラとしての外国人花嫁、アイヌと在日の問題、消えた民「サンカ」などの日本国内の事例を中心に上げます。それらを踏まえて、「国際」視点から「民際」視点の転換の意義、地域における交流活動や「学び」の実践の可能性について展望します。		1. 授業の概要 2. 社会学とは 3. 諸概念の概説：トランスナショナリズムとは 4. 国境・国民概念①：アイヌからみた日本とロシア 5. 国境・国民概念②：知られざる漂白民サンカの末路 6. グローバル化と越境現象①：移民とトランスナショナリズム 7. グローバル化と越境現象②：移民と地域における受容 8. グローバル化と越境現象③：若者の『文化移民』と日本回帰 9. 国際結婚①：国際結婚の語源と歴史 10. 国際結婚②：日本人の国際結婚と越境する女性達 11. 中間まとめ ※ビデオ『となりの外国人』（予定） 12. 民際協力としての自治体国際協力 13. まとめと試験対策 14. 試験対策	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	資料の通読、自分でとったノートの整理。		
テキスト	特に定めない。		
参考文献	定義、授業中に提示する。		
評価方法	期末試験 80%、学期中レポート（在日コリアン文献） 20%		

13 年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （グローバル経済とジェンダー））	担当者	堀 芳枝
講義目的、講義概要		授業計画	
経済のグローバル化が進展しているが、女性はどうのよう な役割を果たし、影響を受けているのだろうか。それを知る ためには、現在経済成長が著しいアジアに着目するとよい だろう。アジア開発銀行は『アジア2050ーアジアの世紀 の誕生』（2012）の中で、現在のアジアの成長が続けば、 その名目GDPは世界全体の50%を超えとし、21世紀はま さしくアジアの世紀だと述べた。授業では、このアジア経 済の成長を牽引する中心に女性の労働があると位置づけ、 グローバル経済の実態ー古典的国際分業から今日のグロ ーバル経済を構成している3つの新国際分業を再解釈す る。 日本女性の労働の問題もその観点から考える。女性の労 働の在り方を考えることは、男性の労働や家族との関係に についても考えるきっかけとなると考えている。		1. ガイダンスー授業の内容、進め方、予習復習について 2. 古典的国際分業とグローバル経済 3. 新植民地主義について『バナナの逆襲』から考える 4. 途上国なぜ貧しいのかー従属論 5. 途上国はなぜ貧しいのかー世界システム論 6. でも、中国はなぜ成長したのかー新国際分業（1） 7. 『トゥルーコスト』から考える経済成長とジェンダー 8. 今日のグローバル経済（2）移住労働の女性化 9. フィリピン女性の移動と 家事・育児・介護 10. 香港で働くフィリピン女性とその家族 11. 資本主義の発展と再生産領域についてのまとめ 12. 今日のグローバル経済（3）サービス業の新国際分業 13. グローバル経済の結果としての、「グローバルシティ」 （N.Y、ロンドン、東京）の誕生と格差社会 14. 授業のまとめと質疑応答など	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	授業で示されるポイントに従って復習する。あるいは、授業で出された課題に取り組み、予習復習する。		
テキスト	授業でプリントを配布します。		
参考文献	授業で適宜紹介します。		
評価方法	大福帳 15%、期末テスト 85%。		

13 年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （「観る」ことの文化史）	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
旅するとき、人はなぜ写真を撮るのでしょうか。何を撮り、何を撮らないのでしょうか。そもそも旅行にカメラを持って行くことを否定する人がいます。その人は何を忌避しているのでしょうか。逆にSNSへアップするためにフォトジェニックな場所へ旅する人や、旅先で「自撮り」する人が増えています——いったい「撮る」という行為は、いかなる意味を持つのでしょうか？ 「じっさい、観光はたいていが、写真になりそうところを探し求める行為となった」という考え方もあります（アーリ&ラーソン、2011＝2014）。こうした観光写真あるいは写真観光の研究は世界的に注目を集めてきた一方、日本では極めて希少なのが現状です。 そのためこの講義では、(1) 海外の研究成果を日本の社会文脈に導入し、(2) 写真とツーリズムが出会い、相互に交渉してきた歴史を紐解き、(3) また「自撮り（Selfie）」や「絶景」や「SNS フォト」など最近のトランスナショナルな社会現象を考えること、を試みます。そうして「観る」という行為（パフォーマンス）の社会的意味を探り、近代社会におけるイメージとイマジネーションの諸問題を考えることを目的とします。		1. ガイダンス：「観る」とことと「まなざし」 2. 写真の歴史①：遠近法と写真術 3. 写真の歴史②：コダック化、作品化、ドキュメント化 4. 写真の歴史③：写真が「写真」になるとき 5. 海外の「まなざし」①：帝国主義と写真術 6. 海外の「まなざし」②：外国人が写した「日本」 7. 海外の「まなざし」③：天皇のイメージとイマジネーション 8. 「撮る」の政治学①：「動く画」の衝撃（映画の誕生） 9. 「撮る」の政治学②：映画が「映画」になるとき 10. 「撮る」の政治学③：ディズニー映画とdomestication 11. 「撮る」の政治学④：「まなざし」の政治と主体 12. 写真とツーリズム①：「撮る」ために移動する人々 13. 写真とツーリズム②：「自撮り」とセルフ・ポートレート 14. 写真とツーリズム③：SNS時代の「観る」体験	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めてください。		
テキスト	各回講義で適宜提示します。		
参考文献	各回講義で適宜提示します。		
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。		

13 年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （シティズンシップ教育論））	担当者	花本 広志
講義目的、講義概要		授業計画	
シティズンシップ教育とは、citizenship（市民性）、すなわち、市民社会の一員としての知識、技能、態度や価値観を育む教育のことです。「主権者教育」と呼ばれることもあります。もっとも、そもそも「市民性」とは何かについては議論のあるところですし、主権者教育と同じなのかについても議論があります。さらには、法教育との関係も問題となります。それらの点も含めて、この授業では、シティズンシップ教育とは何か、どうあるべきか、その教育方法などについて、協同学習の手法の1つである「LTD話し合い学習法」により学習していきます。そのうえで、最終的には、受講者が協同して、中学3年生～高校1年生程度向けのシティズンシップ教育用教材（2時限分）を作成することを目指します。 第1回のオリエンテーションでは、授業の目的と概要、成績評価の方法などについて詳しく説明します。受講者のみなさんの主体的な参加が必須となる授業ですので、受講希望者は、可能な限り第1回目のオリエンテーションに出席して、どのような授業か理解したうえで履修してください。		1. オリエンテーション 2. グループ分け、LTD を支える教育理論と技法 3. 予習及びミーティングの解説と練習 4. LTD ウォーミングアップ（練習用教材使用） 5. LTD（短縮型）：シティズンシップ教育論① 6. LTD（1）：シティズンシップ教育論② 7. LTD（2）：シティズンシップ教育の課題 8. LTD（3）：シティズンシップの授業 9. LTD（1）～（3）の振り返り 10. シティズンシップ教育用教材作成（その1）：授業計画の検討 11. シティズンシップ教育用教材作成（その2）：教材の検討 12. シティズンシップ教育用教材作成（その3）：模擬授業のリハーサルと最終調整 13. 教材発表会（受講者作成教材による模擬授業） 14. 授業全体のまとめと振り返り	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修では、LTD の方法に従って、教材となる文献につき予習ノートを作成します。事後学修では、授業での LTD ミーティングの結果を受けてノートを整理します。また、教材作成では、素材の選定や原案の作成、発表会の準備などを授業外で行うことがあります。		
テキスト	教材は、必要に応じてその都度配布します。		
参考文献	LTD 話し合い学習法について予め知りたい人は、安永悟・須藤文『LTD 話し合い学習法』（ナカニシヤ出版、2014 年）を参照してください。		
評価方法	①正当な事由のない欠席 2 回以内、②正当な事由のあるものを含め欠席 4 回以内、③宿題提出率 70%以上、④教材作成及び模擬授業の実施に平均以上の貢献をしていること、⑤ラーニング・ポートフォリオ（受講者自身による学習成果のまとめ）の自己採点 70 点以上、のすべてを満たしていることを単位認定（C 以上）の必要条件とします。その他、AA～C の基準を含む成績評価方法について詳細は、第 1 回のオリエンテーションで説明します。		

13 年度以降	交流文化論（旅行・宿泊産業論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： ツーリズムに大きく関わる旅行業、宿泊業（ホテル、旅館など）、航空事業、クルーズ事業のビジネスの現状と課題について学習する。 講義概要： 旅行産業の発展経緯、ビジネスの概要、さらにオンライン旅行市場について学習する。宿泊産業においては、ホテル、旅館のビジネスの概要及び課題、さらに将来について学習する。航空事業、及び大きく成長しているクルーズ事業においては、最近の動向を中心に学習する。最後の「プレゼンテーション」では、各産業への提案を各自パワーポイント使用によって行う。		1. オリエンテーション 2. 旅行産業-歴史と現状 3. オンライン旅行市場 4. 旅行産業-将来 5. ホテル、旅館等宿泊産業-歴史 6. ホテル、旅館等宿泊産業-現状、将来 7. ツーリズム産業におけるキャリアデザイン 8. ディスカッション（テーマ：各産業の課題等） 9. 航空事業の最近の動向 10. クルーズ事業の最近の動向 11. プレゼンテーション グループ A 12. プレゼンテーション グループ B 13. プレゼンテーション グループ C 14. プレゼンテーション グループ D	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	新聞や関連文献から各産業の最近の動向を事前に調べておくこと。講義内容の復習。		
テキスト	適宜個別資料を配布する。		
参考文献	『急変する世界下のエンプロイアビリティ-豊富な事例から導くキャリア形成のヒント』（丸善プラネット）		
評価方法	受講姿勢、発言、講義参画 70%、プレゼンテーションとレポート 30%。		

13 年度以降	交流文化論（オルタナティブ・ツーリズム論）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
オルタナティブ・ツーリズムとは、観光の大衆化（マス・ツーリズム）がもたらす様々な弊害(生活文化の形骸化や自然環境の破壊、新植民地主義等)を克服するために登場した新たな観光開発の理念です。本講義ではまず、オルタナティブ・ツーリズムが生まれた歴史的・社会的背景について概説します。その上で、エコツーリズムやコミュニティ・ベース・ツーリズム、場所性を取り入れたリゾートなど、オルタナティブな観光実践の諸事例を、文化人類学的・社会学的視点から検討し、その可能性について考えます。 本講義では、出来る限り実際の観光の現場で生じている個別具体的な事例から、観光の問題と可能性について考えてみたいと思います。その際に扱う事例としては、東南アジアをはじめとする「第三世界」や、先住民族や少数民族などの「第四世界」的状況の事例が中心となります。		- 趣旨説明 - ビデオ上映（ジャマイカの観光開発） - 場所性の商品化—アマンリゾートの戦略 - 環境主義の商品化—エコリゾート - 世界遺産と観光1—ラオス・ルアンパバン の事例 - 世界遺産と観光2—中国・麗江の事例 - 貧困の商品化—都市貧困とツーリズム - バックパッカーの歴史と現状 - 先住民とアート—北米インディアン の事例 - 先住民とミュージアム—アイヌの事例 - エコツーリズムと先住民1—環境主義とは何か - エコツーリズムと先住民2—持続可能な開発とは何か - コミュニティ・ベース・ツーリズム—タイの事例 - 現代日本における農山村の再編と観光	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	『観光学キーワード』『よくわかる観光社会学』などで、観光研究についての基本的知識について理解を深めておくこと。		
テキスト	特に定めない。		
参考文献	『観光学キーワード』（有斐閣）、『よくわかる観光社会学』（ミネルヴァ書房）等。		
評価方法	授業毎の小レポート（30%）、期末レポート（70%）。ただし、4 回以上の欠席で単位認定の条件を失う。		

13 年度以降	交流文化論（ツーリズム特殊講義 （ツーリズム・メディア論））	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、ツーリズムとメディアが取り結ぶ多様な関係を、さまざまな事例から考えます。その目的は、多くの人々が「観光（ツーリズム）」という形での移動（モビリティ）を実行することで、きっと体験できるだろうと想像する「観光的現実」が、どのように生まれるのかを理解することにあります。 「観光的現実」とは、単に観光者と観光地の人々が共有するイメージ（疑似イベント）には留まりません。ときに「観光まちづくり」や「観光くにつくり（観光立国）」のシンボルにもなります。また「観光的現実」は必ずしも経済的発展や地域再生などに役立つばかりではなく、その逆に観光者や観光地の人々を対立させ、歴史や文化を根本から造り替えたりすることがあります。 ここでは担当者が研究しているグアム、観光ガイドブック、映画観光などの具体的な事例を解説することで、ツーリズムとメディアの節合（アーティキュレーション）から生じる「観光的現実」の特性とメカニズムを検討します。		1. ガイダンス：メディアとツーリズムが取り結ぶ関係 2. グアムから考える①：かつてグアムは日本の島だった 3. グアムから考える②：ツーリズムとメディアの「節合」 4. グアムから考える③：「日本人の楽園」が埋立てた記憶 5. 理論編①：「疑似イベント論」をアップデートする 6. ツーリズム・メディア史①：近代の観光ガイドブック 7. ツーリズム・メディア史②：ミシュランと自動車文化 8. ツーリズム・メディア史③：「地球の歩き方」と若者 9. 理論編②：真正性とアーティキュレーション 10. メディア・ツーリズム①：観光地とメディア 11. メディア・ツーリズム②：映画観光の特徴 12. メディア・ツーリズム③：「歴史」と「記憶」の観光資源化 13. 理論編③：複製技術時代の真正性と観光 14. 理論編④：メディア・ツーリズムのメカニズム	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めてください。		
テキスト	各回講義で適宜提示します。		
参考文献	各回講義で適宜提示します。		
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。		

外国語学部共通科目シラバス

13 年度以降	総合講座	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
モビリティの世紀：文化、メディア、ツーリズム 年間で12億人もの人々が国境を超える今日、「移動」は重要なキーワードです。テレビや新聞では観光者をはじめ、移民や難民など、さまざまなツーリスト（移動者）たちのニュースを連日、目にします。そうしたヒトの移動に加え、モノや情報（コト）の移動を考慮すれば、21世紀は「移動（モビリティ）の世紀」といえます。 この総合講座では、モビリティという切り口から、われわれの社会と文化の特徴を考えます。 各回のテーマは21世紀の最新状況に限定せず、またモビリティと深い関わりをもつメディアや文化現象にも着目し、現代に至るまでの歴史や、さまざまな時代や地域の「モビリティ」を取り上げることで、多様な事例から「モビリティ」の世紀の課題と可能性を考えるための知見を学びます。		1. 4/10 ガイダンス：モビリティとは何か？（山口誠） 2. 4/17 モビリティが作り出す文化：タイ国プーケットを事例に（須永和博） 3. 4/24 表象のモビリティ（柿田秀樹） 4. 5/8 移動・観光からみる民俗芸能（鈴木涼太郎） 5. 5/15 移民社会日本のチャレンジ（高橋雄一郎） 6. 5/22 カレーのジャングルをめぐる（藤田朋久） 7. 5/29 ことばの移動（田中善英） 8. 6/5 留学しない留学：トランスナショナル教育の可能性と課題（工藤和宏） 9. 6/12 18世紀のシェイクスピア・ツーリズム（前沢浩子） 10. 6/19 アフリカにおけるヒトのモビリティ：ディアスポラの役割（佐野康子） 11. 6/26 ドイツと移民：その歴史的展開（古田善文） 12. 7/3 グローバル化・ツーリズムと異文化間コミュニケーション（マティアス・ビティヒ） 13. 7/10 モビリティと環境（岡村りら） 14. 7/17 まとめ（山口誠）	
到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めてください。		
テキスト	各回講義で適宜提示します。		
参考文献	各回講義で適宜提示します。		
評価方法	各講義後コメントペーパーを試験解答として提出するため、出席と講義の内容の復習が不可欠である。 75 分の講義の後、担当の先生の各テーマについて 15 分ほどのテストを毎回行う。このテストをもとに成績を評価する。		

13 年度以降	総合講座	担当者	堀 芳枝
講義目的、講義概要		授業計画	
今期のテーマは「私たちの暮らしとジェンダー」とする。 ジェンダーとは生物学的に分類された男性や女性ではなく、その国家や地域の歴史や社会、文化によって規定される「男らしさ」、「女らしさ」である（今日では生物学的に分類された男性・女性（セックス）もまた、文化によって構築されたという議論もあるが）。このジェンダー観やジェンダー規範は、政治や経済、そして私たちの暮らしにどのような影響を与えているのだろうか。今日ジェンダーに関する研究は、文学や社会学、人類学、政治学や経済学、国際関係論にまでおよんでいる。また、今年の #Me too 運動のように、世界では様々なムーブメントも起こっている。そこで、本講義ではさまざまな分野の研究者だけでなく、国際協力の現場で活躍している NGO スタッフからも招き、いろいろな角度からジェンダーについての講義を行うこととする。		1. ガイダンス 2. 平成の日本経済、労働、結婚、家族の変容（堀芳枝） 3. デート DV について考えよう（粕淵一） 4. 世界の難民問題とジェンダー（UNHCR 協会・滝澤三郎） 5. 東チモールのフェアトレードと女たち（NGO/野川未央） 6. グローバルアジェンダとしての女性の権利の問題（水本義彦） 7. ボーヴォワールの女性論 —『第二の性』、サルトルとの関係から考える（根本昭英） 8. 昔話とジェンダー（渡部重美） 9. 妊娠中絶について考える：文学研究の立場から（片山亜紀） 10. Family, Life, Work and Being a Woman: What Does It Take?（英語）（本橋エレン） 11. ドイツ近代史とジェンダー（伊豆田俊輔） 12. 19 世紀フランスの女性像—経済史と美術史の観点から（廣田愛理・阿部明日香） 13. ジェンダー福袋（上野直子） 14. 男性ヌードの神話（青山愛香）	
到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布プリントや授業内で紹介された参考文献をもとに、自分が関心をもった点について調べて理解を深める。		
テキスト	授業で指示します。		
参考文献	授業で指示します。		
評価方法	期末テストは行わず、毎回提出するコメントペーパー（1 回 10 点）とし、最終的に 14 回分を 100 点に換算して評価することとする。		

13 年度以降	総合講座	担当者	永本 哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義の主な目的は、古代から中世までのキリスト教と社会の関係を概観することにあります。ユダヤ教の影響を受けて中東で生まれたキリスト教は、その後地中海地方全域へと広がっていきました。中世を通じてヨーロッパもまた、次第にキリスト教化されていきます。 政教分離も信教の自由もまだ実現していなかった前近代社会において、宗教は、政治や文化など社会の全域に大きな影響を及ぼしていました。そのため、ヨーロッパの歴史、文化、社会を理解するためには、キリスト教に関する知識が必要不可欠だと言えるでしょう。 本講義では、キリスト教が、いかに生まれ、広がり、変質し、地中海世界、そしてヨーロッパの社会を大きく変えていったかを学んでいきます。		1. 講義の概要 2. キリスト教とはどのような宗教か？ 3. ユダヤ教 4. 史的イエス 5. 使徒たちの宣教 6. 聖書 7. キリスト教の広がり 8. 古代末期のキリスト教と社会 9. 初期中世の教会と国家 10. カトリックと正教会の分裂 11. 修道院 12. 教会改革 13. 教会と生活 14. 中世のまとめ	
到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	参考文献の該当箇所を事前に精読しておいてください。また、授業中に配付するプリントを用いて、復習を行ってください。凡そ 4 時間分の学修時間になります。		
テキスト	テキストは使用せず。		
参考文献	松本宣郎編『キリスト教の歴史 1 初期キリスト教～宗教改革』山川出版社、2009 年		
評価方法	定期試験 100%		

13 年度以降	総合講座	担当者	有信 真美菜
講義目的、講義概要		授業計画	
「ヨーロッパ」はどのようにして形成されたか 現在のヨーロッパにあるもの（大学、言語、「ヨーロッパらしい」町並み、今のヨーロッパ諸国）の多くが、おそらく多くの人が学ぶ機会のなかった中世に作られています。この講義では、一般に「ヨーロッパ的なもの」として知られているものが、いつどのようにして出来たのかを、歴史をたどってテーマごとに話していきます。「歴史」と聞くと、中学・高校の退屈な歴史の授業を思い出すかもしれませんが、外国に旅行に行った際、ガイドブックに書いてあるその町や古い建物の歴史は興味を持って楽しく読むと思います。そのような話をする予定です。ここでは、簡単に読める概説書を参考文献で挙げておきます。各テーマに関する文献は、授業時に提示します。		1. ガイダンス 2. EU以前のヨーロッパ「統合」ーヨーロッパ前史ー 3. ヨーロッパ史のイメージファッションの変遷ー 4. ヨーロッパの街並みはいつできたのか 5. 流行先進国はどこか 6. 昔の題材にのっとってーヴァーグナーのオペラー 7. 歴史と文学 8. どこで何語が話されたか1（古代～中近世） 9. どこで何語が話されたか2（近世～現代） 10. 中世の残滓ーギリシャ語とラテン語ー 11. 食文化とテーブルマナー 12. 海外で働くーハンザ都市と貿易ー 13. まとめ 14. 質疑、授業内試験	
到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業の内容を復習し、必要に応じて参考文献を読んで下さい。		
テキスト	プリントを配布します。		
参考文献	服部良久（他）編『大学で学ぶ西洋史[古代・中世]』（ミネルヴァ書房、2006 年）		
評価方法	授業内試験 70%、授業への参加 30%（最低 3 分の 2 以上要出席）		

13 年度以降	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。 本講義では、(1) コンピュータと情報処理に関する基礎知識 (2) コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み (3) コンピュータによる多言語処理の技術と応用方法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。 本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。		1. 講義の概要と目標、情報のデジタル化 2. オペレーティングシステムとは 3. データ構造入門 4. アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 5. プログラミング言語入門 6. コンピュータ・ハードウェア 7. 言葉と言語処理の仕組み 8. 言語処理のための構文解析と言語資源 9. 言葉の意味解析と知識表現 10. 情報検索における言語処理 11. 質問応答システムと対話システム 12. 機械翻訳の原理 13. 講義のまとめ（前半部分の復習） 14. 講義のまとめ（後半部分の復習と演習課題の提出）	
到達目標	コンピュータの基礎理論およびコンピュータ言語に関する知識を習得し、コンピュータの基本的操作ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	サーバー上に開示するテキストの指定される内容を予習し、前回出される課題を次回に提出します。		
テキスト	使用しません。		
参考文献	随時紹介します。		
評価方法	定期試験の成績 60%、課題の完成度 30%、授業への参加度 10%を併せて評価します。		

13 年度以降	[入門] 情報科学各論（情報処理演習）[総合]	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、1 人 1 台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用] 科目を履修できる。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word：簡単な書式設定など 4. Word：応用的な書式設定など 5. Word：レイアウト関係の設定など 6. インターネットの活用法：情報検索方法など 7. インターネットの活用法：ネットのマナーなど 8. Excel：基本操作など 9. Excel：簡単な作表など 10. Excel：複雑な作表、計算など 11. PowerPoint：基本操作など 12. PowerPoint：資料の作成など 13. PowerPoint：発表 14. まとめ	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト	適宜指示する。		
参考文献	適宜指示する。		
評価方法	課題等の平常点：100%		

13 年度以降	[入門] 情報科学各論（情報処理演習）[総合]	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、1 人 1 台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用] 科目を履修できる。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word：簡単な書式設定など 4. Word：応用的な書式設定など 5. Word：レイアウト関係の設定など 6. インターネットの活用法：情報検索方法など 7. インターネットの活用法：ネットのマナーなど 8. Excel：基本操作など 9. Excel：簡単な作表など 10. Excel：複雑な作表、計算など 11. PowerPoint：基本操作など 12. PowerPoint：資料の作成など 13. PowerPoint：発表 14. まとめ	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト	適宜指示する。		
参考文献	適宜指示する。		
評価方法	課題等の平常点：100%		

13 年度以降	[入門] 情報科学各論（情報処理演習）[英語]	担当者	黄 海湘
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用] 科目を履修できる。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word：簡単な書式設定など 4. Word：応用的な書式設定など 5. Word：レイアウト関係の設定など 6. インターネットの活用法：情報検索方法など 7. インターネットの活用法：ネットのマナーなど 8. Excel：基本操作など 9. Excel：簡単な作表など 10. Excel：複雑な作表、計算など 11. PowerPoint：基本操作など 12. PowerPoint：資料の作成など 13. PowerPoint：発表 14. まとめ	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト	適宜指示する。		
参考文献	適宜指示する。		
評価方法	題等の平常点：100%		

13 年度以降	[入門] 情報科学各論（情報処理演習）[英語]	担当者	黄 海湘
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用] 科目を履修できる。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word：簡単な書式設定など 4. Word：応用的な書式設定など 5. Word：レイアウト関係の設定など 6. インターネットの活用法：情報検索方法など 7. インターネットの活用法：ネットのマナーなど 8. Excel：基本操作など 9. Excel：簡単な作表など 10. Excel：複雑な作表、計算など 11. PowerPoint：基本操作など 12. PowerPoint：資料の作成など 13. PowerPoint：発表 14. まとめ	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト	適宜指示する。		
参考文献	適宜指示する。		
評価方法	課題等の平常点：100%		

13 年度以降	[入門] 情報科学各論（情報処理演習）[ヨーロッパ言語]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用] 科目を履修できる。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word：簡単な書式設定など 4. Word：応用的な書式設定など 5. Word：レイアウト関係の設定など 6. インターネットの活用法：情報検索方法など 7. インターネットの活用法：ネットのマナーなど 8. Excel：基本操作など 9. Excel：簡単な作表など 10. Excel：複雑な作表、計算など 11. PowerPoint：基本操作など 12. PowerPoint：資料の作成など 13. PowerPoint：発表 14. まとめ	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト	適宜指示する。		
参考文献	適宜指示する。		
評価方法	課題等の平常点：100%		

13 年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習) [ヨーロッパ言語]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用] 科目を履修できる。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word：簡単な書式設定など 4. Word：応用的な書式設定など 5. Word：レイアウト関係の設定など 6. インターネットの活用法：情報検索方法など 7. インターネットの活用法：ネットのマナーなど 8. Excel：基本操作など 9. Excel：簡単な作表など 10. Excel：複雑な作表、計算など 11. PowerPoint：基本操作など 12. PowerPoint：資料の作成など 13. PowerPoint：発表 14. まとめ	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト	適宜指示する。		
参考文献	適宜指示する。		
評価方法	課題等の平常点：100%		

13 年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数とは 6. 基本的な関数 7. 応用的な関数 8. マクロの基礎 9. マクロの利用 10. プレゼンテーション実習 (1) -作成 11. プレゼンテーション実習 (1) -発表 12. プレゼンテーション実習 (2) -作成 13. プレゼンテーション実習 (2) -発表 14. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト	適宜指示する。		
参考文献	適宜指示する。		
評価方法	課題等の平常点：100%		

13 年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数とは 6. 基本的な関数 7. 応用的な関数 8. マクロの基礎 9. マクロの利用 10. プレゼンテーション実習 (1) -作成 11. プレゼンテーション実習 (1) -発表 12. プレゼンテーション実習 (2) -作成 13. プレゼンテーション実習 (2) -発表 14. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト	適宜指示する。		
参考文献	適宜指示する。		
評価方法	課題等の平常点：100%		

13 年度以降	[応用] 情報科学各論（プレゼンテーション中級）	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、実際の発表（質疑応答も含む）を通じて、「わかりやすいプレゼンテーションとは何か」を考えていく半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 なお、課題（演習）が締め切り日までに提出されなかったり、また提出はあっても、発表の準備をしていない場合は、実際の発表ができません。		1. ガイダンス、基本知識と操作の確認 2. プレゼンテーションとは 3. スライドの作成法－入力 4. スライドの作成法－実行、印刷 5. 演習 1：時間の意識 6. 発表－第 1 グループ 7. 発表－第 2 グループ 8. 演習 2：配布資料の利用 9. 発表－第 1 グループ 10. 発表－第 2 グループ 11. 演習 3：「言葉」の定義 12. 発表－第 1 グループ 13. 発表－第 2 グループ 14. まとめ	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回で指示される、課題、復習、準備（予習）等を行うこと。		
テキスト	授業用 Web にて情報の提示や資料等を配布。		
参考文献	随時紹介。		
評価方法	原則として、欠席数が規定回数以内であること。 演習（作成・発表・振り返り）90%、平常点（練習問題等）10%。		

13 年度以降	[応用] 情報科学各論（Word 中級）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組など設定方法 3. 段落、段組、その他書式設定 4. アウトラインに沿った編集方法 5. アウトラインに沿った編集の実践 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用方法 9. 図形の利用の実践 10. 図形の利用および組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との基本的な連携 13. Excel との応用的な連携 14. まとめ	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト	適宜指示する。		
参考文献	適宜指示する。		
評価方法	課題等の平常点：100%		

13 年度以降	[応用] 情報科学各論（Word 中級）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組など設定方法 3. 段落、段組、その他書式設定 4. アウトラインに沿った編集方法 5. アウトラインに沿った編集の実践 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用方法 9. 図形の利用の実践 10. 図形の利用および組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との基本的な連携 13. Excel との応用的な連携 14. まとめ	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト	適宜指示する。		
参考文献	適宜指示する。		
評価方法	課題等の平常点：100%		

13 年度以降	[応用] 情報科学各論（Office 中級）	担当者	松山 恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Office（Word、Excel、PowerPoint）の実践的・統合的な使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とする授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. Word オブジェクトを使った文書の作成 3. Word アウトラインを使った文書の作成 4. Word 長文の作成（Word習熟度の確認） 5. Excel 相対・絶対参照での計算式 6. Excel シート間の作業。グラフの編集 7. Excel 基本関数の利用 8. Excel 応用関数の利用 9. Excel 関数・グラフの習熟度の確認 10. WordとExcel 統合的な使い方 11. PowerPoint 目的に合わせた表現方法 12. PowerPoint テーマに沿ったプレゼン作成 13. PowerPoint プレゼンの発表 14. まとめ Word、Excelの習熟度の復習	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業の内容に合わせた事前・事後学修を指示する。欠席した学生も必ず提出すること。		
テキスト	「情報活用とアカデミック・スキル Office2016」 共立出版		
参考文献	適宜指示する。		
評価方法	3 分の 2 以上の出席をした学生を対象に以下に従い評価を行う。 Word および Excel の習熟度、プレゼン発表 50%、授業内課題 20%、事前・事後課題 30%		

13 年度以降	[HTML] 情報科学各論（HTML 初級）（月 5）	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、実際のWebページの作成を通じて、Webページの仕組みとインターネットにおける情報の発信、著作権等について学んでいく半期完結授業である。 まず、コンピュータとネットワークの基本構成、ファイル・フォルダ・ドライブといったコンピュータに関する基本知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである「WWW（World Wide Web）」における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML（Hyper-Text Markup Language）」を学ぶ。更に自分自身のWebページ（ホームページ）も作成する。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 コンピュータの言語（Language）を習得するには、外国語を習得するのと同様に、「繰り返し（復習）」が極めて重要です。		1. ガイダンス、基本知識と操作の確認 2. Webページとは、情報倫理、著作権 3. 文字中心のページ、リンク 4. 画像 5. 表 6. FTP 7. 課題－表紙（目次） 8. 課題－枠組み（リンク） 9. 小鑑賞会、企画書の作成 10. CSS 11. 総合課題－表紙（目次） 12. 総合課題－枠組み（リンク） 13. 作品紹介のプレゼンテーション 14. 鑑賞会・まとめ	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回で指示される、課題、復習、準備（予習）等を行うこと。		
テキスト	授業用 Web にて情報の提示や資料等を配布。		
参考文献	随時紹介。		
評価方法	原則として、欠席数が規定回数以内であること。 総合課題（作品）40%、平常点（課題、著作権のレポート等）60%。		

13 年度以降	[HTML] 情報科学各論（HTML 初級）（木 4）	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、実際のWebページの作成を通じて、Webページの仕組みとインターネットにおける情報の発信、著作権等について学んでいく半期完結授業である。 まず、コンピュータとネットワークの基本構成、ファイル・フォルダ・ドライブといったコンピュータに関する基本知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである「WWW（World Wide Web）」における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML（Hyper-Text Markup Language）」を学ぶ。更に自分自身のWebページ（ホームページ）も作成する。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 コンピュータの言語（Language）を習得するには、外国語を習得するのと同様に、「繰り返し（復習）」が極めて重要です。		1. ガイダンス、基本知識と操作の確認 2. Webページとは、情報倫理、著作権 3. 文字中心のページ、リンク 4. 画像 5. 表 6. FTP 7. 課題－表紙（目次） 8. 課題－枠組み（リンク） 9. 小鑑賞会、企画書の作成 10. CSS 11. 総合課題－表紙（目次） 12. 総合課題－枠組み（リンク） 13. 作品紹介のプレゼンテーション 14. 鑑賞会・まとめ	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回で指示される、課題、復習、準備（予習）等を行うこと。		
テキスト	授業用 Web にて情報の提示や資料等を配布。		
参考文献	随時紹介。		
評価方法	原則として、欠席数が規定回数以内であること。 総合課題（作品）40%、平常点（課題、著作権のレポート等）60%。		

13 年度以降	[HTML] 情報科学各論（HTML 中級）	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、「情報科学各論（HTML初級）」の次に位置する中級科目である。コンピュータやインターネットの基礎知識、及び「HTMLを用いたWebページ作成技術」を習得した人（FTPの理解を含む）を対象に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページの作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。 まず、コンピュータとネットワーク（インターネット）の基礎知識の確認、及びHTML、FTPなどの復習を行う。次にJavaScriptやCGIプログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。 受講上の注意：授業内容や評価方法等を詳しく説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。原則として、HTML初級を履修済みであること。プログラミングの授業なので、特に欠席や遅刻はしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 抽象度が高いので、準備と復習をしっかり行い、こまめにメモを取ることが必須です。		1. ガイダンス 2. HTMLとFTPの復習 3. インタラクティブなページとは 4. プログラミングの基礎知識 5. JavaScript－順次 6. JavaScript－選択 7. JavaScript－繰り返し 8. JavaScript－イベントハンドラ 9. JavaScript－画像の切り替え 10. CGIの利用 11. 総合課題－表紙（目次） 12. 総合課題－枠組み（リンク） 13. 総合課題－JSの活用 14. 鑑賞会・まとめ	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回で指示される、課題、復習、準備（予習）等を行うこと。		
テキスト	授業用 Web にて情報の提示や資料等を配布。		
参考文献	随時紹介。		
評価方法	原則として、欠席数が規定回数以内であること。 総合課題（作品）70%、平常点（課題等）30%。		

シラバス フランス語学科

2019年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電 話 048-946-1656



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	